

第1章

一般高齡者 調査

1. 調査の概要

(1) 目的

65歳以上の住民における健康や生活の状況と問題点、医療・介護・福祉等に関するニーズ、地域環境、介護保険制度に対する評価等を把握し、日常生活圏域や対象者の属性ごとに特徴と課題を探ることを目的とする。加えて、市の施策への要望についても把握する。

(2) 調査対象者

平成28（2016）年9月1日時点で三鷹市在住の65歳以上住民39,707人のうち、特別養護老人ホーム入居者等を除外した後、無作為に1割相当数を抽出した3,956人を対象とした。

(3) 調査方法

郵送により調査票の配布・回収を行った。調査票の回答・記入は、原則、対象となった高齢者本人であるが、健康上の理由等により本人が回答できない場合は、家族等に代理での回答・記入を依頼した。

(4) 実施期間

平成28（2016）年9月2日～9月30日（12月末までの返送分は回収に含めた）

(5) 回収状況

有効回収数： 2,698票 （回収率 68.2%）

【集計を見る際の注意事項】

回答比率は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合がある。

2. 回答者の属性^{注)}

- 調査回答者の属性を表1-2-1～表1-2-9に示した（注：調査対象者の代わりに別の人が代理で回答している場合は、本来の調査対象者の属性を示している）。
- 男女比は、男性44.4%、女性55.3%であった。
- 年齢階級は、「65～74歳」が49.4%、「75歳以上」50.2%であった。
- 要介護認定は、13.8%の人が認定を受けていた。
- 世帯構成は、「単身世帯」が16.6%、「夫婦二世帯」が38.4%で、55%が高齢者の1人または2人暮らしであった。
- 住居は、「一戸建ての持家」に居住している人が最も多かった（61.8%）。
- 日常生活圏域は、下連雀、上連雀地域の人が多かった。
- 所得段階は、「第1段階」が16.1%と最も多く、次いで「第4段階」15.6%、「第7段階」11.5%、「第8段階」11.0%という状況であった。
- 性・年齢階級、要介護認定者、世帯構成、日常生活圏域、住居形態、学歴は、平成25年度の調査結果とほぼ同程度であった（所得段階は、平成25年度とは分類形態が異なるため比較できない）。

表1-2-1 性別

男性	女性	不明	総数
1,198 (44.4%)	1,491 (55.3%)	9 (0.3%)	2,698 (100.0%)

表1-2-2 年齢階級

65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～90歳	90歳以上	不明	総数
713 (26.4%)	620 (23.0%)	565 (20.9%)	428 (15.9%)	222 (8.2%)	141 (5.2%)	9 (0.3%)	2,698 (100.0%)

表1-2-3 性別・年齢階級別構成

	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～90歳	90歳以上	総数
男性	350 (29.2%)	279 (23.3%)	219 (18.3%)	193 (16.1%)	109 (9.1%)	48 (4.0%)	1,198 (100.0%)
女性	363 (24.3%)	341 (22.9%)	346 (23.2%)	235 (15.8%)	113 (7.6%)	93 (6.2%)	1,491 (100.0%)
総数	713 (26.5%)	620 (23.1%)	565 (21.0%)	428 (15.9%)	222 (8.3%)	141 (5.2%)	2,689 (100.0%)

注) 性、年齢の不明者は除外。

表1-2-4 要介護認定の状況

認定なし	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	不明	総数
2,317 (85.9%)	81 (3.0%)	63 (2.3%)	89 (3.3%)	61 (2.3%)	30 (1.1%)	24 (0.9%)	24 (0.9%)	9 (0.3%)	2,698 (100.0%)

表1-2-5 世帯構成

単身世帯	夫婦二人世帯	二世帯 (子と同居)	三世帯 (子・孫と同居)	その他	不明	総数
448 (16.6%)	1,035 (38.4%)	783 (29.0%)	197 (7.3%)	171 (6.3%)	64 (2.4%)	2,698 (100.0%)

表1-2-6 日常生活圏域

下連雀1-4 上連雀1-5	下連雀5-9 上連雀6-9 野崎1	井の頭	牟礼 北野 新川2-3	新川1,4-6 中原	野崎2-4 井口 深大寺	大沢	不明	総数
561 (20.8%)	479 (17.8%)	253 (9.4%)	400 (14.8%)	445 (16.5%)	345 (12.8%)	201 (7.4%)	14 (0.5%)	2,698 (100.0%)

表1-2-7 住居形態

持家 (一戸建て)	持家 (分譲住宅)	民間賃貸 マンション	民間賃貸 アパート	都営・ 市営住宅	その他	不明	総数
1,667 (61.8%)	334 (12.4%)	199 (7.4%)	144 (5.3%)	203 (7.5%)	51 (1.9%)	100 (3.7%)	2,698 (100.0%)

表1-2-8 所得段階

1段階	2段階	3段階	4段階	5段階	6段階	7段階	8段階
435 (16.1%)	147 (5.4%)	137 (5.1%)	421 (15.6%)	257 (9.5%)	262 (9.7%)	310 (11.5%)	298 (11.0%)
9段階	10段階	11段階	12段階	13段階	14段階	不明	総数
159 (5.9%)	105 (3.9%)	56 (2.1%)	24 (0.9%)	31 (1.1%)	47 (1.7%)	9 (0.3%)	2,698 (100.0%)

注) 所得段階の詳細については226ページを参照。

表1-2-9 最終学歴

中学校	高校	専門・ 専修学校	短大・ 高専	大学・ 大学院	その他	不明	総数
360 (13.3%)	950 (35.2%)	183 (6.8%)	240 (8.9%)	797 (29.5%)	10 (0.4%)	158 (5.9%)	2,698 (100.0%)

3. 健康状態

1) 健康度自己評価

- 健康度自己評価は、「良い」「まあ良い」と肯定的な回答が 40.6%、「普通」が 38.2%、「あまり良くない」「良くない」と否定的な回答が 20.2%であった。平成 22 年と 25 年の調査ではそれぞれ「良い」「まあ良い」が 40.8%と 31.1%、「普通」が 37.2%と 42.0%、「あまり良くない」「良くない」が 20.8%と 25.5%であったので、健康度自己評価は 3 年前には若干低下したものの、今回は 6 年前と同程度となっていた。
- 肯定的な回答（良い・まあ良い）は、「男性」42.7%、「女性」38.9%で、女性の方が健康度自己評価は低い傾向が見られた。
- 高齢になるほど健康度自己評価は低下し、「65～69 歳」では肯定的な回答は 50.4%であったものの、「85 歳以上」の人では 22.3%まで下がっていた。
- 日常生活圏域別では、肯定的な回答の割合が最も高かったのは「下連雀 1-4、上連雀 1-5」の 44.7%であり、次いで「井の頭」の 43.8%であった。他方、肯定的な回答の割合が低かったのは「牟礼、北野、新川 2～3 丁目」37.5%と「新川 1・4～6 丁目、中原」36.4%であった。
- 所得段階が低いほど肯定的な回答は低下し、「第 8 段階以上」の人では肯定的な回答が 51.5%であったのに対して、「第 1～3 段階」の人では 29.6%と、格差が大きかった。
- 住居形態別では、「持家」の人では肯定的な回答が 43.4%であったのに対して、「公営住宅」の居住者では 24.7%と少なかった。
- 世帯構成別では、「単身世帯」と「子と同居」の二世帯世帯で低く、肯定的な回答の割合がそれぞれ 35.7%と 35.5%で、夫婦世帯や三世代で暮らしている世帯、その他の世帯よりも健康度自己評価が低い傾向が見られた。なお、「その他」の世帯には有料老人ホームなどの施設入居者が含まれている。

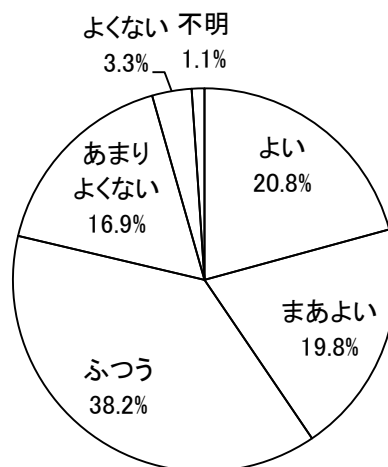


図1-3-1 健康度自己評価

表 1-3-1 健康度自己評価

		人数	良い	まあ良い	ふつう	あまり 良くない	良くない	不明
総数		2,698	20.8%	19.8%	38.2%	16.9%	3.3%	1.1%
性別	男性	1,198	21.3%	21.4%	36.4%	16.5%	3.3%	1.1%
	女性	1,491	20.4%	18.5%	39.6%	17.2%	3.2%	1.1%
年齢階級	65～69歳	713	28.1%	22.3%	38.1%	9.0%	2.0%	0.6%
	70～74歳	620	23.7%	20.5%	38.4%	14.7%	1.6%	1.1%
	75～79歳	565	21.1%	21.4%	37.2%	17.2%	2.3%	0.9%
	80～84歳	428	14.3%	17.8%	39.0%	21.5%	6.1%	1.4%
	85歳以上	363	8.8%	13.5%	38.6%	30.3%	6.9%	1.9%
認定状況	自立	2,317	23.4%	21.6%	39.9%	12.6%	1.6%	0.9%
	要支援 1・2	144	3.5%	11.1%	23.6%	46.5%	12.5%	2.8%
	要介護 1・2	150	4.7%	8.0%	28.7%	43.3%	12.7%	2.7%
	要介護 3～5	78	6.4%	3.8%	32.1%	39.7%	17.9%	0.0%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	23.7%	21.0%	35.5%	14.6%	3.4%	1.8%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	18.6%	20.3%	38.8%	19.2%	2.5%	0.6%
	井の頭	253	22.5%	21.3%	34.0%	17.4%	3.6%	1.2%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	21.0%	16.5%	42.3%	15.3%	4.8%	0.3%
	新川 1、4-6、中原	445	18.2%	18.2%	40.2%	19.6%	2.7%	1.1%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	21.7%	21.4%	36.8%	14.8%	3.5%	1.7%
	大沢	201	18.9%	20.4%	39.3%	18.4%	2.5%	0.5%
所得段階	第1～3段階	719	15.0%	14.6%	39.1%	24.6%	4.7%	1.9%
	第4～5段階	678	20.6%	17.7%	42.2%	14.7%	3.8%	0.9%
	第6～7段階	572	21.0%	22.2%	40.0%	14.5%	1.6%	0.7%
	第8～14段階	720	26.5%	25.0%	32.1%	13.1%	2.6%	0.7%
住居形態	持家	2,001	22.6%	20.8%	37.4%	15.3%	2.8%	1.0%
	借家	343	20.1%	15.5%	39.7%	19.8%	3.5%	1.5%
	公営住宅	203	8.4%	16.3%	42.4%	25.1%	5.9%	2.0%
	その他	51	11.8%	21.6%	39.2%	21.6%	5.9%	0.0%
世帯構成	単身世帯	448	17.2%	18.5%	36.2%	24.1%	2.2%	1.8%
	夫婦二人世帯	1,035	22.4%	23.6%	35.7%	14.4%	3.3%	0.7%
	子と同居	783	19.4%	16.1%	42.4%	17.4%	3.6%	1.1%
	子・孫と同居	197	24.9%	18.8%	35.0%	15.2%	4.1%	2.0%
	その他	171	24.6%	21.1%	39.2%	14.0%	1.2%	0.0%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

2) 移動能力/手段的日常生活動作能力

- 「歩行」「階段」といった移動動作に援助を要するか（移動能力）について質問した。その結果、援助を要する人（「できない」と回答）の割合は、「歩行」10.6%、「階段」5.6%であった。
- 手段的日常生活動作（IADL）能力について質問した結果、援助を要する人の割合が最も高かったのは、「食事の用意」（9.0%が「できない」と回答）であった。
- 移動能力では男性よりも女性の方が援助を要する人の割合が高かった。IADLでは「食事の用意」「請求書の支払い」「預貯金の出し入れ」の3項目で、女性よりも男性の方が援助を要する人の割合が高かった。
- 年齢階級別では、高齢になるほど移動、IADLに援助を要する割合が増加し、特に85歳以上では急増していた。
- 認定状況別では、認定状況が重くなるほど、移動、IADLに援助を要する人の割合が高かった。移動能力については、要介護認定を受けていない人に比べ、認定者で援助を要する人の割合が急増していた。IADLでは、要支援、要介護認定者ともに「外出」に援助を要する人の割合が最も高かった。要介護3以上の人では、すべてのIADL項目で、ほとんどの人が援助を要する状況であった。
- 日常生活圏域別では、「下連雀5-9、上連雀6-9、野崎1」は総じて援助を要する人の割合が低い傾向が見られた。
- 所得段階が「第1～3段階」の人や住居形態が「その他（施設等の入居者が多く含まれる）」の人で、援助を要する人の割合が高かった。
- 世帯構成別では、「歩行」は「単身世帯」「子・孫と同居」の人で援助を要する人の割合が高く、「歩行」以外では「その他」の世帯構成の人で援助を要する人の割合が高かった。

表1-3-2 移動能力

	人数	不自由なくできる	できるが難儀する	できない	不明
歩行	2,698	70.0%	18.2%	10.6%	1.3%
階段	2,698	69.9%	23.7%	5.6%	0.8%

表1-3-3 手段的日常生活動作能力（IADL障害の程度）

	人数	している	できるけどしていない	できない	不明
バスや電車を使って1人で外出	2,698	85.7%	5.2%	8.6%	0.5%
日用品の買い物をする	2,698	85.5%	6.3%	7.6%	0.6%
自分で食事の用意をする	2,698	68.9%	21.2%	9.0%	0.9%
請求書の支払いをする	2,698	83.1%	10.0%	6.0%	0.9%
預貯金の出し入れをする	2,698	82.8%	10.3%	6.4%	0.5%

表 1-3-4 歩行・階段に援助を要する人の割合

		人数	歩行	階段
総数		2,698	10.6%	5.6%
性別	男性	1,198	9.4%	4.8%
	女性	1,491	11.4%	6.2%
年齢階級	65～69歳	713	2.2%	0.8%
	70～74歳	620	4.0%	1.5%
	75～79歳	565	5.8%	3.5%
	80～84歳	428	18.0%	7.5%
	85歳以上	363	36.4%	22.9%
認定状況	認定なし	2,317	3.5%	1.0%
	要支援 1・2	144	31.9%	10.4%
	要介護 1・2	150	59.3%	36.0%
	要介護 3～5	78	84.6%	73.1%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	10.2%	5.2%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	6.9%	4.6%
	井の頭	253	9.9%	5.5%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	11.3%	7.0%
	新川 1、4-6、中原	445	13.3%	5.8%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	12.2%	6.4%
	大沢	201	10.9%	4.5%
所得段階	第 1～3 段階	719	18.8%	10.8%
	第 4～5 段階	678	8.7%	3.7%
	第 6～7 段階	572	6.5%	3.3%
	第 8～14 段階	720	7.2%	3.9%
住居形態	持家	2,001	9.3%	4.3%
	借家	343	8.7%	5.2%
	公営住宅	203	17.2%	10.3%
	その他	51	35.3%	29.4%
世帯構成	単身世帯	448	12.1%	3.8%
	夫婦二世帯	1,035	7.7%	3.3%
	子と同居	783	11.6%	6.9%
	子・孫と同居	197	12.7%	7.1%
	その他	171	9.9%	9.4%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

表 1-3-5 手段的日常生活動作 (IADL) に援助を要する人の割合

		人数	一人で 外出	買い物	食事の 用意	請求書 支払い	預貯金 出入
総数		2,698	8.6%	7.6%	9.0%	6.0%	6.4%
性別	男性	1,198	7.7%	7.0%	12.4%	6.3%	6.8%
	女性	1,491	9.2%	8.0%	6.3%	5.7%	6.1%
年齢階級	65～69 歳	713	1.3%	0.8%	2.0%	1.0%	1.4%
	70～74 歳	620	2.7%	2.4%	4.7%	1.6%	2.1%
	75～79 歳	565	5.8%	5.3%	6.7%	4.1%	4.8%
	80～84 歳	428	11.9%	10.0%	12.6%	7.0%	6.5%
	85 歳以上	363	32.8%	30.0%	29.8%	25.1%	26.2%
認定状況	認定なし	2,317	1.8%	1.4%	3.4%	1.2%	1.6%
	要支援 1・2	144	19.4%	16.0%	11.8%	6.9%	6.9%
	要介護 1・2	150	60.7%	55.3%	54.0%	38.7%	42.0%
	要介護 3～5	78	87.2%	82.1%	85.9%	83.3%	80.8%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	8.7%	7.8%	9.4%	5.5%	6.2%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	5.6%	5.4%	8.1%	4.8%	5.0%
	井の頭	253	9.1%	6.7%	8.3%	5.9%	7.5%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	8.8%	8.5%	9.3%	7.3%	7.3%
	新川 1、4-6、中原	445	9.7%	8.3%	9.7%	6.7%	8.1%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	9.6%	8.7%	10.1%	5.8%	5.5%
	大沢	201	9.5%	7.5%	7.5%	6.5%	5.5%
所得段階	第 1～3 段階	719	14.7%	12.9%	12.7%	10.2%	10.7%
	第 4～5 段階	678	7.5%	6.0%	4.9%	4.4%	5.3%
	第 6～7 段階	572	5.4%	4.9%	7.0%	4.0%	4.2%
	第 8～14 段階	720	5.7%	5.7%	11.0%	4.9%	5.0%
住居形態	持家	2,001	7.1%	6.4%	7.9%	4.9%	5.4%
	借家	343	7.0%	5.8%	8.2%	4.4%	5.0%
	公営住宅	203	13.3%	12.3%	10.8%	8.4%	9.9%
	その他	51	43.1%	37.3%	39.2%	31.4%	29.4%
世帯構成	単身世帯	448	6.5%	5.4%	3.3%	2.5%	2.9%
	夫婦二人世帯	1,035	5.6%	5.2%	7.7%	3.9%	4.4%
	子と同居	783	10.3%	9.2%	10.2%	6.8%	7.8%
	子・孫と同居	197	12.2%	10.2%	12.7%	11.2%	10.2%
	その他	171	12.3%	11.1%	15.8%	11.1%	11.1%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

3) 認知機能障害

- 認知機能障害の程度を CPS(Cognitive Performance Scale) という指標に準じた設問で評価した結果、「認知機能障害なし」72.1%、「境界的」17.0%、「軽度」5.2%、「中等度以上」4.2%という状況であった。これは平成25年の調査と同程度であった（障害なし：74.7%、境界的：15.1%、軽度：4.1%、中等度以上：4.8%）。
- 男女で大きな差はなかった。
- 高齢になるほど認知機能障害を有する割合は増加し、85歳以上では15.2%が「中等度以上」の認知機能障害を有していた。
- 要介護度が重くなるに従って認知機能障害の割合は急増し、要介護3～5の人では51.3%が「中等度以上」の認知機能障害を有していた。
- 日常生活圏域別では、「井の頭」で認知機能障害を有する者の割合が低い傾向が見られた。
- 所得段階が「第1～3段階」の人や住居形態が「その他（施設等の入居者が多く含まれる）」の人で、認知機能障害を有する者の割合が高かった。
- 世帯構成別では、「子・孫と同居」の世帯構成の人で認知機能障害を有する者の割合が高く、「単身世帯」や「夫婦世帯」では低かった。

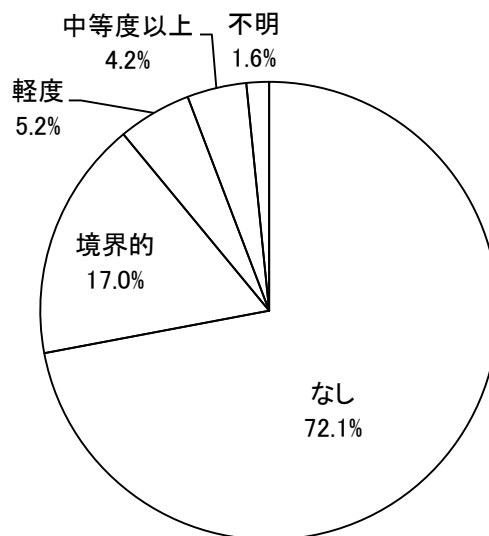


図 1-3-2 認知機能障害（CPS 指標）

注) 厚生労働省. 平成22年10月. 「日常生活圏域ニーズ調査 モデル事業・結果報告書」

<http://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/dl/tp101027-01c.pdf>

表 1-3-6 認知機能障害（CPS 指標）

		人数	なし	境界的	軽度	中等度以上	不明
総数		2,698	72.1%	17.0%	5.2%	4.2%	1.6%
性別	男性	1,198	69.8%	17.8%	5.5%	5.0%	1.9%
	女性	1,491	74.0%	16.2%	4.8%	3.6%	1.3%
年齢階級	65～69 歳	713	83.5%	12.3%	1.7%	1.4%	1.1%
	70～74 歳	620	78.2%	15.8%	3.1%	2.1%	0.8%
	75～79 歳	565	72.9%	18.6%	5.0%	2.8%	0.7%
	80～84 歳	428	63.6%	20.8%	7.9%	4.7%	3.0%
	85 歳以上	363	48.5%	20.7%	12.4%	15.2%	3.3%
認定状況	認定なし	2,317	77.6%	16.3%	3.5%	1.6%	1.0%
	要支援 1・2	144	56.3%	28.5%	9.7%	4.2%	1.4%
	要介護 1・2	150	36.0%	19.3%	20.7%	20.0%	4.0%
	要介護 3～5	78	10.3%	10.3%	14.1%	51.3%	14.1%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	71.1%	17.8%	4.1%	5.5%	1.4%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	73.7%	17.1%	4.0%	4.2%	1.0%
	井の頭	253	74.3%	16.2%	5.1%	2.4%	2.0%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	69.5%	18.5%	6.3%	3.5%	2.3%
	新川 1、4-6、中原	445	69.7%	18.9%	5.4%	4.3%	1.8%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	74.8%	11.9%	7.5%	4.3%	1.4%
	大沢	201	74.1%	16.4%	4.0%	4.5%	1.0%
所得段階	第 1～3 段階	719	62.9%	20.7%	7.6%	6.3%	2.5%
	第 4～5 段階	678	75.4%	15.8%	4.0%	3.4%	1.5%
	第 6～7 段階	572	72.4%	17.1%	4.9%	4.0%	1.6%
	第 8～14 段階	720	78.2%	14.0%	3.9%	3.2%	0.7%
住居形態	持家	2,001	74.7%	16.4%	4.2%	3.5%	1.2%
	借家	343	69.4%	19.2%	6.1%	4.4%	0.9%
	公営住宅	203	67.5%	14.8%	8.9%	6.9%	2.0%
	その他	51	41.2%	29.4%	7.8%	17.6%	3.9%
世帯構成	単身世帯	448	69.0%	20.5%	6.7%	2.9%	0.9%
	夫婦二人世帯	1,035	76.0%	15.8%	4.3%	3.0%	0.9%
	子と同居	783	71.1%	17.8%	4.9%	4.5%	1.8%
	子・孫と同居	197	71.6%	13.2%	6.1%	8.1%	1.0%
	その他	171	71.3%	17.0%	2.9%	7.6%	1.2%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

4) こころの状態

- 抑うつ傾向を把握する指標として広く用いられているK6という指標を用いて、高齢者の心の状態を調べた。これは得点が高いほど気分・不安障害やうつ傾向が強いことを表し、5点以上は気分・不安障害の一次スクリーニングのカットオフ値とされ、10点以上は「気分障害・不安障害に相当する心理的苦痛を感じている者」である可能性が高いとされている。今回の調査結果では、「0～4点」64.3%、「5～9点」22.5%、「10～14点」8.0%、「15点以上」1.3%、「不明」3.9%という状況であった。問題がないと考えられる「0～4点」の人の割合は、平成25年の調査(70.6%)よりも減少していた。
- 国民生活基礎調査の健康票でもK6を用いており、平成25年の65歳以上の調査結果では「0～4点」66.2%、「5～9点」16.4%、「10～14点」5.7%、「15点以上」1.9%、「不明」9.8%であった^(注)。国民生活基礎調査は三鷹市の調査結果と比べて「5～9点」の割合が若干低い、気分・不安障害の問題がないと考えられる「0～4点」の人の割合は、三鷹市64%、国民生活基礎調査66%で、ほぼ同程度であった。
- 男女で明確な差は見られなかった。
- 高齢になるほど「5点以上」の人の割合が増え、特に80歳以上でその傾向が顕著となり、加齢とともに精神的な問題を有する人が増加する傾向がうかがえた。
- 要介護度が重くなるに従って精神的な問題を有する人の割合は増加し、特に要介護3～5では「15点以上」の人が10%いた。
- 日常生活圏域別では大きな違いはなかった。
- 所得段階が「第1～3段階」の人では精神的な問題を有する人の割合が高かった。
- 「持家」の人では、他の住居形態と比べて精神的な問題を有する人の割合が低かった。
- 「単身世帯」の人では、精神的な問題を有する人の割合が高かった。

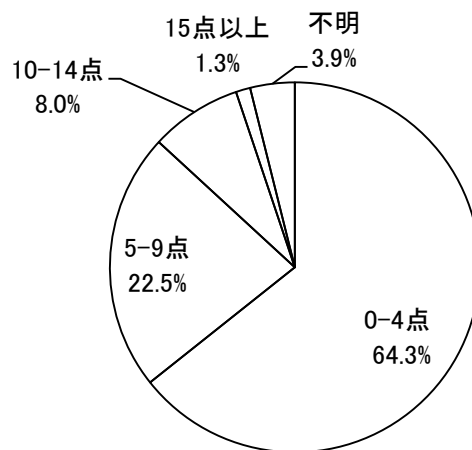


図1-3-3 こころの状態 (K6指標)

注) 厚生労働省. 平成26年7月. 「平成25年国民生活基礎調査の概況」

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa13/index.html>

表 1-3-7 こころの状態 (K6 指標)

		人数	0~4点	5~9点	10~14点	15点以上	不明
総数		2,698	64.3%	22.5%	8.0%	1.3%	3.9%
性別	男性	1,198	65.5%	21.0%	7.9%	1.3%	4.3%
	女性	1,491	63.4%	23.9%	7.9%	1.3%	3.6%
年齢階級	65~69歳	713	71.8%	19.8%	5.6%	0.6%	2.2%
	70~74歳	620	70.2%	20.8%	6.5%	1.0%	1.6%
	75~79歳	565	67.6%	22.1%	7.6%	0.9%	1.8%
	80~84歳	428	55.1%	26.2%	10.5%	1.6%	6.5%
	85歳以上	363	45.5%	27.5%	12.4%	3.3%	11.3%
認定状況	認定なし	2,317	69.3%	21.8%	6.2%	0.4%	2.3%
	要支援 1・2	144	45.8%	28.5%	17.4%	4.2%	4.2%
	要介護 1・2	150	30.0%	32.0%	17.3%	6.7%	14.0%
	要介護 3~5	78	17.9%	16.7%	24.4%	10.3%	30.8%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	64.2%	22.1%	7.0%	2.0%	4.8%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	63.0%	23.6%	8.4%	1.9%	3.1%
	井の頭	253	68.0%	18.2%	8.7%	2.0%	3.2%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	67.0%	19.8%	8.5%	0.8%	4.0%
	新川 1、4-6、中原	445	61.1%	24.9%	8.5%	0.9%	4.5%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	67.5%	22.3%	6.4%	0.6%	3.2%
	大沢	201	58.7%	28.4%	9.0%	0.0%	4.0%
所得段階	第 1~3 段階	719	53.3%	25.5%	13.1%	1.7%	6.5%
	第 4~5 段階	678	67.3%	21.8%	6.6%	1.5%	2.8%
	第 6~7 段階	572	65.4%	23.4%	6.6%	0.7%	3.8%
	第 8~14 段階	720	71.8%	19.7%	5.0%	1.1%	2.4%
住居形態	持家	2,001	67.4%	22.1%	6.5%	0.9%	3.0%
	借家	343	62.1%	24.2%	10.5%	0.9%	2.3%
	公営住宅	203	51.2%	22.7%	16.7%	3.9%	5.4%
	その他	51	45.1%	19.6%	9.8%	5.9%	19.6%
世帯構成	単身世帯	448	54.9%	30.8%	10.7%	1.8%	1.8%
	夫婦二世帯	1,035	68.0%	21.0%	7.1%	0.9%	3.1%
	子と同居	783	65.4%	21.6%	7.9%	1.4%	3.7%
	子・孫と同居	197	67.0%	20.8%	6.6%	2.5%	3.0%
	その他	171	64.9%	20.5%	8.2%	0.6%	5.8%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

5) 低栄養

- BMI (Body Mass Index : 体格指数) という指標を用いて、低栄養傾向の高齢者の割合を調べた。健康日本 21 (第 2 次) では、BMI が 20 以下の高齢者を低栄養傾向と定義し、この割合の増加を抑制することが目標となっている。今回の調査結果では、「BMI が 20 以下」の低栄養傾向の高齢者は 22.6%であった。平成 25 年の調査では 22.0%であったことから、ほぼ同程度であった。
- 国民健康・栄養調査の平成 27 年の結果では、BMI が 20 以下の低栄養傾向の高齢者は 16.7%であった^(注)。健康日本 21 (第 2 次) では、65 歳以上の者のうち BMI20 以下の者の割合を平成 34 年時点で 22%以下とすることが目標として示されているので、三鷹市では既にこの目標の達成が厳しい状況となっている。ただし、今回の BMI は身長と体重を計測して算出したわけではなく、自己申告の身長・体重から算出した BMI なので、正確な数値でない可能性がある。今後、正確な計測値を基に結果を検証する必要がある。
- 男性よりも女性で低栄養傾向の者の割合が高かった。
- 高齢になるほど低栄養傾向の者の割合が増え、85 歳以上では BMI20 以下が 4 分の 1 を占めていた。
- 要介護度が重くなるに従って低栄養傾向の者の割合は増加し、「要介護 1~2」と「要介護 3~5」では約 3 割が BMI20 以下であった。
- 所得段階が「第 8 段階以上」の人では低栄養傾向の者の割合が低かった。
- 住居形態別では、「その他」の人で低栄養傾向の者の割合が高かった。
- 世帯構成別では、「夫婦のみ」の世帯で低栄養傾向の者の割合が低かった。

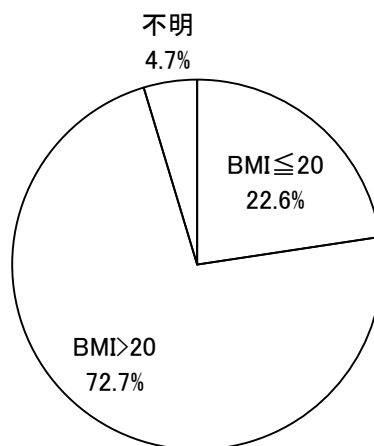


図1-3-4 低栄養傾向の高齢者 (BMI≤20)

注) 厚生労働省. 平成 27 年 11 月. 「平成 25 年 国民健康・栄養調査」の結果

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000142359.html>

表 1-3-8 低栄養傾向の高齢者の割合 (BMI≤20)

		人数	BMI≤20	BMI>20	不明
総数		2,698	22.6%	72.7%	4.7%
性別	男性	1,198	15.8%	79.8%	4.4%
	女性	1,491	28.0%	67.1%	4.9%
年齢階級	65～69歳	713	20.1%	77.7%	2.2%
	70～74歳	620	23.1%	76.0%	1.0%
	75～79歳	565	22.1%	73.5%	4.4%
	80～84歳	428	23.8%	69.9%	6.3%
	85歳以上	363	25.9%	59.8%	14.3%
認定状況	認定なし	2,317	21.8%	75.2%	3.0%
	要支援 1・2	144	25.7%	66.7%	7.6%
	要介護 1・2	150	28.7%	54.7%	16.7%
	要介護 3～5	78	29.5%	44.9%	25.6%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	25.8%	69.3%	4.8%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	23.4%	71.8%	4.8%
	井の頭	253	23.7%	71.1%	5.1%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	21.3%	74.0%	4.8%
	新川 1、4-6、中原	445	20.7%	73.3%	6.1%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	22.0%	75.1%	2.9%
	大沢	201	17.9%	78.6%	3.5%
所得段階	第 1～3 段階	719	24.6%	68.6%	6.8%
	第 4～5 段階	678	26.8%	68.9%	4.3%
	第 6～7 段階	572	21.2%	75.2%	3.7%
	第 8～14 段階	720	17.6%	78.6%	3.8%
住居形態	持家	2,001	23.3%	73.1%	3.6%
	借家	343	19.8%	75.8%	4.4%
	公営住宅	203	22.2%	71.9%	5.9%
	その他	51	27.5%	56.9%	15.7%
世帯構成	単身世帯	448	24.3%	72.3%	3.3%
	夫婦二世帯	1,035	19.9%	76.8%	3.3%
	子と同居	783	24.4%	70.4%	5.2%
	子・孫と同居	197	23.4%	70.1%	6.6%
	その他	171	24.6%	69.0%	6.4%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

4. 医療・保健

1) 通院・受療状況

- 病院や診療所への通院（往診や薬だけ出してもらっている場合も含む）に関しては、約8割の人が「はい」と回答しており、高齢者の医療ニーズが大きいことがわかる。
- 性別では、通院状況に大きな差がなかった。
- 高齢になるほど通院者は増加し、特に「80歳以上」では9割弱が通院していた。
- 認定状況別では、要支援認定者の通院率が最も高く、95.1%であった。
- 日常生活圏域別では、「牟礼、北野、新川2～3丁目」と「大沢」で通院している人の割合が若干低く、それぞれ75.8%、76.6%であった。その他の圏域は約8割であった。
- 所得段階や住居形態による通院状況の違いについては、はっきりした傾向はつかめなかった。
- 世帯構成別では、「その他」の人の通院率が71.3%と最も低かった。
- 通院している人の傷病で最も多かったのは「高血圧」の47.6%で、高齢者の半数が治療を受けていた。

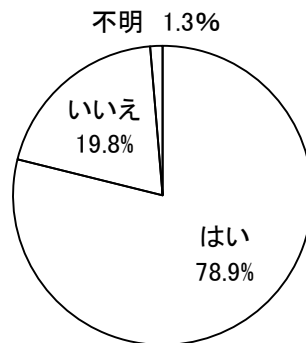


図1-4-1 病院や診療所に通っているか
(往診や薬だけ出してもらっている場合も含む)

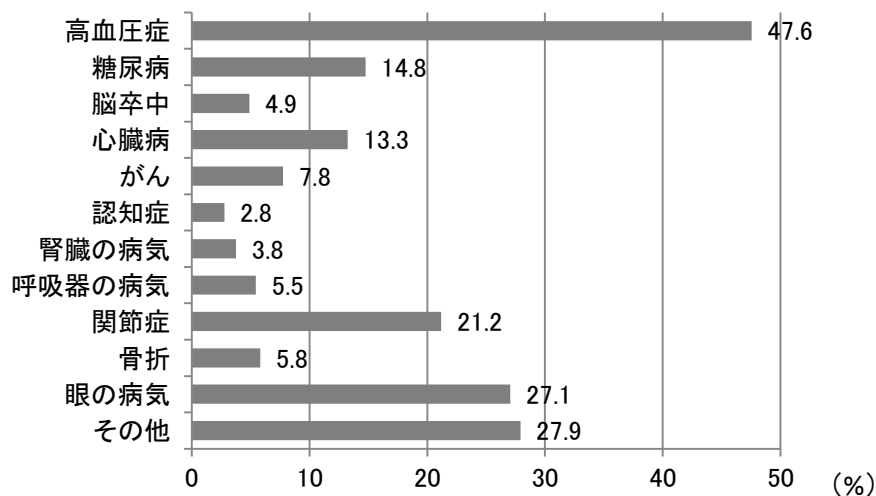


図1-4-2 通院している人の傷病（複数回答）

表 1-4-1 病院や診療所に通っているか（往診や薬だけ出してもらっている場合も含む）

		人数	はい	いいえ	不明
総数		2,698	78.9%	19.8%	1.3%
性別	男性	1,198	79.4%	19.5%	1.1%
	女性	1,491	78.5%	19.9%	1.5%
年齢階級	65～69歳	713	66.9%	32.1%	1.0%
	70～74歳	620	77.4%	21.1%	1.5%
	75～79歳	565	82.5%	16.8%	0.7%
	80～84歳	428	87.6%	11.2%	1.2%
	85歳以上	363	89.3%	7.7%	3.0%
認定状況	認定なし	2,317	76.8%	22.1%	1.2%
	要支援 1・2	144	95.1%	3.5%	1.4%
	要介護 1・2	150	92.0%	4.7%	3.3%
	要介護 3～5	78	87.2%	10.3%	2.6%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	79.0%	19.4%	1.6%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	80.4%	18.8%	0.8%
	井の頭	253	79.4%	19.0%	1.6%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	75.8%	23.3%	1.0%
	新川 1、4-6、中原	445	80.7%	17.5%	1.8%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	79.7%	19.1%	1.2%
	大沢	201	76.6%	21.9%	1.5%
所得段階	第1～3段階	719	81.1%	17.4%	1.5%
	第4～5段階	678	76.8%	21.7%	1.5%
	第6～7段階	572	80.4%	19.1%	0.5%
	第8～14段階	720	77.5%	20.8%	1.7%
住居形態	持家	2,001	78.4%	20.3%	1.3%
	借家	343	77.8%	21.6%	0.6%
	公営住宅	203	83.3%	14.8%	2.0%
	その他	51	76.5%	21.6%	2.0%
世帯構成	単身世帯	448	82.6%	16.5%	0.9%
	夫婦二世帯	1,035	77.0%	21.6%	1.4%
	子と同居	783	81.0%	18.3%	0.8%
	子・孫と同居	197	81.7%	16.2%	2.0%
	その他	171	71.3%	26.9%	1.8%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

2) かかりつけ医

- 健康状態について気軽に相談できる医師の有無については、そのような医師は「いない」という回答が12.8%であった。これは平成25年の調査結果(14.4%)とほぼ同程度であった。気軽に相談できる医師への通院時間は「30分未満」が67.3%で、これも平成25年の調査結果(65.8%)と同程度であった。
- 気軽に相談できる医師の有無について属性別にみると、年齢が若い人や要介護認定を受けていない人では「いない」人の割合が高かった。
- 気軽に相談できる医師への通院時間は、「下連雀1-4丁目、上連雀1-5丁目」「井の頭」では「30分未満」のところにいる割合が高かった。他方、「新川1、4-6丁目、中原」や「大沢」では、かかりつけ医が「30分未満」のところにいる割合が低かった。
- 住居形態では、気軽に相談できる医師が「いない」という回答の割合が「借家」で若干高かった。
- 世帯構成別では、気軽に相談できる医師が「いない」という回答の割合が「その他」の世帯でやや高かった。ただし、「その他」の世帯には有料老人ホームなどの施設入居者が含まれている。

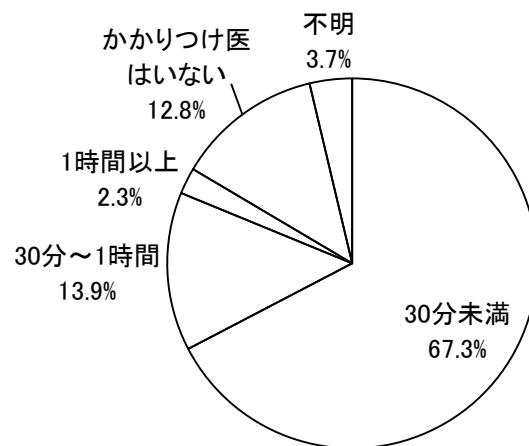


図1-4-3 気軽に通院できる医師への通院時間

表 1-4-2 気軽に相談できる医師の有無とその医師への通院時間

		人数	30分未満	30分～1時間	1時間以上	いない	不明
総数		2,698	67.3%	13.9%	2.3%	12.8%	3.7%
性別	男性	1,198	64.4%	13.7%	2.6%	15.9%	3.3%
	女性	1,491	69.7%	14.1%	2.1%	10.2%	4.0%
年齢階級	65～69歳	713	62.1%	10.8%	1.8%	23.1%	2.1%
	70～74歳	620	69.7%	13.2%	1.9%	12.4%	2.7%
	75～79歳	565	67.8%	15.6%	2.8%	10.4%	3.4%
	80～84歳	428	68.2%	16.1%	3.7%	7.5%	4.4%
	85歳以上	363	71.9%	16.0%	1.4%	2.8%	8.0%
認定状況	認定なし	2,317	67.3%	13.2%	2.2%	14.4%	2.9%
	要支援 1・2	144	71.5%	18.8%	0.7%	2.1%	6.9%
	要介護 1・2	150	60.0%	22.0%	4.7%	3.3%	10.0%
	要介護 3～5	78	75.6%	10.3%	2.6%	2.6%	9.0%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	73.4%	11.8%	1.6%	10.3%	2.9%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	68.5%	12.7%	2.5%	12.9%	3.3%
	井の頭	253	74.7%	10.3%	2.0%	11.1%	2.0%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	65.5%	14.3%	2.0%	14.0%	4.3%
	新川 1、4-6、中原	445	59.3%	16.9%	3.8%	14.4%	5.6%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	67.0%	14.5%	1.4%	13.3%	3.8%
	大沢	201	60.7%	19.4%	3.0%	13.4%	3.5%
所得段階	第 1～3 段階	719	66.6%	15.2%	2.6%	10.4%	5.1%
	第 4～5 段階	678	70.6%	13.3%	2.1%	10.8%	3.2%
	第 6～7 段階	572	66.8%	12.4%	2.3%	16.3%	2.3%
	第 8～14 段階	720	65.4%	14.4%	2.2%	14.2%	3.8%
住居形態	持家	2,001	68.8%	13.8%	2.2%	12.4%	2.7%
	借家	343	62.4%	14.0%	1.5%	16.9%	5.2%
	公営住宅	203	64.5%	14.3%	3.9%	10.3%	6.9%
	その他	51	70.6%	3.9%	3.9%	11.8%	9.8%
世帯構成	単身世帯	448	62.5%	17.6%	1.8%	12.9%	5.1%
	夫婦二世帯	1,035	68.2%	13.6%	2.2%	12.9%	3.1%
	子と同居	783	68.5%	13.8%	2.0%	12.1%	3.6%
	子・孫と同居	197	73.1%	12.7%	2.5%	10.2%	1.5%
	その他	171	68.4%	7.0%	5.3%	15.8%	3.5%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

3) 健診・人間ドック

- 過去1年間に健診など（健康診断、健康診査、人間ドック）を受けたことがあるか質問したところ、「ある」という回答が83.3%で全体の8割以上が健診などを受診していたが、15.5%は過去1年間に健診を受けたことが「ない」という状況であった。
- 男女で明確な差は見られなかった。
- 年齢階級別では、受診したことが「ある」と回答した人の割合が最も低かったのは「85歳以上」の79.3%であるが、いずれの年齢においても8割以上の高い受診率であった。
- 国民生活基礎調査の健康票でも同様の質問をしており、平成25年の調査結果では受診した人の割合が「60～69歳」の男性65.7%、女性60.1%、「70～79歳」の男性58.5%、女性56.2%、「80歳以上」の男性48.1%、女性43.6%であった^(注)。国民生活基礎調査と比べると、三鷹市の方が過去1年間に健診などを受けた高齢者の割合が高かった。
- 要介護度が重くなるに従って、過去1年間に健診などを受けたことがある人の割合は減少した。
- 日常生活圏域別で過去1年間に健診などを受けたことがある人の割合が高かったのは「下連雀1-4丁目、上連雀1-5丁目」と「井の頭」で、ともに87%であった。
- 所得段階が高いほど、過去1年間に健診などを受けたことがある人の割合が高い傾向が見られた。

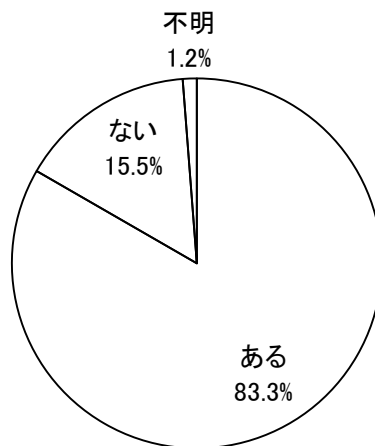


図1-4-4 過去1年間に健診など(健康診断、健康診査、人間ドック)を受けた経験

注) 厚生労働省. 平成26年7月. 「平成25年国民生活基礎調査の概況」

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa13/index.html>

表 1-4-3 過去1年間に健診など(健康診断、健康診査、人間ドック)を受けた経験

		人数	ある	ない	不明
総数		2,698	83.3%	15.5%	1.2%
性別	男性	1,198	83.4%	15.4%	1.2%
	女性	1,491	83.2%	15.5%	1.3%
年齢階級	65～69歳	713	82.5%	17.0%	0.6%
	70～74歳	620	83.9%	15.5%	0.6%
	75～79歳	565	85.0%	14.2%	0.9%
	80～84歳	428	85.0%	13.3%	1.6%
	85歳以上	363	79.3%	17.1%	3.6%
認定状況	認定なし	2,317	84.7%	14.3%	1.0%
	要支援 1・2	144	83.3%	15.3%	1.4%
	要介護 1・2	150	72.0%	24.7%	3.3%
	要介護 3～5	78	62.8%	33.3%	3.8%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	87.0%	11.8%	1.2%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	81.2%	17.3%	1.5%
	井の頭	253	87.0%	11.9%	1.2%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	81.8%	16.5%	1.8%
	新川 1、4-6、中原	445	79.8%	19.1%	1.1%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	83.8%	15.4%	0.9%
	大沢	201	83.1%	16.4%	0.5%
所得段階	第1～3段階	719	79.8%	18.2%	1.9%
	第4～5段階	678	83.3%	15.6%	1.0%
	第6～7段階	572	83.9%	15.4%	0.7%
	第8～14段階	720	86.3%	12.6%	1.1%
住居形態	持家	2,001	85.1%	13.9%	1.0%
	借家	343	79.9%	19.0%	1.2%
	公営住宅	203	74.4%	23.6%	2.0%
	その他	51	86.3%	11.8%	2.0%
世帯構成	単身世帯	448	79.7%	18.8%	1.6%
	夫婦二世帯	1,035	85.5%	13.6%	0.9%
	子と同居	783	84.7%	14.2%	1.1%
	子・孫と同居	197	83.2%	16.2%	0.5%
	その他	171	80.7%	18.1%	1.2%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

4) 受診しなかった経験

- 過去1年間に病気やケガにもかかわらず、病院や診療所、歯医者に行かなかったことがあったか否かといった受療抑制経験について質問したところ、「ある」と回答した人は11.4%であった。このうち、「病気やケガはしていない人」や「無回答者」を除外した2,427人中では、12.7%が「ある」と答えていた。
- 性別では、受療抑制経験がある人が男性13.5%、女性12.1%で大きな差はなかった。
- 年齢階級別では、「65～69歳」で受療抑制経験のある人の割合が15.2%と、高い傾向が見られた。
- 要介護度別では、「要介護3～5」で受療抑制経験のある人の割合が17.6%と、高い傾向が見られた。
- 日常生活圏域別では、「井の頭」で受療抑制経験がある人の割合が最も低く、8.6%であった。
- 所得段階では「第1～3段階」の人で受療抑制経験がある人の割合が他の区分よりも高く、15.0%であった。
- 住居形態や世帯構成で受療抑制経験がある人の割合が最も高かったのは、住居形態では「借家」の17.6%、世帯構成では「単身世帯」の15.7%であった。

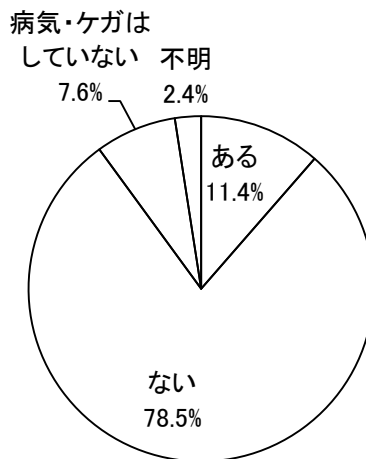


図1-4-5 過去1年間に病気やケガにもかかわらず
受診しなかったことがある

表 1-4-4 過去1年間に病気やケガにもかかわらず、病院や診療所、歯医者に行かなかったことがある

		人数	ある	ない	病気・ケガは していない	不明
総数		2,698	11.4%	78.5%	7.6%	2.4%
(病気・ケガはしていない、無回答を除外)		2,427	12.7%	87.3%	—	—
性別	男性	1,084	13.5%	86.5%	—	—
	女性	1,335	12.1%	87.9%	—	—
年齢階級	65～69歳	643	15.2%	84.8%	—	—
	70～74歳	560	10.2%	89.8%	—	—
	75～79歳	514	10.3%	89.7%	—	—
	80～84歳	386	14.5%	85.5%	—	—
	85歳以上	316	13.9%	86.1%	—	—
認定状況	認定なし	2,080	12.4%	87.6%	—	—
	要支援 1・2	135	16.3%	83.7%	—	—
	要介護 1・2	130	12.3%	87.7%	—	—
	要介護 3～5	74	17.6%	82.4%	—	—
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	495	14.5%	85.5%	—	—
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	423	12.5%	87.5%	—	—
	井の頭	233	8.6%	91.4%	—	—
	牟礼、北野、新川 2-3	364	14.3%	85.7%	—	—
	新川 1、4-6、中原	398	11.3%	88.7%	—	—
	野崎 2-4、井口、深大寺	309	13.6%	86.4%	—	—
	大沢	193	11.9%	88.1%	—	—
所得段階	第1～3段階	634	15.0%	85.0%	—	—
	第4～5段階	603	11.8%	88.2%	—	—
	第6～7段階	534	12.5%	87.5%	—	—
	第8～14段階	648	11.6%	88.4%	—	—
住居形態	持家	1,815	11.5%	88.5%	—	—
	借家	301	17.6%	82.4%	—	—
	公営住宅	175	13.1%	86.9%	—	—
	その他	49	14.3%	85.7%	—	—
世帯構成	単身世帯	396	15.7%	84.3%	—	—
	夫婦二人世帯	948	10.4%	89.6%	—	—
	子と同居	698	14.0%	86.0%	—	—
	子・孫と同居	183	9.3%	90.7%	—	—
	その他	149	9.4%	90.6%	—	—

注) クロス集計については、「病気やケガはしていない」「無回答」「属性が不明なケース」は除外して分析した。

5) 健康情報を活用する力（ヘルスリテラシー）

- ヘルスリテラシーとは、健康を維持・増進するために情報を入手し、理解し、活用する能力をいう。一般向けヘルスリテラシー尺度（Communicative and Critical Health Literacy : CCHL）という指標を用いて調べた。必要になったら病気や健康に関連した情報を自分自身で「収集」「選択」「理解」「判断」「決定」できるかという5つの側面（5項目）について、それぞれ5点満点で回答してもらい、5項目の平均をヘルスリテラシー得点とした。
- 「強くそう思う」と「そう思う」を合わせた肯定的な回答は、「いろいろな情報源から情報が集められる（収集）」が57.0%、「自分の求める情報を選び出せる（選択）」が57.4%、「情報がどの程度信頼できるかを判断できる（判断）」が54.6%、「情報を理解し、人に伝えることができる（理解）」が61.2%、「情報をもとに健康改善のための計画や行動をきめることができる（決定）」が60.1%であった。
- ヘルスリテラシー5項目の平均点は3.5点であった。5項目のいずれかまたは全て無回答の人を除く2,507人では、3.5点以上（得点が平均点以上の人）が59.5%、3.5点未満（得点が平均点より低い人）が40.5%であった。
- 属性別に見ると、性別では男性でヘルスリテラシー得点が高い人の割合が高かった。また、高齢になるほど、介護度が重くなるほど得点が高い人の割合は減少した。
- 日常生活圏域別では、「井の頭」で得点が高い人の割合がやや高かったが、その他の地域では特に差はみられなかった。
- 所得段階が高いほど得点が高い人の割合が高く、住居形態では、「持家」の人で得点が高い人の割合が高かった。

表 1-4-5 ヘルスリテラシーの5つの側面

	強くそう 思う	そう思う	どちら でもない	あまり そう思わ ない	まったく そう思わ ない	不明
いろいろな情報源から情報が 集められる(収集)	7.4%	49.6%	17.0%	14.0%	6.9%	5.0%
自分の求める情報を選び出せる (選択)	5.9%	51.5%	18.4%	13.3%	6.1%	4.8%
情報がどの程度信頼できるかを 判断できる(判断)	5.3%	49.3%	24.5%	12.0%	4.0%	4.9%
情報を理解し、人に伝えることが できる(理解)	6.2%	55.0%	20.6%	10.4%	3.2%	4.7%
情報をもとに健康改善のための 計画や行動を決めることができ る(決定)	6.0%	54.1%	20.5%	11.3%	3.6%	4.4%

注) 総数は2,698人。

表 1-4-6 ヘルスリテラシー5項目の平均の分布（平均値で2区分）

		人数	3.5点以上	3.5点未満	欠測項目あり
総数		2,698	55.3%	37.6%	7.1%
(5項目のいずれか、または全て無回答を除外)		2,507	59.5%	40.5%	—
性別	男性	1,122	67.1%	32.9%	—
	女性	1,376	53.4%	46.6%	—
年齢階級	65～69歳	695	68.6%	31.4%	—
	70～74歳	587	64.9%	35.1%	—
	75～79歳	530	59.1%	40.9%	—
	80～84歳	380	46.6%	53.4%	—
	85歳以上	306	45.8%	54.2%	—
認定状況	認定なし	2,193	63.7%	36.3%	—
	要支援 1・2	127	37.0%	63.0%	—
	要介護 1・2	125	27.2%	72.8%	—
	要介護 3～5	53	17.0%	83.0%	—
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	519	61.1%	38.9%	—
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	442	59.5%	40.5%	—
	井の頭	238	65.5%	34.5%	—
	牟礼、北野、新川 2-3	372	57.0%	43.0%	—
	新川 1、4-6、中原	411	56.9%	43.1%	—
	野崎 2-4、井口、深大寺	319	59.9%	40.1%	—
	大沢	192	58.3%	41.7%	—
所得段階	第1～3段階	649	45.6%	54.4%	—
	第4～5段階	631	54.7%	45.3%	—
	第6～7段階	537	62.9%	37.1%	—
	第8～14段階	681	74.7%	25.3%	—
住居形態	持家	1,888	63.6%	36.4%	—
	借家	317	49.8%	50.2%	—
	公営住宅	182	41.8%	58.2%	—
	その他	45	40.0%	60.0%	—
世帯構成	単身世帯	424	49.1%	50.9%	—
	夫婦二人世帯	973	66.8%	33.2%	—
	子と同居	722	55.7%	44.3%	—
	子・孫と同居	184	62.0%	38.0%	—
	その他	163	62.6%	37.4%	—

注) クロス集計については、「ヘルスリテラシー5項目のいずれか、または全て無回答」と「属性が不明なケース」は除外して分析した。

5. 生活習慣・生活満足・生活不安

1) 外出頻度、閉じこもり

- 外出頻度は、「ほぼ毎日」44.8%、「週4～5日」24.2%、「週2～3日」20.6%、「週1日」4.4%、「それより少ない」4.4%という状況であった。
- 外出頻度が「週に1日未満」の場合は、一般的に「閉じこもりのリスクが高い」とみなされるが、それに該当する人の割合は4.4%であった。これは平成25年の調査結果(5.4%)と同程度であった。
- 外出頻度が「週に1日未満」の閉じこもりが疑われる人は、80歳以上で急増し、85歳以上の人では14.0%が閉じこもりのリスクが高い状態であった。これは平成25年の調査よりも5.0ポイント低下していた。
- 認定状況別では、要介護認定を受けているか否かで閉じこもりが疑われる人の割合に大きな差がみられ、その割合は要介護1以上の人で急増した。
- 所得段階が低いほど、閉じこもりが疑われる人の割合が高い傾向がみられ、「第1～3段階」の人では7.5%が「週に1日未満」の外出頻度であった。
- 住居形態や世帯構成では、「その他」の人で閉じこもりが疑われる人の割合が高かった。このカテゴリーは有料老人ホーム等の施設居住者が多く含まれるため、健康上の問題により外出頻度が少なくなっていると考えられた。

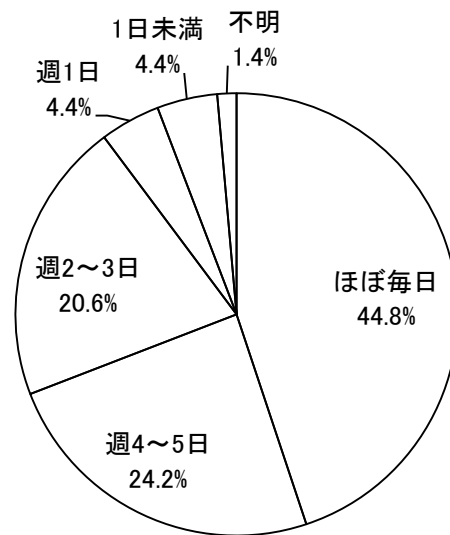


図1-5-1 外出頻度

表 1-5-1 外出頻度

		人数	ほぼ毎日	週に4~5日	週に2~3日	週に1日	週に1日未満	不明
総数		2,698	44.8%	24.2%	20.6%	4.4%	4.4%	1.4%
性別	男性	1,198	48.7%	21.1%	19.8%	4.7%	4.3%	1.4%
	女性	1,491	41.6%	26.9%	21.2%	4.3%	4.5%	1.5%
年齢階級	65~69歳	713	59.6%	22.9%	13.6%	2.2%	1.3%	0.4%
	70~74歳	620	52.3%	24.7%	16.9%	3.9%	1.9%	0.3%
	75~79歳	565	44.4%	27.4%	21.6%	2.5%	3.0%	1.1%
	80~84歳	428	33.6%	25.9%	24.3%	7.2%	6.8%	2.1%
	85歳以上	363	16.8%	19.8%	34.4%	9.6%	14.0%	5.2%
認定状況	認定なし	2,317	50.2%	25.6%	18.4%	3.1%	2.1%	0.6%
	要支援 1・2	144	18.1%	19.4%	40.3%	13.2%	5.6%	3.5%
	要介護 1・2	150	9.3%	14.0%	32.0%	14.0%	22.7%	8.0%
	要介護 3~5	78	3.8%	16.7%	25.6%	10.3%	34.6%	9.0%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	51.2%	26.0%	13.9%	3.6%	3.6%	1.8%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	46.8%	21.3%	22.1%	4.4%	5.0%	0.4%
	井の頭	253	36.4%	29.6%	25.7%	2.0%	4.3%	2.0%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	43.3%	24.5%	20.5%	5.5%	5.0%	1.3%
	新川 1、4-6、中原	445	44.3%	24.9%	19.1%	5.2%	4.5%	2.0%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	44.1%	22.9%	23.5%	3.8%	4.1%	1.7%
	大沢	201	38.8%	19.9%	27.9%	8.0%	4.5%	1.0%
所得段階	第1~3段階	719	35.2%	22.3%	26.3%	6.3%	7.5%	2.5%
	第4~5段階	678	42.6%	28.9%	19.8%	4.1%	3.5%	1.0%
	第6~7段階	572	48.6%	25.2%	18.7%	3.7%	3.0%	0.9%
	第8~14段階	720	53.5%	21.4%	17.1%	3.6%	3.2%	1.3%
住居形態	持家	2,001	45.2%	25.8%	20.6%	3.7%	3.6%	1.0%
	借家	343	49.3%	21.9%	19.5%	5.0%	2.9%	1.5%
	公営住宅	203	40.4%	18.7%	23.6%	10.3%	4.9%	2.0%
	その他	51	25.5%	5.9%	25.5%	7.8%	27.5%	7.8%
世帯構成	単身世帯	448	42.4%	24.3%	24.6%	5.8%	2.0%	0.9%
	夫婦二人世帯	1,035	46.7%	25.3%	20.3%	3.6%	3.3%	0.9%
	子と同居	783	44.6%	24.0%	20.2%	4.9%	5.2%	1.1%
	子・孫と同居	197	45.2%	24.9%	18.3%	4.1%	6.6%	1.0%
	その他	171	46.8%	20.5%	17.5%	4.1%	8.2%	2.9%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

2) 身体活動習慣

- 身体活動は、体力の維持・向上を目的とした体操やウォーキングなどの「運動」と、運動以外の仕事や家事上の活動（通勤、買い物など）の「生活活動」の2つに大別され、「健康づくりのための身体活動基準 2013」では、65歳以上の身体活動量の基準として「強度を問わず、身体活動を毎日40分行うこと」と定義されている^(注)。このように、近年の健康づくりに対する考え方では、運動だけでなく生活活動をも含めた身体活動量全体を維持することが重要視されている。
- このような視点から、仕事や家事、散歩や体操などの身体活動を1日40分以上行う日が週に何日あるかについて質問した結果、身体活動の習慣がある人の割合（「ほぼ毎日」と回答）は52.6%であった。
- 性別では身体活動習慣のある人の割合は「男性」44.2%、「女性」59.4%で、男性に比べ女性の方が割合は高かった。
- 年齢階級別では、年齢が高くなるほど身体活動習慣のある人の割合は低下し、特に80歳以上で急激に低下していた。
- 認定状況別では、要介護認定を受けていない人については身体活動習慣のある人の割合は58.2%であった。要介護認定を受けている人では「要支援1・2」の人でも29.9%と、その割合は半減した。さらに要介護度が重くなるほどその割合は低下し、「要介護3～5」の人では6.4%であった。
- 日常生活圏域別では、「新川1、4～6、中原」で身体活動習慣のある人の割合が若干低かった。
- 所得段階別では、「第1～3段階」の人で身体活動習慣のある人の割合が低かった。
- 住居形態では、「持家」の人で身体活動習慣のある人の割合が最も高かった。
- 世帯構成では、「単身世帯」の人で身体活動習慣のある人の割合が低かった。

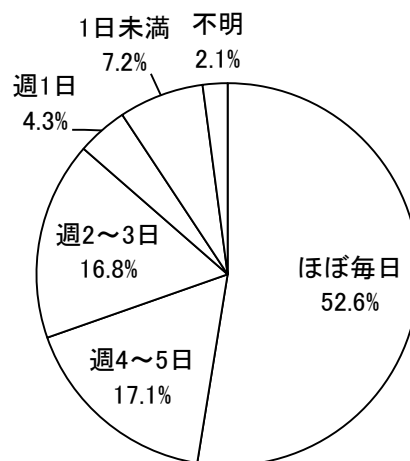


図1-5-2 仕事や家事、散歩や体操などの身体活動習慣

注) 厚生労働省「健康づくりのための身体活動基準 2013」

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002xple.html>

表 1-5-2 仕事や家事、散歩や体操などの身体活動習慣

		人数	ほぼ毎日	週に4~5日	週に2~3日	週に1日	週に1日未満	不明
総数		2,698	52.6%	17.1%	16.8%	4.3%	7.2%	2.1%
性別	男性	1,198	44.2%	20.2%	20.2%	4.5%	8.8%	2.2%
	女性	1,491	59.4%	14.6%	14.0%	4.1%	5.8%	2.1%
年齢階級	65~69歳	713	62.3%	17.0%	13.2%	3.1%	3.5%	1.0%
	70~74歳	620	60.6%	16.8%	14.8%	3.2%	3.9%	0.6%
	75~79歳	565	54.0%	18.2%	16.5%	4.6%	5.0%	1.8%
	80~84歳	428	43.2%	18.5%	18.5%	5.8%	11.2%	2.8%
	85歳以上	363	28.9%	14.3%	25.3%	6.1%	18.5%	6.9%
認定状況	認定なし	2,317	58.2%	17.7%	14.9%	3.8%	4.0%	1.3%
	要支援 1・2	144	29.9%	16.7%	31.3%	6.3%	9.0%	6.9%
	要介護 1・2	150	12.0%	11.3%	31.3%	8.7%	27.3%	9.3%
	要介護 3~5	78	6.4%	9.0%	15.4%	5.1%	57.7%	6.4%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	54.7%	17.1%	14.6%	4.5%	7.3%	1.8%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	51.4%	18.0%	16.7%	5.8%	6.3%	1.9%
	井の頭	253	55.3%	18.2%	17.0%	1.6%	7.1%	0.8%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	53.5%	15.3%	18.0%	4.5%	7.0%	1.8%
	新川 1、4-6、中原	445	45.4%	19.6%	20.2%	4.9%	6.7%	3.1%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	55.7%	15.7%	13.3%	3.5%	8.4%	3.5%
	大沢	201	54.7%	14.4%	17.9%	3.0%	8.0%	2.0%
所得段階	第1~3段階	719	46.2%	16.8%	18.9%	4.0%	10.6%	3.5%
	第4~5段階	678	61.9%	13.7%	11.9%	4.6%	6.2%	1.6%
	第6~7段階	572	50.0%	19.6%	19.2%	4.4%	4.9%	1.9%
	第8~14段階	720	52.4%	18.5%	17.1%	4.2%	6.4%	1.5%
住居形態	持家	2,001	54.1%	18.1%	16.3%	4.2%	5.8%	1.5%
	借家	343	49.0%	16.6%	18.7%	3.8%	9.0%	2.9%
	公営住宅	203	47.8%	12.3%	18.7%	5.9%	11.3%	3.9%
	その他	51	37.3%	9.8%	15.7%	9.8%	21.6%	5.9%
世帯構成	単身世帯	448	48.2%	18.8%	21.2%	4.5%	4.7%	2.7%
	夫婦二人世帯	1,035	52.7%	17.3%	17.5%	4.7%	6.2%	1.6%
	子と同居	783	54.0%	17.1%	14.9%	4.1%	7.9%	1.9%
	子・孫と同居	197	52.8%	15.2%	17.8%	4.1%	9.1%	1.0%
	その他	171	59.6%	14.0%	12.3%	2.9%	9.4%	1.8%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

3) 生活満足度

- 自分の生活に対する満足度を質問した結果、「非常に満足」12.4%、「まあまあ満足」59.3%、「どちらともいえない」13.9%、「あまり満足していない」10.4%、「まったく満足していない」2.0%で、7割の人が肯定的な評価をしていた。これは平成25年の調査結果（非常に満足：12.2%、まあまあ満足：59.1%）と同程度であった。
- 「非常に/まあまあ満足」という肯定的な評価について性による違いはみられなかったが、年齢階級が高くなるほど満足度は低下していた。特に80歳以上で低下が見られた。
- 認定状況別では、要介護認定を受けている人で満足度が低く、「要介護3～5」の人では肯定的な評価をする人は29.5%にとどまった。
- 日常生活圏域別では、「非常に/まあまあ満足」という回答の割合が最も高かったのは、「野崎2-4、井口、深大寺」76.5%であった。
- 所得段階別では、「第1～3段階」の人では「非常に/まあまあ満足」の割合は62.3%であるのに対して「第8段階以上」の人では81.5%と格差が大きかった。
- 住居形態別では、「公営住宅」の人では「非常に/まあまあ満足」という人の割合が54.2%と最も低かった。
- 世帯構成別では、「単身世帯」では「非常に/まあまあ満足」という人の割合が62.5%と最も低かった。

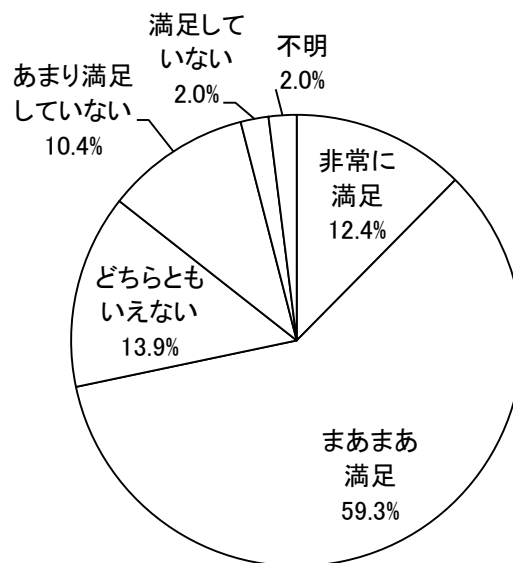


図1-5-3 生活満足度

表 1-5-3 生活満足度

		人数	非常に満足	まあまあ満足	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない	不明
総数		2,698	12.4%	59.3%	13.9%	10.4%	2.0%	2.0%
性別	男性	1,198	12.5%	58.5%	13.4%	11.2%	2.0%	2.3%
	女性	1,491	12.3%	60.1%	14.2%	9.7%	2.1%	1.7%
年齢階級	65～69歳	713	13.0%	61.3%	13.9%	9.7%	1.4%	0.7%
	70～74歳	620	13.5%	61.5%	14.8%	8.4%	1.3%	0.5%
	75～79歳	565	13.3%	60.7%	12.9%	10.1%	1.8%	1.2%
	80～84歳	428	11.9%	55.8%	13.1%	13.3%	2.6%	3.3%
	85歳以上	363	8.3%	54.3%	14.3%	11.8%	4.4%	6.9%
認定状況	認定なし	2,317	13.7%	63.0%	13.1%	8.3%	0.9%	1.0%
	要支援 1・2	144	5.6%	47.2%	14.6%	24.3%	5.6%	2.8%
	要介護 1・2	150	4.7%	32.0%	24.7%	22.7%	7.3%	8.7%
	要介護 3～5	78	1.3%	28.2%	12.8%	21.8%	17.9%	17.9%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	15.0%	59.7%	11.8%	7.8%	2.9%	2.9%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	9.6%	56.8%	18.6%	12.9%	0.6%	1.5%
	井の頭	253	15.0%	59.7%	11.1%	7.9%	4.3%	2.0%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	11.5%	61.0%	15.0%	8.5%	2.8%	1.3%
	新川 1、4-6、中原	445	13.0%	56.6%	14.2%	11.7%	2.2%	2.2%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	12.2%	64.3%	9.6%	11.3%	0.9%	1.7%
	大沢	201	9.5%	58.2%	15.9%	13.4%	0.5%	2.5%
所得段階	第 1～3 段階	719	8.1%	54.2%	16.3%	15.7%	2.8%	2.9%
	第 4～5 段階	678	12.5%	60.6%	13.9%	9.0%	2.7%	1.3%
	第 6～7 段階	572	12.1%	57.7%	17.5%	10.1%	0.7%	1.9%
	第 8～14 段階	720	16.8%	64.7%	8.5%	6.4%	1.8%	1.8%
住居形態	持家	2,001	13.8%	62.0%	12.7%	8.3%	1.5%	1.6%
	借家	343	8.5%	52.8%	17.2%	18.4%	2.9%	0.3%
	公営住宅	203	5.4%	48.8%	22.7%	16.7%	3.4%	3.0%
	その他	51	5.9%	52.9%	7.8%	9.8%	7.8%	15.7%
世帯構成	単身世帯	448	8.9%	53.6%	19.0%	15.8%	1.8%	0.9%
	夫婦二世帯	1,035	13.6%	63.1%	12.0%	8.3%	1.7%	1.3%
	子と同居	783	12.0%	59.8%	13.5%	10.2%	1.9%	2.6%
	子・孫と同居	197	15.2%	61.9%	9.1%	7.6%	4.1%	2.0%
	その他	171	13.5%	50.9%	18.7%	12.3%	1.2%	3.5%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

4) 生活上の不安

- 生活に生じやすい問題について、どの程度不安に感じているかを質問した結果、「非常に不安」「やや不安」に感じている人の割合が高かったのは、「必要な時に十分な介護サービスを受けられないこと」「寝たきりになるかもしれないこと」「認知症になるかもしれないこと」で、いずれも4割の人が「非常に不安」または「やや不安」に感じていた。「急に具合が悪くなった時に対応してくれる人がいないこと」「生活費や経済的なこと」「必要な時に十分な医療を受けられないこと」に対しても、3割以上の人が「非常に不安」または「やや不安」と感じていた。
- 平成25年の調査結果と比べると、不安感は若干軽減していた。

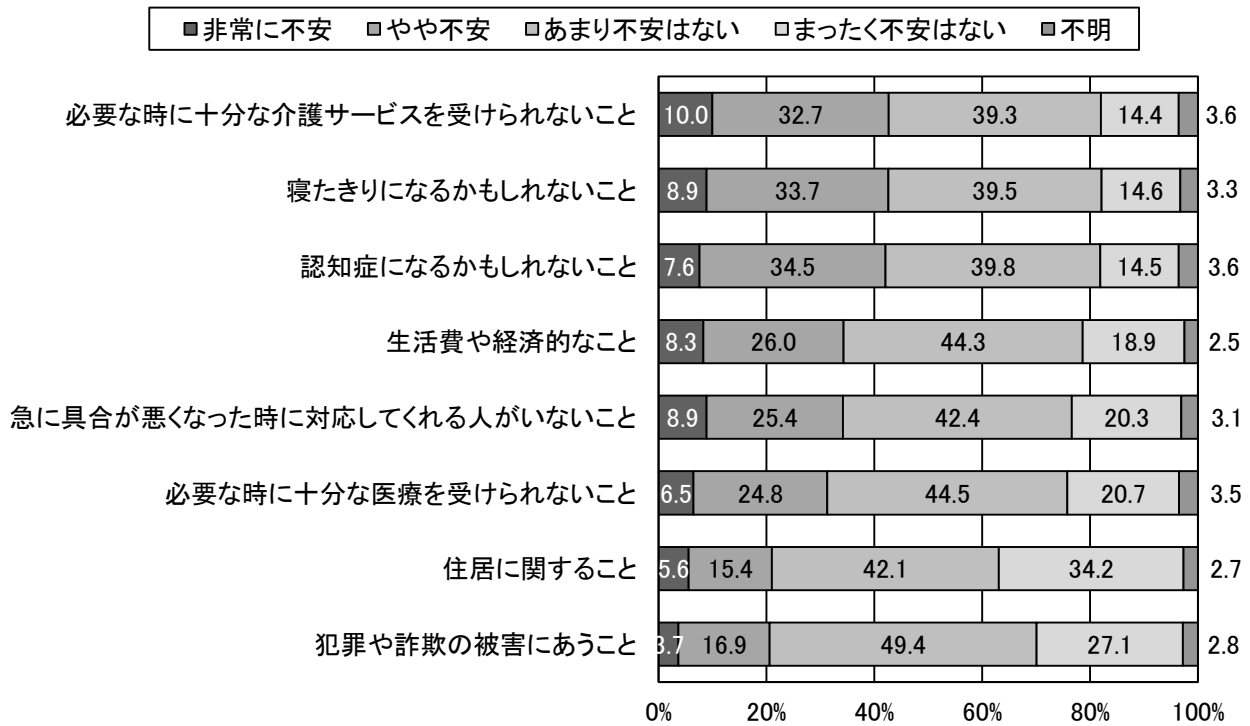


図1-5-4 生活上の不安

5) 毎月のやりくり

- 毎月のやりくりについて、「ゆとりがある」7.6%、「ややゆとりがある」24.2%、「どちらともいえない」41.1%、「やや苦しい」16.9%、「苦しい」5.5%で、約2割の人が多少ともやりくりが苦しいと感じていた。これは平成25年の調査結果（やや苦しい：16.3%、苦しい：7.1%）と同程度であった。
- 「苦しい/やや苦しい」という人の割合は、性による違いはみられなかった。
- 年齢階級が低いほど「苦しい/やや苦しい」という人の割合は高くなり、「65～69歳」では25.7%がそのように感じていた。
- 認定状況別では、要介護1以上で毎月のやりくりが苦しいと感じている人が多く、「要介護3～5」の人では35.9%が「苦しい/やや苦しい」と答えていた。
- 日常生活圏域別では、「下連雀1-4、上連雀1-5」や「井の頭」では「苦しい/やや苦しい」という人の割合は低かった。
- 所得段階別では、「苦しい/やや苦しい」の割合は「第1～3段階」の人では37.0%で、「第8段階以上」の人の10.8%と比べて格差が見られた。
- 住居形態では、「公営住宅」「借家」の人で「苦しい/やや苦しい」と答えた割合が最も高かった。
- 世帯構成別では、「苦しい/やや苦しい」という人の割合が「単身世帯」で26.5%、「子と同居」で25.7%と高かった。

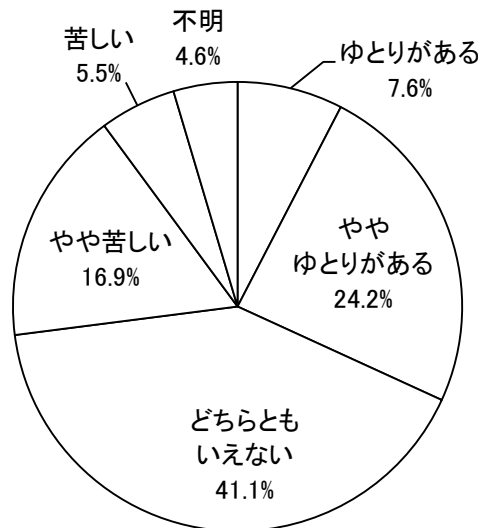


図1-5-5 毎月のやりくり

表 1-5-4 毎月のやりくり

		人数	ゆとりがある	ややゆとりがある	どちらともいえない	やや苦しい	苦しい	不明
総数		2,698	7.6%	24.2%	41.1%	16.9%	5.5%	4.6%
性別	男性	1,198	7.5%	24.1%	40.7%	18.3%	5.5%	3.9%
	女性	1,491	7.8%	24.3%	41.6%	15.9%	5.4%	5.1%
年齢階級	65～69歳	713	8.7%	22.2%	40.0%	19.8%	5.9%	3.5%
	70～74歳	620	9.7%	19.0%	44.5%	17.9%	5.3%	3.5%
	75～79歳	565	5.5%	28.3%	39.1%	17.5%	5.7%	3.9%
	80～84歳	428	6.5%	23.8%	40.2%	16.6%	6.1%	6.8%
	85歳以上	363	6.9%	31.1%	42.1%	9.4%	3.6%	6.9%
認定状況	認定なし	2,317	8.0%	24.6%	41.6%	17.1%	4.7%	3.9%
	要支援 1・2	144	5.6%	31.3%	37.6%	13.2%	7.6%	4.9%
	要介護 1・2	150	4.7%	20.0%	40.7%	13.3%	11.3%	10.0%
	要介護 3～5	78	7.7%	6.4%	35.9%	25.6%	10.3%	14.1%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	10.5%	25.7%	41.4%	13.0%	4.6%	4.8%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	7.1%	21.3%	41.8%	20.3%	6.1%	3.5%
	井の頭	253	11.5%	29.6%	37.5%	13.4%	3.6%	4.3%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	6.5%	21.8%	43.0%	18.0%	6.3%	4.5%
	新川 1、4-6、中原	445	4.7%	24.0%	41.1%	19.8%	5.8%	4.5%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	6.1%	27.8%	39.4%	14.2%	6.4%	6.1%
	大沢	201	7.5%	19.4%	43.8%	20.9%	4.0%	4.5%
所得段階	第 1～3 段階	719	3.8%	15.7%	37.0%	26.0%	11.0%	6.5%
	第 4～5 段階	678	7.1%	22.9%	45.3%	15.3%	4.9%	4.6%
	第 6～7 段階	572	4.5%	23.1%	47.9%	17.5%	3.7%	3.3%
	第 8～14 段階	720	14.6%	34.9%	36.1%	9.0%	1.8%	3.6%
住居形態	持家	2,001	9.4%	29.2%	44.9%	12.5%	3.0%	0.9%
	借家	343	2.0%	11.1%	37.0%	33.5%	14.6%	1.7%
	公営住宅	203	0.0%	12.3%	29.1%	40.4%	16.3%	2.0%
	その他	51	19.6%	9.8%	45.1%	11.8%	5.9%	7.8%
世帯構成	単身世帯	448	6.5%	21.9%	40.4%	19.4%	7.1%	4.7%
	夫婦二人世帯	1,035	7.9%	25.9%	42.3%	15.9%	4.1%	3.9%
	子と同居	783	6.5%	23.8%	40.4%	18.5%	7.2%	3.7%
	子・孫と同居	197	12.2%	29.4%	37.6%	11.2%	4.6%	5.1%
	その他	171	9.4%	19.3%	47.4%	15.8%	3.5%	4.7%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

6. 家族

1) 同居家族

- 同居家族は「配偶者」が最も多く、62.5%であった。「息子」は21.0%、「娘」は17.3%で、「孫」と暮らしている人は7.8%であった。
- 世帯構成は、「夫婦二世帯」が最多で38.4%、次いで「二世帯（子と同居）」29.0%であった。「単身世帯（ひとり暮らし）」は16.6%であった。これは平成25年の調査結果（夫婦二人：38.4%、二世帯：30.1%、単身：17.1%）と同程度であった。
- 単身世帯は、「女性」20.9%、「男性」11.3%で、女性が男性の2倍であった。
- 80歳以上で単身世帯の割合が増え、「80～84歳」20.1%、「85歳以上」22.6%であった。
- 「要支援認定者」で単身世帯が多く、約4割は単身世帯であった。
- 「下連雀5-9、上連雀6-9、野崎1丁目」地域で単身世帯の割合が比較的高く（19.2%）、「井の頭」で低かった（12.3%）。
- 所得段階が低いほど単身世帯が多く、「第1～3段階」では38.0%が単身世帯であった。
- 「借家」や「公営住宅」で単身世帯が多かった（34.7%と31.0%）。

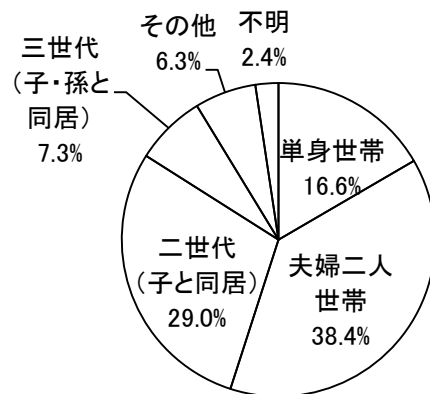
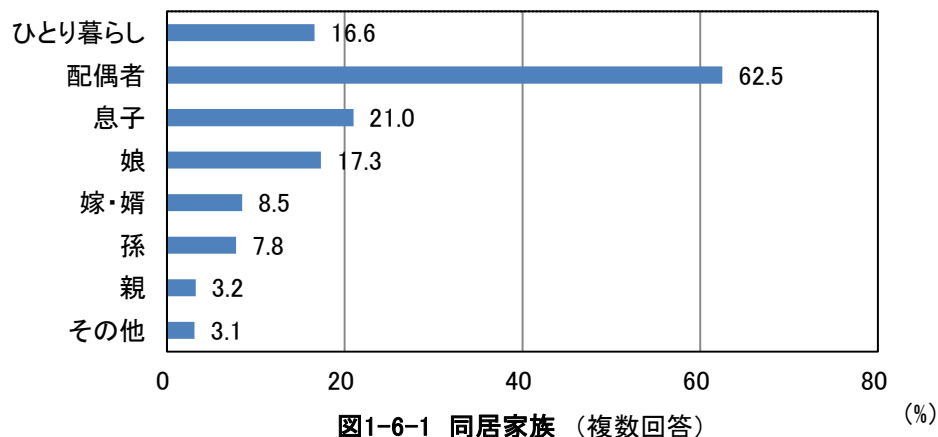


表 1-6-1 世帯構成

		人数	単身	夫婦	二世帯	三世帯	その他	不明
総 数		2,698	16.6%	38.4%	29.0%	7.3%	6.3%	2.4%
性別	男性	1,198	11.3%	47.9%	26.2%	6.1%	6.6%	1.9%
	女性	1,491	20.9%	30.7%	31.2%	8.2%	6.2%	2.7%
年齢階級	65～69 歳	713	12.9%	39.3%	29.6%	4.1%	12.9%	1.3%
	70～74 歳	620	15.8%	45.0%	24.5%	7.4%	5.8%	1.5%
	75～79 歳	565	15.8%	41.4%	29.6%	9.2%	1.9%	2.1%
	80～84 歳	428	20.1%	37.9%	27.6%	7.5%	3.3%	3.7%
	85 歳以上	363	22.6%	21.2%	36.1%	10.2%	5.0%	5.0%
認定状況	認定なし	2,317	15.5%	40.6%	28.9%	6.9%	6.4%	1.8%
	要支援 1・2	144	38.2%	29.9%	22.2%	6.3%	1.4%	2.1%
	要介護 1・2	150	16.7%	24.7%	34.0%	8.7%	7.3%	8.7%
	要介護 3～5	78	10.3%	15.4%	34.6%	19.2%	12.8%	7.7%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	17.3%	32.8%	31.9%	8.9%	7.3%	1.8%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	19.2%	41.5%	24.4%	5.4%	7.5%	1.9%
	井の頭	253	12.3%	43.9%	25.7%	7.1%	7.5%	3.6%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	16.5%	36.3%	31.0%	7.8%	5.3%	3.3%
	新川 1、4-6、中原	445	16.9%	40.9%	29.0%	5.6%	5.8%	1.8%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	15.4%	38.0%	29.9%	7.2%	6.1%	3.5%
	大沢	201	15.9%	39.3%	30.3%	9.5%	3.5%	1.5%
所得段階	第 1～3 段階	719	38.0%	21.1%	22.9%	6.4%	7.8%	3.8%
	第 4～5 段階	678	1.6%	43.5%	39.7%	8.4%	5.0%	1.8%
	第 6～7 段階	572	15.7%	43.9%	27.3%	4.5%	6.3%	2.3%
	第 8～14 段階	720	10.1%	46.4%	26.3%	9.3%	6.3%	1.7%
住居形態	持家	2,001	11.8%	39.9%	31.2%	8.9%	6.6%	1.5%
	借家	343	34.7%	31.8%	25.9%	2.6%	2.3%	2.6%
	公営住宅	203	31.0%	42.4%	20.7%	0.5%	3.4%	2.0%
	その他	51	21.6%	17.6%	13.7%	2.0%	33.3%	11.8%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

2) 日中独居

- 日中のほとんどの時間、一人になることが「よくある」という人が 36.5%、「たまにある」32.0%、「ほとんどない」29.0%で、いわゆる日中独居の人は 4 割弱であった。これは平成 25 年の調査結果（36.4%）と同程度であった。
- 日中独居の割合は「女性」39.5%、「男性」32.6%で、女性の方が男性よりも割合が高かった。
- 高齢になるほど日中独居の割合が増える傾向にあり、「85 歳以上」では 44.1%が日中独居であった。
- 認定状況別では「要支援認定者」で最も割合が高く、52.1%が日中独居であった。これは、要支援認定者で単身世帯の人が多いためである。
- 日常生活圏域に関しては、「大沢」や「新川・中原」地域で若干、日中独居の割合が高い傾向が見られたが（40.8%と 39.1%）、大きな差ではなかった。
- 所得段階別では、「第 1～3 段階」の人で日中独居の割合が高かった（51.2%）。
- 住居形態別では、「借家」や「公営住宅」で日中独居の割合が高い傾向が見られた（50.1%と 44.3%）。
- 世帯構成別では、「単身世帯」では 77.5%が日中独居であったが、三世帯家族でも 3 割弱の人は日中独居であった。

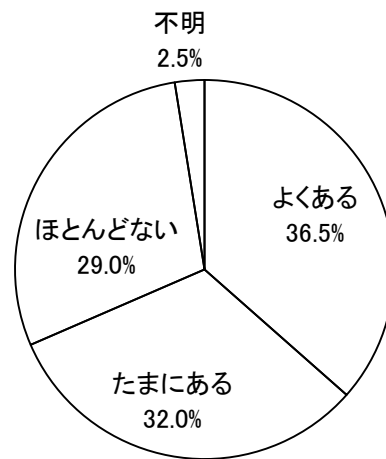


図1-6-3 日中のほとんどの時間、一人になることがあるか

表 1-6-2 日中独居

		人数	よくある	たまにある	ほとんどない	不明
総数		2,698	36.5%	32.0%	29.0%	2.5%
性別	男性	1,198	32.6%	36.6%	28.5%	2.3%
	女性	1,491	39.5%	28.4%	29.4%	2.7%
年齢階級	65～69歳	713	31.3%	33.9%	33.2%	1.5%
	70～74歳	620	35.0%	31.9%	32.4%	0.6%
	75～79歳	565	36.8%	32.6%	28.0%	2.7%
	80～84歳	428	40.2%	32.5%	23.6%	3.7%
	85歳以上	363	44.1%	27.3%	22.6%	6.1%
認定状況	認定なし	2,317	35.5%	32.7%	30.0%	1.9%
	要支援 1・2	144	52.1%	30.6%	13.9%	3.5%
	要介護 1・2	150	44.0%	27.3%	21.3%	7.3%
	要介護 3～5	78	20.5%	25.6%	42.3%	11.5%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	35.8%	33.3%	28.7%	2.1%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	35.3%	34.0%	28.0%	2.7%
	井の頭	253	37.2%	33.6%	25.7%	3.6%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	35.0%	32.8%	29.3%	3.0%
	新川 1、4-6、中原	445	39.1%	32.6%	26.7%	1.6%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	33.6%	27.2%	37.1%	2.0%
	大沢	201	40.8%	28.4%	26.9%	4.0%
所得段階	第 1～3 段階	719	51.2%	22.8%	21.8%	4.2%
	第 4～5 段階	678	31.0%	34.2%	33.0%	1.8%
	第 6～7 段階	572	35.3%	33.6%	29.0%	2.1%
	第 8～14 段階	720	27.8%	38.1%	32.2%	1.9%
住居形態	持家	2,001	33.5%	34.3%	30.5%	1.6%
	借家	343	50.1%	25.7%	21.3%	2.9%
	公営住宅	203	44.3%	25.1%	26.6%	3.9%
	その他	51	35.3%	19.6%	37.3%	7.8%
世帯構成	単身世帯	448	77.5%	14.5%	4.2%	3.8%
	夫婦二世帯	1,035	23.7%	40.9%	34.9%	0.6%
	子と同居	783	35.6%	33.6%	30.4%	0.4%
	子・孫と同居	197	28.4%	33.5%	36.5%	1.5%
	その他	171	24.6%	25.1%	49.7%	0.6%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

3) 介護状況

- 現在、家族の介護をしている人は11.7%であった。
- 介護をしているか否かについて、性差はほとんどなかった。
- 年齢階級別では「65～69歳」で介護をしている人の割合が最も高く、18.2%であった。
- 認定状況別では、「認定なし（自立）」の人では介護をしている人が12.6%であったが、「要支援認定者」の中にも家族の介護もしている人が1割程度いることがわかった。
- その他の属性については顕著な傾向は見いだせなかったが、世帯構成が「その他」に分類された人で、介護をしている割合が38.0%と高い傾向が見られた。これは、「その他」の世帯には親や兄弟姉妹と同居している人が含まれるため、介護をしている割合が高くなったと考えられる。

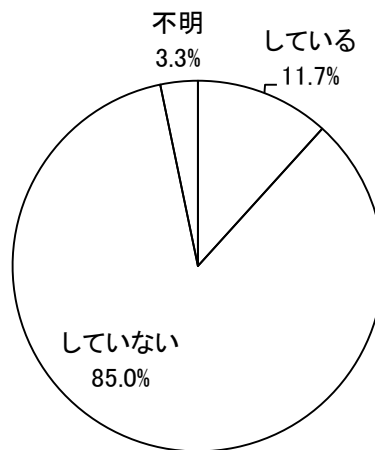


図1-6-4 現在、家族の介護をしているか

表 1-6-3 現在、家族の介護をしているか（同別居は問わない）

		人数	している	していない	不明
総数		2,698	11.7%	85.0%	3.3%
性別	男性	1,198	11.8%	85.1%	3.1%
	女性	1,491	11.7%	84.8%	3.4%
年齢階級	65～69歳	713	18.2%	80.5%	1.3%
	70～74歳	620	10.3%	86.8%	2.9%
	75～79歳	565	9.2%	88.3%	2.5%
	80～84歳	428	9.3%	86.9%	3.7%
	85歳以上	363	8.3%	83.2%	8.5%
認定状況	認定なし	2,317	12.6%	84.9%	2.5%
	要支援 1・2	144	11.1%	83.3%	5.6%
	要介護 1・2	150	2.0%	89.3%	8.7%
	要介護 3～5	78	5.1%	82.1%	12.8%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	11.2%	86.1%	2.7%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	10.6%	86.2%	3.1%
	井の頭	253	14.6%	83.4%	2.0%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	12.3%	83.3%	4.5%
	新川 1、4-6、中原	445	9.9%	85.4%	4.7%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	13.0%	84.1%	2.9%
	大沢	201	12.9%	85.1%	2.0%
所得段階	第 1～3 段階	719	9.6%	85.0%	5.4%
	第 4～5 段階	678	13.7%	82.9%	3.4%
	第 6～7 段階	572	11.9%	85.1%	3.0%
	第 8～14 段階	720	11.9%	86.8%	1.3%
住居形態	持家	2,001	12.4%	85.5%	2.1%
	借家	343	8.2%	87.2%	4.7%
	公営住宅	203	12.3%	83.3%	4.4%
	その他	51	13.7%	80.4%	5.9%
世帯構成	単身世帯	448	5.4%	91.1%	3.6%
	夫婦二世帯	1,035	12.2%	85.4%	2.4%
	子と同居	783	10.1%	87.0%	2.9%
	子・孫と同居	197	9.1%	88.8%	2.0%
	その他	171	38.0%	60.8%	1.2%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

7. 社会関係

1) 社会的孤立

- ・「別居子や親戚」「友人」「近所の人」と会ったり、電話やメールなどで連絡をとる頻度や、「町内会・自治会・老人クラブ」「趣味関係、スポーツ、学習・教養のグループやクラブ・サークル」「ボランティアのグループ」への参加頻度に関して、いずれも月に1回より少ないか、まったくない場合を『社会的孤立』と定義したところ、6.8%が社会的孤立に該当した。これは平成25年の調査結果（5.7%）と同程度であった。
- ・社会的孤立は、男性（9.8%）の方が女性（4.3%）よりも割合が高かった。
- ・社会的孤立の割合は「75～79歳」で4.2%と最も低く、「65～69歳」では8.6%、「85歳以上」では10.2%と、U字型を示していた。
- ・社会的孤立は、「要支援」では3.5%と、「認定なし」の6.3%よりも少なかった。「要介護1～2」「要介護3～5」ではそれぞれ10.7%、19.2%と、「認定なし」よりもかなり高い割合を示していた。
- ・日常生活圏域別では、「井の頭」で社会的孤立の割合が4.3%と低かった。
- ・所得段階別では、「第1～3段階」の社会的孤立の割合が9.0%と多かった。
- ・住宅形態別では、「公営住宅」「借家」で社会的孤立の割合がそれぞれ11.3%と10.2%と高かった。
- ・世帯構成別では「子と同居」における社会的孤立の割合が9.8%と高い傾向が見られた。

表 1-7-1 社会的孤立の状況

	週に 2回以上	週に 1回	月に 2-3回	月に 1回	月1回 未満	ほとんど ない	不明
別居子や親戚との交流頻度	24.9%	14.9%	17.0%	14.8%	9.7%	13.8%	4.9%
友人との交流頻度	26.6%	12.2%	18.0%	12.2%	9.3%	19.0%	2.7%
近所の人との交流頻度	24.6%	12.9%	10.6%	7.2%	5.2%	35.5%	4.0%
地域組織への参加	1.5%	5.2%	5.1%	9.7%	8.0%	68.1%	2.5%
趣味等のグループへの参加	5.1%	14.2%	10.9%	12.0%	4.3%	51.3%	2.3%
ボランティアのグループへの参加	0.9%	1.3%	2.9%	5.4%	4.4%	81.8%	3.3%
社会的孤立 (上記のいずれも月に1回未満か、まったくない人)	6.8%						

注1) 総数は2,698人。

注2) 交流頻度は、会ったり、電話やメールなどで連絡をとる頻度を質問した。

注3) 「別居子や親戚との交流頻度」の「ほとんどない」には「別居親族はいない」という回答も含まれる。

注4) 「地域組織」は町内会、自治会、老人クラブを、「趣味等のグループ」は趣味関係、スポーツ、学習・教養のグループやクラブについて質問した。

表 1-7-2 社会的孤立

		人数	社会的孤立
総数		2,698	6.8%
性別	男性	1,198	9.8%
	女性	1,491	4.3%
年齢階級	65～69歳	713	8.6%
	70～74歳	620	5.6%
	75～79歳	565	4.2%
	80～84歳	428	5.6%
	85歳以上	363	10.2%
認定状況	認定なし	2,317	6.3%
	要支援 1・2	144	3.5%
	要介護 1・2	150	10.7%
	要介護 3～5	78	19.2%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	5.5%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	7.3%
	井の頭	253	4.3%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	8.3%
	新川 1、4-6、中原	445	7.9%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	5.8%
	大沢	201	8.0%
所得段階	第 1～3 段階	719	9.0%
	第 4～5 段階	678	5.8%
	第 6～7 段階	572	6.1%
	第 8～14 段階	720	5.8%
住居形態	持家	2,001	5.7%
	借家	343	10.2%
	公営住宅	203	11.3%
	その他	51	9.8%
世帯構成	単身世帯	448	6.5%
	夫婦二人世帯	1,035	4.6%
	子と同居	783	9.8%
	子・孫と同居	197	5.1%
	その他	171	9.4%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

2) 誰とも話をしない日数

- ふだん誰とも話をしない日が何日くらいあるかを、「ほとんどない」「週に1~2日くらい」「週に3日以上ある」という選択肢を用いて質問した。誰とも話をしない日が「ほとんどない」人が77.4%、「週に1~2日くらい」が12.2%、「週に3日以上ある」は7.5%であった。
- 誰とも話さない日が「週に3日以上ある」人の割合は、男性の方が女性よりも高かった。
- 誰とも話さない日が「週に3日以上ある」人の割合は、高齢になるに従って増加する傾向にあった。
- 誰とも話さない日が「週に3日以上ある」人の割合は、「要支援」では18.8%と、「要介護1~2」「要介護3~5」のそれぞれの割合（10.7%、11.5%）よりも高かった。
- 日常生活圏域別では、「井の頭」でこの割合が5.5%と低かった。
- 所得段階別では、「第1~3段階」で「週に3日以上ある」人の割合が12.9%と多かった。
- 住宅形態別では、「公営住宅」「借家」で「週に3日以上ある」人の割合がそれぞれ12.3%と12.2%で高かった。
- 世帯構成別では、「単身世帯」で「週に3日以上ある」人の割合が22.5%と高かった。

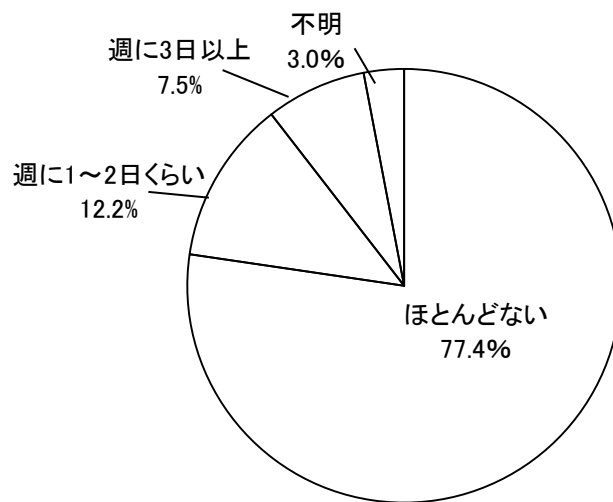


図 1-7-1 誰とも話をしない日数

表 1-7-3 誰とも話をしない日が週に3日以上ある人の割合

		人数	誰とも話をしない日が週に3日以上ある人
総数		2,698	7.5%
性別	男性	1,198	8.9%
	女性	1,491	6.4%
年齢階級	65～69歳	713	6.9%
	70～74歳	620	6.0%
	75～79歳	565	7.3%
	80～84歳	428	9.6%
	85歳以上	363	9.4%
認定状況	認定なし	2,317	6.5%
	要支援 1・2	144	18.8%
	要介護 1・2	150	10.7%
	要介護 3～5	78	11.5%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	7.1%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	7.7%
	井の頭	253	5.5%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	6.8%
	新川 1、4-6、中原	445	9.0%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	7.8%
	大沢	201	8.5%
所得段階	第1～3段階	719	12.9%
	第4～5段階	678	4.3%
	第6～7段階	572	7.5%
	第8～14段階	720	5.1%
住居形態	持家	2,001	6.2%
	借家	343	12.2%
	公営住宅	203	12.3%
	その他	51	5.9%
世帯構成	単身世帯	448	22.5%
	夫婦二世帯	1,035	2.9%
	子と同居	783	6.3%
	子・孫と同居	197	4.1%
	その他	171	5.8%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

3) 社会的支援

- 日常生活で、ちょっとした手助けが必要な時に手助けしてくれる人（手段的支援）は、「家族・親戚」が最も多く（81.4%）、次いで「近隣の人」が14.6%、「友人・知人」が12.9%で、「誰もいない」は7.0%であった。これは平成25年の調査結果（手段的支援なし：7.3%）と同程度であった。
- 話を聴いてくれたり、理解してくれる人（情緒的支援）は、「家族・親戚」が最も多く（85.2%）、次いで「友人・知人」が40.3%、「誰もいない」が2.7%であった。これは平成25年の調査結果（情緒的支援なし：3.6%）と同程度であった。
- 健康・生活・福祉のことで相談にのってくれたり、情報を提供してくれる人（情動的支援）も、「家族・親戚」が最も多く（76.1%）、次いで「友人・知人」が31.5%、「誰もいない」は6.4%であった。これは平成25年の調査結果（情動的支援なし：8.0%）と同程度であった。
- いずれの支援についても、男性の方が女性よりも「誰もいない」人の割合が高かった。
- 手段的支援、情動的支援については、高齢になるに従って、また要介護度が重くなるに従って「誰もいない」人の割合は低下する傾向がうかがえた。
- 日常生活圏域別では、いずれの支援とも圏域による違いは顕著でなかった。
- 所得段階別では、手段的支援、情緒的支援、情動的支援のいずれも「第1～3段階」で「誰もいない人」の割合が高い傾向が見られた。
- 住宅形態別では、すべての支援について「借家」の人で「誰もいない」人の割合が最も高かった。
- 世帯構成別では、「単身世帯」でいずれの支援についても「誰もいない」人の割合が高かった。

表1-7-4 社会的支援（複数回答）

	家族 親戚	近隣の人	友人 知人	ヘルパー・ケア マネジャー	その他	誰も いない
日常生活でちょっとした手助けを してくれる人	81.4%	14.6%	12.9%	6.4%	2.1%	7.0%
話を聴いてくれたり、理解してく れる人	85.2%	14.7%	40.3%	6.9%	1.9%	2.7%
健康・生活・福祉の相談にのって くれたり情報を提供してくれる人	76.1%	13.1%	31.5%	9.7%	3.6%	6.4%

注1) 複数回答

注2) 総数は2,698人

表 1-7-5 社会的支援（誰もいない人の割合）

		人数	手段的支援	情緒的支援	情報の支援
総数		2,698	7.0%	2.7%	6.4%
性別	男性	1,198	9.0%	4.2%	8.0%
	女性	1,491	5.4%	1.4%	5.0%
年齢階級	65～69歳	713	9.3%	2.7%	7.6%
	70～74歳	620	7.1%	3.1%	7.6%
	75～79歳	565	5.7%	1.6%	6.2%
	80～84歳	428	7.2%	4.0%	6.1%
	85歳以上	363	4.1%	1.9%	2.5%
認定状況	認定なし	2,317	7.5%	2.6%	7.0%
	要支援 1・2	144	7.6%	4.9%	2.8%
	要介護 1・2	150	2.7%	2.0%	3.3%
	要介護 3～5	78	0.0%	0.0%	0.0%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	7.5%	2.5%	5.5%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	7.3%	3.5%	8.1%
	井の頭	253	4.7%	1.6%	4.7%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	6.3%	2.5%	6.3%
	新川 1、4-6、中原	445	8.5%	2.2%	6.5%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	6.7%	3.2%	6.4%
	大沢	201	6.5%	2.5%	6.5%
所得段階	第 1～3 段階	719	9.3%	4.3%	9.3%
	第 4～5 段階	678	3.7%	1.3%	3.2%
	第 6～7 段階	572	9.4%	3.0%	8.7%
	第 8～14 段階	720	5.8%	1.9%	4.4%
住居形態	持家	2,001	5.9%	2.0%	5.0%
	借家	343	13.7%	7.0%	12.8%
	公営住宅	203	6.4%	3.0%	10.3%
	その他	51	5.9%	0.0%	3.9%
世帯構成	単身世帯	448	18.3%	6.9%	14.3%
	夫婦二人世帯	1,035	5.8%	1.6%	5.1%
	子と同居	783	2.9%	1.4%	4.6%
	子・孫と同居	197	0.5%	1.5%	2.0%
	その他	171	11.1%	3.5%	7.0%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

8. 社会活動・社会参加

1) 就労

- 収入のある仕事の頻度について調べた結果、「週4回以上」14.9%、「週2～3回」6.6%、「週1回」2.5%、「月に1～3回」2.8%、「年に数回」2.0%、「していない」69.1%であった。全体の約7割が「していない」という結果となった。これは平成25年の調査結果（週に1回以上：22.9%、まったくしていない：69.7%）と同程度であった。
- 平成27年の国民生活基礎調査では、65歳以上の「仕事あり」の割合は男性で35.3%、女性で17.7%であった^(注)。本調査では仕事を「月に1回以上」している人が男性で32.3%、女性で17.3%であったので、国民生活基礎調査の結果との大きな違いはないと言えるだろう。
- 年齢階級別にみると、仕事を「していない」と回答した人の割合は「65～69歳」では49.2%で、半数近くが多少とも仕事をしていたが、高齢になるに従って仕事をしていない人の割合が高くなり、「85歳以上」では約9割が仕事をしていなかった。
- 日常生活圏域別にみると、仕事をしていない人の割合が最も低かったのは「大沢」であった（66.7%）。その他の地域では、仕事をしていない人の割合に顕著な違いが見られなかった。
- 所得段階別にみると、「第8～14段階」の人では仕事をしていない人は50.4%と少なく、「週に4回以上」仕事をしている人が29.3%いて、仕事をしている人が多いことがうかがえた。

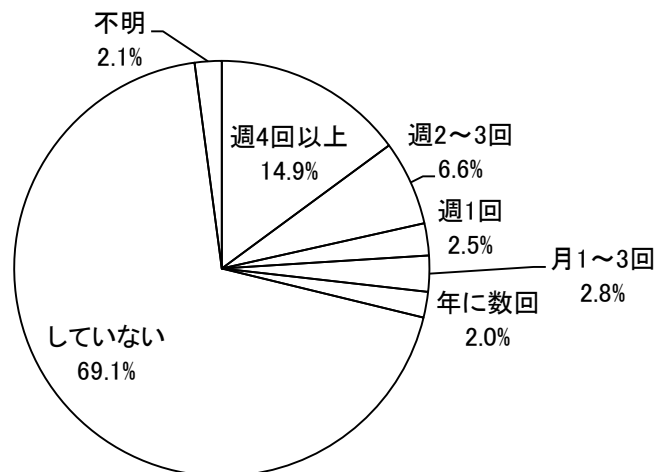


図1-8-1 収入のある仕事の頻度

注)厚生労働省、「平成27年国民生活基礎調査の概況」の「結果の概要」
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa15/dl/02.pdf>

表 1-8-1 収入のある仕事の頻度

		人数	週4回 以上	週2～ 3回	週1回	月1～ 3回	年に 数回	して いない	不明
総数		2,698	14.9%	6.6%	2.5%	2.8%	2.0%	69.1%	2.1%
性別	男性	1,198	21.5%	7.3%	3.4%	3.4%	2.2%	60.0%	2.1%
	女性	1,491	9.5%	6.0%	1.8%	2.3%	1.9%	76.3%	2.1%
年齢階級	65～69歳	713	30.6%	10.0%	3.2%	3.2%	2.7%	49.2%	1.1%
	70～74歳	620	16.5%	8.5%	3.7%	2.4%	2.3%	65.0%	1.6%
	75～79歳	565	8.7%	6.4%	1.9%	3.0%	1.8%	75.8%	2.5%
	80～84歳	428	5.8%	3.5%	1.6%	2.6%	1.6%	82.2%	2.6%
	85歳以上	363	1.7%	0.8%	1.1%	2.5%	1.1%	89.0%	3.9%
認定状況	認定なし	2,317	17.0%	7.6%	2.9%	3.1%	2.0%	65.4%	2.0%
	要支援1・2	144	0.7%	2.1%	0.7%	1.4%	1.4%	89.6%	4.2%
	要介護1・2	150	1.3%	0.0%	0.0%	0.7%	1.3%	94.0%	2.7%
	要介護3～5	78	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	92.3%	1.3%
日常生活圏域	下連雀1-4、上連雀1-5	561	15.2%	7.0%	3.0%	2.7%	2.5%	66.8%	2.9%
	下連雀5-9、上連雀6-9、野崎1	479	16.3%	9.6%	1.7%	2.3%	1.0%	67.6%	1.5%
	井の頭	253	8.7%	5.5%	6.3%	2.8%	2.8%	72.3%	1.6%
	牟礼、北野、新川2-3	400	14.8%	5.0%	2.0%	2.3%	2.0%	71.8%	2.3%
	新川1、4-6、中原	445	16.0%	5.6%	1.3%	4.0%	2.7%	68.1%	2.2%
	野崎2-4、井口、深大寺	345	15.7%	5.8%	1.4%	2.6%	1.2%	71.6%	1.7%
	大沢	201	14.9%	7.0%	4.0%	3.0%	2.0%	66.7%	2.5%
所得段階	第1～3段階	719	8.1%	4.6%	1.5%	1.8%	2.1%	79.6%	2.4%
	第4～5段階	678	5.8%	4.7%	3.1%	2.7%	1.6%	80.7%	1.5%
	第6～7段階	572	16.1%	10.8%	1.9%	2.6%	1.4%	65.6%	1.6%
	第8～14段階	720	29.3%	7.1%	3.5%	4.0%	2.8%	50.4%	2.9%
住居形態	持家	2,001	13.3%	7.2%	3.2%	3.1%	2.0%	69.2%	1.8%
	借家	343	23.6%	4.4%	0.6%	1.5%	2.0%	65.3%	2.6%
	公営住宅	203	14.8%	6.4%	0.0%	1.5%	1.0%	73.4%	3.0%
	その他	51	11.8%	5.9%	2.0%	3.9%	3.9%	70.6%	2.0%
世帯構成	単身世帯	448	10.7%	6.0%	1.8%	2.5%	2.5%	74.3%	2.2%
	夫婦二世帯	1,035	14.7%	7.2%	3.0%	3.4%	2.3%	68.3%	1.1%
	子と同居	783	15.5%	7.7%	2.7%	2.9%	1.1%	66.9%	3.2%
	子・孫と同居	197	15.7%	4.1%	2.0%	1.0%	2.0%	73.1%	2.0%
	その他	171	23.4%	4.1%	2.3%	2.3%	2.9%	63.7%	1.2%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

2) 町内会・自治会等の地域活動

- 町内会、自治会、老人クラブへの参加頻度について調べた結果、「週4回以上」1.5%、「週2~3回」5.2%、「週1回」5.1%、「月に1~3回」9.7%、「年に数回」8.0%、「していない」68.1%であった。このような活動に参加していない人の割合は、平成25年の調査結果（77.6%）よりも減少していた。
- 年齢階級別に見てみると、「69歳以下」に比べて「70歳以上」の方が参加している人の割合が高かった。
- 日常生活圏域別では、「下連雀1-4、上連雀1-5」地域は他の地域に比べて参加している人の割合が高く、「野崎2-4、井口、深大寺」地域では低い傾向が見られた。
- 住居形態別では、「公営住宅」で参加率が高く、「借家」や「その他」では低い傾向が見られた。

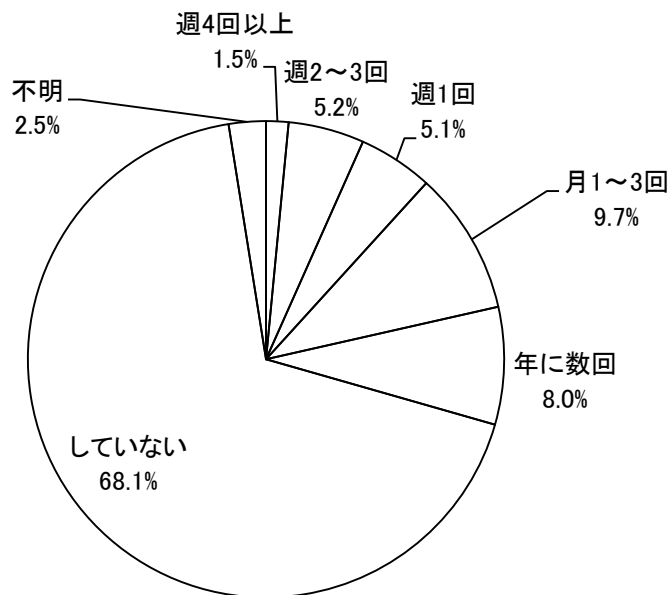


図1-8-2 町内会、自治会、老人クラブへの参加頻度

表 1-8-2 町内会、自治会、老人クラブへの参加頻度

		人数	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	していない	不明
総数		2,698	1.5%	5.2%	5.1%	9.7%	8.0%	68.1%	2.5%
性別	男性	1,198	1.4%	3.6%	3.8%	8.4%	8.8%	72.5%	1.6%
	女性	1,491	1.6%	6.4%	6.2%	10.7%	7.3%	64.5%	3.3%
年齢階級	65～69歳	713	0.4%	2.2%	3.4%	8.7%	7.4%	76.3%	1.5%
	70～74歳	620	1.9%	4.0%	5.0%	9.2%	10.3%	67.4%	2.1%
	75～79歳	565	1.6%	6.9%	6.4%	11.5%	8.0%	61.9%	3.7%
	80～84歳	428	2.6%	9.6%	5.1%	9.1%	6.3%	65.0%	2.3%
	85歳以上	363	1.7%	5.0%	6.6%	10.5%	6.9%	65.8%	3.6%
認定状況	認定なし	2,317	1.6%	5.0%	5.2%	9.9%	8.4%	67.5%	2.4%
	要支援1・2	144	2.8%	8.3%	5.6%	9.0%	11.8%	60.4%	2.1%
	要介護1・2	150	0.0%	5.3%	4.7%	10.0%	2.0%	73.3%	4.7%
	要介護3～5	78	1.3%	2.6%	1.3%	3.8%	0.0%	88.5%	2.6%
日常生活圏域	下連雀1-4、上連雀1-5	561	2.5%	7.7%	5.3%	9.6%	9.8%	62.9%	2.1%
	下連雀5-9、上連雀6-9、野崎1	479	1.7%	3.8%	4.2%	8.1%	7.3%	72.2%	2.7%
	井の頭	253	2.0%	5.9%	5.9%	9.9%	4.3%	70.0%	2.0%
	牟礼、北野、新川2-3	400	1.0%	3.3%	5.0%	9.8%	8.5%	69.8%	2.8%
	新川1、4-6、中原	445	0.7%	6.1%	4.0%	11.7%	10.6%	63.4%	3.6%
	野崎2-4、井口、深大寺	345	0.9%	3.5%	7.0%	8.1%	6.1%	73.0%	1.4%
	大沢	201	2.0%	5.0%	5.0%	11.9%	5.5%	67.7%	3.0%
所得段階	第1～3段階	719	1.5%	5.0%	4.7%	10.4%	7.8%	67.3%	3.2%
	第4～5段階	678	1.0%	6.5%	4.9%	9.4%	7.2%	67.6%	3.4%
	第6～7段階	572	2.3%	5.4%	4.4%	10.3%	8.4%	67.5%	1.7%
	第8～14段階	720	1.4%	3.9%	6.3%	8.8%	8.5%	69.6%	1.7%
住居形態	持家	2,001	1.6%	5.5%	5.0%	9.9%	8.1%	67.6%	2.2%
	借家	343	0.9%	4.1%	4.1%	6.1%	4.7%	77.6%	2.6%
	公営住宅	203	2.5%	4.9%	5.4%	14.8%	13.3%	56.2%	3.0%
	その他	51	2.0%	2.0%	5.9%	3.9%	5.9%	72.5%	7.8%
世帯構成	単身世帯	448	1.6%	3.8%	5.4%	11.6%	6.7%	68.3%	2.7%
	夫婦二世帯	1,035	1.5%	5.1%	6.0%	9.4%	8.4%	66.4%	3.2%
	子と同居	783	1.4%	4.7%	4.3%	9.6%	8.3%	70.1%	1.5%
	子・孫と同居	197	2.5%	9.1%	4.6%	10.2%	8.1%	63.5%	2.0%
	その他	171	0.6%	5.8%	3.5%	7.0%	7.6%	73.7%	1.8%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

3) 趣味・自己啓発活動

- 趣味関係、スポーツ、学習・教養等のグループやクラブ・サークルへの参加頻度について調べた結果、「週4回以上」5.1%、「週2～3回」14.2%、「週1回」10.9%、「月に1～3回」12.0%、「年に数回」4.3%、「していない」51.3%であった。このような活動に参加していない人の割合は、平成25年の調査結果(50.6%)と同程度であった。
- 性別では、このような活動をしていない人の割合は「男性」では56.0%、「女性」では47.4%であり、女性の方が参加率は高い傾向にあった。
- 住居形態別に見てみると、このような活動をしていない人の割合は「持家」46.8%、「公営住宅」65.5%、「借家」65.6%であり、「持家」の人で趣味関係やスポーツ、学習・教養グループやクラブ、サークルへの参加率が高い傾向が見られた。

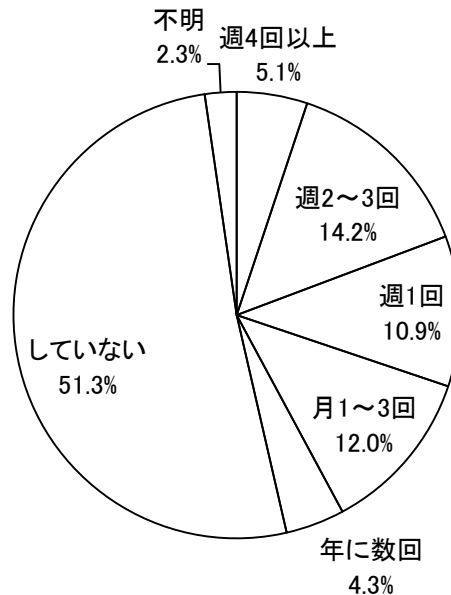


図1-8-3 趣味、スポーツ、学習等のグループへの参加頻度

表 1-8-3 趣味関係、スポーツ、学習・教養等のグループやクラブ・サークルへの参加頻度

		人数	週4回 以上	週2～ 3回	週1回	月1～ 3回	年に 数回	して いない	不明
総数		2,698	5.1%	14.2%	10.9%	12.0%	4.3%	51.3%	2.3%
性別	男性	1198	4.7%	10.9%	9.4%	10.9%	5.8%	56.0%	2.3%
	女性	1491	5.5%	16.8%	12.1%	12.8%	3.0%	47.4%	2.3%
年齢階級	65～69歳	713	4.8%	13.6%	11.6%	12.6%	4.9%	51.8%	0.7%
	70～74歳	620	7.6%	15.5%	12.9%	12.4%	4.7%	45.2%	1.8%
	75～79歳	565	5.7%	17.3%	12.7%	12.6%	5.5%	43.2%	3.0%
	80～84歳	428	5.1%	14.3%	8.2%	10.7%	1.9%	56.8%	3.0%
	85歳以上	363	0.8%	8.0%	6.6%	10.5%	3.0%	66.7%	4.4%
認定状況	認定なし	2,317	5.8%	15.4%	12.0%	12.5%	4.5%	47.7%	2.1%
	要支援 1・2	144	2.1%	11.1%	6.9%	13.2%	3.5%	61.1%	2.1%
	要介護 1・2	150	0.0%	5.3%	2.7%	8.7%	2.7%	75.3%	5.3%
	要介護 3～5	78	0.0%	0.0%	2.6%	1.3%	1.3%	92.3%	2.6%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	6.1%	18.2%	11.4%	11.9%	3.6%	46.5%	2.3%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	2.9%	13.2%	8.8%	11.7%	5.0%	56.2%	2.3%
	井の頭	253	7.1%	12.3%	16.2%	11.5%	4.3%	47.0%	1.6%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	4.8%	12.5%	11.5%	13.5%	4.5%	51.0%	2.3%
	新川 1、4-6、中原	445	3.6%	14.2%	10.6%	10.3%	6.3%	51.5%	3.6%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	6.1%	14.2%	9.6%	12.2%	2.0%	54.2%	1.7%
	大沢	201	8.0%	11.4%	9.5%	13.9%	3.0%	53.2%	1.0%
所得段階	第1～3段階	719	3.6%	11.1%	8.9%	9.3%	3.9%	59.4%	3.8%
	第4～5段階	678	5.8%	16.5%	12.2%	12.7%	3.1%	47.6%	2.1%
	第6～7段階	572	5.9%	14.0%	9.6%	13.8%	4.2%	50.9%	1.6%
	第8～14段階	720	5.4%	15.1%	12.8%	12.5%	5.7%	46.8%	1.7%
住居形態	持家	2,001	6.0%	16.0%	11.8%	13.1%	4.3%	46.8%	1.9%
	借家	343	2.0%	9.6%	7.6%	9.6%	2.9%	65.6%	2.6%
	公営住宅	203	2.5%	6.4%	7.4%	7.9%	6.4%	65.5%	3.9%
	その他	51	3.9%	9.8%	5.9%	11.8%	2.0%	60.8%	5.9%
世帯構成	単身世帯	448	5.4%	12.7%	10.3%	13.4%	3.8%	52.2%	2.2%
	夫婦二世帯	1,035	6.5%	15.6%	13.1%	13.8%	4.4%	44.4%	2.1%
	子と同居	783	3.8%	13.2%	7.5%	9.8%	4.5%	58.9%	2.3%
	子・孫と同居	197	6.1%	18.3%	11.2%	10.2%	4.1%	47.7%	2.5%
	その他	171	2.3%	11.7%	14.0%	11.7%	5.3%	53.8%	1.2%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

4) ボランティア活動

- ボランティアグループへの参加頻度について調べた結果、「週4回以上」0.9%、「週2～3回」1.3%、「週1回」2.9%、「月に1～3回」5.4%、「年に数回」4.4%、「していない」81.8%であった。このような活動に参加していない人の割合は、平成25年の調査結果（85.1%）よりも減少していた。
- 性別では「女性」で、認定状況別では「認定なし（自立）」の人で、所得段階別では「高所得」の人で、住居形態別では「持家」と「公営住宅」の人で、世帯構成別では「夫婦のみ」と「三世帯同居」の人で、ボランティアグループに参加している人の割合が他に比べて高かった。

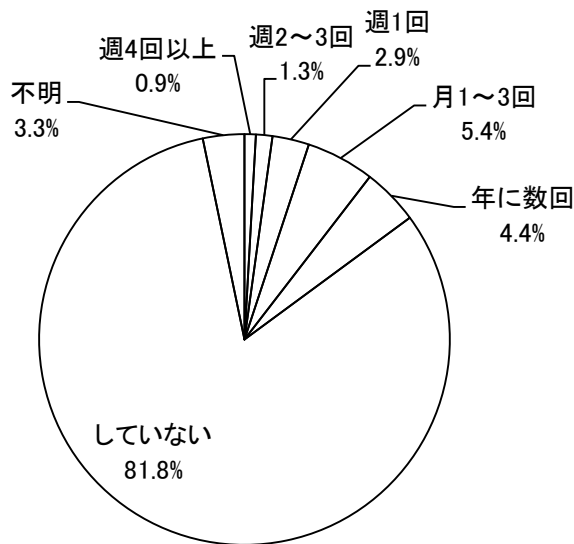


図1-8-4 ボランティアグループへの参加頻度

表 1-8-4 ボランティアグループへの参加頻度

		人数	週4回 以上	週2～ 3回	週1回	月1～ 3回	年に 数回	して いない	不明
総数		2,698	0.9%	1.3%	2.9%	5.4%	4.4%	81.8%	3.3%
性別	男性	1,198	0.7%	1.2%	1.9%	5.2%	5.3%	83.4%	2.4%
	女性	1,491	1.1%	1.4%	3.7%	5.6%	3.8%	80.5%	4.0%
年齢階級	65～69歳	713	1.0%	1.7%	2.4%	5.8%	5.3%	82.9%	1.0%
	70～74歳	620	0.8%	1.6%	4.0%	5.8%	5.0%	80.8%	1.9%
	75～79歳	565	1.4%	1.6%	4.1%	5.8%	4.2%	78.6%	4.2%
	80～84歳	428	0.9%	0.5%	1.9%	5.8%	4.4%	81.5%	4.9%
	85歳以上	363	0.0%	0.6%	1.4%	2.8%	2.2%	86.5%	6.6%
認定状況	認定なし	2,317	1.0%	1.5%	3.2%	6.0%	4.9%	80.5%	2.9%
	要支援1・2	144	0.0%	0.7%	2.1%	3.5%	2.1%	87.5%	4.2%
	要介護1・2	150	0.7%	0.0%	0.0%	1.3%	2.0%	89.3%	6.7%
	要介護3～5	78	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	94.9%	5.1%
日常生活圏域	下連雀1-4、上連雀1-5	561	0.7%	2.1%	4.1%	6.1%	5.7%	78.3%	3.0%
	下連雀5-9、上連雀6-9、野崎1	479	1.5%	0.6%	2.3%	5.0%	2.5%	85.8%	2.3%
	井の頭	253	0.4%	2.4%	4.0%	5.5%	3.2%	81.4%	3.2%
	牟礼、北野、新川2-3	400	0.5%	0.5%	1.5%	5.8%	3.3%	84.0%	4.5%
	新川1、4-6、中原	445	0.9%	1.1%	2.5%	5.8%	5.4%	79.6%	4.7%
	野崎2-4、井口、深大寺	345	0.3%	1.2%	3.5%	2.6%	6.4%	83.5%	2.6%
	大沢	201	2.5%	1.5%	2.5%	7.5%	4.5%	80.1%	1.5%
所得段階	第1～3段階	719	1.4%	0.7%	1.7%	4.2%	4.0%	83.2%	4.9%
	第4～5段階	678	0.9%	1.5%	3.7%	4.9%	4.7%	81.3%	3.1%
	第6～7段階	572	0.9%	1.2%	2.8%	6.6%	3.7%	82.2%	2.6%
	第8～14段階	720	0.4%	1.8%	3.5%	6.1%	5.3%	80.6%	2.4%
住居形態	持家	2,001	0.8%	1.5%	3.5%	6.0%	5.0%	80.5%	2.6%
	借家	343	0.3%	0.3%	0.6%	3.2%	1.5%	89.5%	4.7%
	公営住宅	203	3.0%	1.5%	1.0%	5.4%	3.4%	81.8%	3.9%
	その他	51	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	90.2%	7.8%
世帯構成	単身世帯	448	1.1%	0.4%	1.8%	5.1%	3.3%	84.4%	3.8%
	夫婦二世帯	1,035	0.9%	1.5%	3.3%	6.6%	5.4%	80.0%	2.3%
	子と同居	783	0.6%	1.4%	2.4%	3.7%	4.6%	83.8%	3.4%
	子・孫と同居	197	0.0%	1.5%	4.1%	7.6%	2.5%	79.7%	4.6%
	その他	171	1.2%	1.8%	2.9%	5.3%	2.9%	83.6%	2.3%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

5) ボランティア活動への関心

- ボランティア活動への関心について、「高齢者のお宅を訪問し、買い物、調理、掃除などを手伝う活動」「高齢者などに食事を届ける活動」「ひとり暮らしの高齢者等への声かけ・見守り活動」「地域住民が集まるコミュニティカフェやサロンなどの居場所づくり活動」を取り上げ、これらの活動への関心を調べた。
- 「高齢者のお宅を訪問し、買い物、調理、掃除などを手伝う活動」については、「すでに活動している」2.1%、「すぐにでも活動してみたい」0.4%、「今後、活動してみたい」10.9%、「関心がない、または、活動できない」70.9%であった。
- 「高齢者のお宅を訪問し、買い物、調理、掃除などを手伝う活動」について「すでに活動/すぐにでも活動してみたい/今後活動してみたい」という人の割合が高かったのは、65～69歳の人、大沢地域の人、公営住宅の人であった。
- 「高齢者などに食事を届ける配食ボランティア」については、「すでに活動している」0.9%、「すぐにでも活動してみたい」0.4%、「今後、活動してみたい」12.3%、「関心がない、または、活動できない」69.8%であった。
- 「配食ボランティア」について「すでに活動/すぐにでも活動してみたい/今後活動してみたい」という人の割合が高かったのは、65～69歳の人、大沢地域の人、所得段階が第6～7段階の人であった。
- 「ひとり暮らしの高齢者等への声かけ・見守り活動」については、「すでに活動している」3.9%、「すぐにでも活動してみたい」1.1%、「今後、活動してみたい」20.0%、「関心がない、または、活動できない」59.9%であった。
- 声かけ・見守り活動について「すでに活動/すぐにでも活動してみたい/今後活動してみたい」という人の割合が高かったのは、65～69歳の人、大沢地域の人、所得段階が第4～7段階の人であった。
- 「地域住民が集まるコミュニティカフェやサロンなどの居場所づくり活動」については、「すでに活動している」2.0%、「すぐにでも活動してみたい」1.0%、「今後、活動してみたい」20.4%、「関心がない、または、活動できない」62.2%であった。
- 「地域住民が集まるコミュニティカフェやサロンなどの居場所づくり活動」について「すでに活動/すぐにでも活動してみたい/今後活動してみたい」という人の割合が高かったのは、65～74歳の人、要介護認定を受けていない人、下連雀1-4、上連雀1-5、大沢地域の人、所得段階が第8段階以上の人、夫婦二人世帯の人であった。

表 1-8-5 「高齢者のお宅を訪問し、買い物、調理、掃除などを手伝う活動」への関心

		人数	すでに活動している	すぐにも活動してみたい	今後、活動してみたい	関心がないまたは活動できない	不明
総数		2,698	2.1%	0.4%	10.9%	70.9%	15.8%
性別	男性	1,198	0.7%	0.3%	12.0%	74.5%	12.5%
	女性	1,491	3.2%	0.6%	9.9%	67.9%	18.4%
年齢階級	65～69歳	713	2.2%	0.4%	18.7%	68.2%	10.5%
	70～74歳	620	2.9%	0.6%	11.8%	71.1%	13.5%
	75～79歳	565	2.8%	0.4%	10.1%	70.6%	16.1%
	80～84歳	428	0.9%	0.5%	5.1%	73.6%	19.9%
	85歳以上	363	0.6%	0.3%	1.9%	72.7%	24.5%
認定状況	認定なし	2,317	2.3%	0.5%	12.3%	70.0%	14.9%
	要支援 1・2	144	1.4%	0.0%	3.5%	72.9%	22.2%
	要介護 1・2	150	0.7%	0.7%	0.7%	78.0%	20.0%
	要介護 3～5	78	0.0%	0.0%	0.0%	78.2%	21.8%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	2.5%	0.4%	10.7%	70.1%	16.4%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	2.3%	0.6%	9.0%	73.3%	14.8%
	井の頭	253	1.6%	0.0%	7.5%	74.3%	16.6%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	1.8%	1.0%	11.0%	69.3%	17.0%
	新川 1、4-6、中原	445	1.3%	0.4%	12.8%	70.3%	15.1%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	0.9%	0.0%	11.9%	70.7%	16.5%
	大沢	201	5.5%	0.5%	12.9%	68.2%	12.9%
所得段階	第1～3段階	719	2.4%	0.3%	7.9%	70.1%	19.3%
	第4～5段階	678	3.5%	0.7%	10.5%	68.6%	16.7%
	第6～7段階	572	1.6%	0.3%	11.7%	70.6%	15.7%
	第8～14段階	720	0.8%	0.4%	13.5%	73.9%	11.4%
住居形態	持家	2,001	2.1%	0.3%	11.2%	72.1%	14.2%
	借家	343	1.5%	0.3%	10.8%	69.7%	17.8%
	公営住宅	203	3.0%	1.5%	11.8%	64.0%	19.7%
	その他	51	0.0%	0.0%	5.9%	74.5%	19.6%
世帯構成	単身世帯	448	2.9%	0.4%	8.7%	68.5%	19.4%
	夫婦二人世帯	1,035	1.3%	0.3%	12.4%	72.8%	13.3%
	子と同居	783	2.7%	0.5%	11.2%	70.9%	14.7%
	子・孫と同居	197	1.5%	1.0%	8.6%	71.6%	17.3%
	その他	171	2.9%	0.6%	11.7%	71.9%	12.9%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

表 1-8-6 「高齢者などに食事を届ける活動」への関心

		人数	すでに活動している	すぐにも活動してみたい	今後、活動してみたい	関心がないまたは活動できない	不明
総数		2,698	0.9%	0.4%	12.3%	69.8%	16.5%
性別	男性	1,198	0.5%	0.5%	13.3%	73.2%	12.5%
	女性	1,491	1.3%	0.4%	11.6%	67.0%	19.7%
年齢階級	65～69歳	713	1.0%	0.3%	22.4%	65.2%	11.1%
	70～74歳	620	1.3%	0.6%	14.0%	70.0%	14.0%
	75～79歳	565	0.9%	0.7%	9.7%	71.0%	17.7%
	80～84歳	428	0.7%	0.2%	5.1%	73.4%	20.6%
	85歳以上	363	0.6%	0.3%	2.2%	72.2%	24.8%
認定状況	認定なし	2,317	1.0%	0.5%	14.1%	68.8%	15.6%
	要支援 1・2	144	0.0%	0.0%	3.5%	72.2%	24.3%
	要介護 1・2	150	0.7%	0.7%	0.7%	77.3%	20.7%
	要介護 3～5	78	0.0%	0.0%	0.0%	78.2%	21.8%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	1.2%	0.2%	13.2%	68.4%	16.9%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	0.6%	0.6%	11.3%	70.4%	17.1%
	井の頭	253	1.2%	0.0%	9.1%	71.9%	17.8%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	1.0%	0.5%	12.5%	69.0%	17.0%
	新川 1、4-6、中原	445	0.2%	0.9%	12.4%	71.2%	15.3%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	1.2%	0.3%	13.0%	69.0%	16.5%
	大沢	201	1.5%	0.5%	14.4%	69.7%	13.9%
所得段階	第1～3段階	719	0.7%	0.6%	8.3%	70.0%	20.4%
	第4～5段階	678	1.2%	0.4%	12.1%	68.3%	18.0%
	第6～7段階	572	1.2%	0.5%	14.5%	68.2%	15.6%
	第8～14段階	720	0.7%	0.3%	14.9%	72.2%	11.9%
住居形態	持家	2,001	0.9%	0.4%	12.8%	70.9%	14.9%
	借家	343	0.6%	0.3%	11.4%	69.4%	18.4%
	公営住宅	203	0.5%	1.0%	12.8%	64.0%	21.7%
	その他	51	0.0%	0.0%	7.8%	72.5%	19.6%
世帯構成	単身世帯	448	1.1%	0.7%	8.9%	69.0%	20.3%
	夫婦二人世帯	1035	0.6%	0.4%	14.3%	70.9%	13.8%
	子と同居	783	0.9%	0.4%	12.6%	70.4%	15.7%
	子・孫と同居	197	1.0%	0.5%	10.7%	68.5%	19.3%
	その他	171	1.8%	0.6%	14.0%	70.8%	12.9%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

表 1-8-7 「ひとり暮らしの高齢者等への声かけ・見守り活動」への関心

		人数	すでに活動している	すぐにでも活動してみたい	今後、活動してみたい	関心がないまたは活動できない	不明
総数		2,698	3.9%	1.1%	20.0%	59.9%	15.0%
性別	男性	1198	1.8%	0.8%	20.2%	65.5%	11.7%
	女性	1491	5.7%	1.4%	19.9%	55.3%	17.6%
年齢階級	65～69歳	713	4.3%	0.7%	31.6%	53.4%	10.0%
	70～74歳	620	3.2%	1.6%	22.7%	60.2%	12.3%
	75～79歳	565	5.3%	1.9%	19.6%	57.3%	15.8%
	80～84歳	428	3.5%	0.9%	9.3%	67.3%	18.9%
	85歳以上	363	2.8%	0.3%	6.1%	67.2%	23.7%
認定状況	認定なし	2317	4.2%	1.3%	22.4%	58.1%	14.0%
	要支援 1・2	144	4.2%	0.7%	8.3%	65.3%	21.5%
	要介護 1・2	150	1.3%	0.7%	3.3%	74.7%	20.0%
	要介護 3～5	78	0.0%	0.0%	3.8%	74.4%	21.8%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	5.3%	0.9%	21.6%	56.5%	15.7%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	3.1%	1.5%	16.5%	63.9%	15.0%
	井の頭	253	3.2%	0.8%	18.2%	61.3%	16.6%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	3.5%	2.0%	19.0%	60.5%	15.0%
	新川 1、4-6、中原	445	3.1%	0.7%	22.5%	60.2%	13.5%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	4.3%	0.3%	19.7%	60.0%	15.7%
	大沢	201	5.0%	2.5%	23.4%	56.2%	12.9%
所得段階	第1～3段階	719	3.5%	1.0%	14.9%	61.6%	19.1%
	第4～5段階	678	5.6%	1.3%	21.2%	56.5%	15.3%
	第6～7段階	572	4.5%	1.0%	22.6%	57.2%	14.7%
	第8～14段階	720	2.4%	1.3%	22.1%	63.5%	10.8%
住居形態	持家	2,001	4.1%	0.9%	20.7%	60.3%	13.9%
	借家	343	2.6%	1.7%	18.7%	61.5%	15.5%
	公営住宅	203	4.4%	2.5%	20.2%	53.7%	19.2%
	その他	51	0.0%	0.0%	11.8%	68.6%	19.6%
世帯構成	単身世帯	448	3.3%	1.8%	16.5%	59.8%	18.5%
	夫婦二人世帯	1035	4.1%	1.0%	21.8%	60.7%	12.5%
	子と同居	783	3.2%	1.1%	21.1%	60.4%	14.2%
	子・孫と同居	197	6.6%	0.5%	18.3%	57.9%	16.8%
	その他	171	2.9%	1.8%	21.6%	60.2%	13.5%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

表 1-8-8 「地域住民が集まるコミュニティカフェやサロンなどの居場所づくり活動」への関心

		人数	すでに活動している	すぐにも活動してみたい	今後、活動してみたい	関心がないまたは活動できない	不明
総数		2,698	2.0%	1.0%	20.4%	62.2%	14.4%
性別	男性	1,198	1.1%	0.8%	22.7%	64.4%	11.1%
	女性	1,491	2.7%	1.2%	18.5%	60.5%	17.1%
年齢階級	65～69歳	713	1.8%	0.7%	30.7%	56.9%	9.8%
	70～74歳	620	2.9%	1.6%	24.0%	60.2%	11.3%
	75～79歳	565	2.3%	1.1%	20.0%	61.1%	15.6%
	80～84歳	428	1.6%	1.2%	9.1%	68.9%	19.2%
	85歳以上	363	0.6%	0.3%	7.7%	70.0%	21.5%
認定状況	認定なし	2,317	2.2%	1.1%	22.9%	60.3%	13.5%
	要支援 1・2	144	2.1%	0.0%	6.9%	70.1%	20.8%
	要介護 1・2	150	0.0%	0.7%	4.0%	76.7%	18.7%
	要介護 3～5	78	0.0%	0.0%	2.6%	75.6%	21.8%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	2.9%	0.7%	23.9%	57.6%	15.0%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	1.5%	1.5%	18.6%	65.1%	13.4%
	井の頭	253	3.2%	1.2%	20.2%	62.5%	13.0%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	2.3%	2.0%	17.0%	62.3%	16.5%
	新川 1、4-6、中原	445	0.9%	0.7%	20.9%	63.1%	14.4%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	0.9%	0.3%	19.1%	64.3%	15.4%
	大沢	201	3.0%	0.5%	22.4%	62.2%	11.9%
所得段階	第1～3段階	719	2.1%	1.0%	13.9%	66.1%	17.0%
	第4～5段階	678	2.5%	1.0%	19.3%	61.1%	16.1%
	第6～7段階	572	2.3%	1.2%	22.2%	59.8%	14.5%
	第8～14段階	720	1.1%	0.8%	26.4%	61.4%	10.3%
住居形態	持家	2,001	2.1%	0.9%	21.5%	62.5%	13.0%
	借家	343	1.7%	0.9%	18.4%	62.1%	16.9%
	公営住宅	203	2.0%	2.0%	16.7%	62.6%	16.7%
	その他	51	0.0%	0.0%	11.8%	68.6%	19.6%
世帯構成	単身世帯	448	1.8%	1.3%	17.0%	63.6%	16.3%
	夫婦二人世帯	1,035	2.7%	1.4%	22.8%	61.6%	11.5%
	子と同居	783	0.8%	0.5%	21.8%	62.1%	14.8%
	子・孫と同居	197	2.5%	0.5%	17.3%	63.5%	16.2%
	その他	171	2.3%	1.2%	17.5%	66.1%	12.9%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

9. 地域環境

1) 地域環境の問題

- 同じ町内会くらいの範囲の地域環境について問題に感じていることを調べた結果、「とても深刻」「やや深刻」と答えた合計が最も多かったのは、「自然災害時の避難場所の問題」、次いで「高齢者が集まる機会や場の乏しさ」「住民同士の交流の乏しさ」であった。
- 「日常の買い物の不便さ」「住民同士の交流の乏しさ」「高齢者が集まる機会や場の乏しさ」は、年齢階級が高くなるほど深刻さの認識も高まる傾向が見られた。
- 日常生活圏域別に見ると、「大沢」地域は「日常の買い物の不便さ」「住民同士の交流の乏しさ」「高齢者が集まる機会や場の乏しさ」「空き家の増加」について、深刻さを感じている人が多い傾向が見られた。

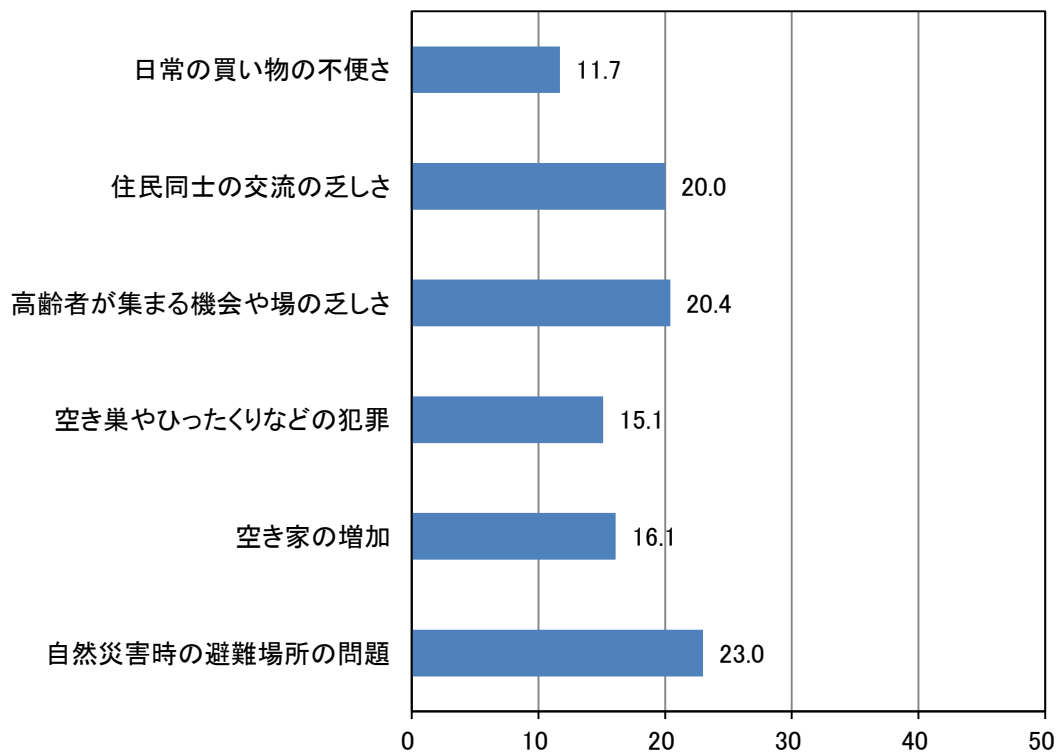


図1-9-1 地域環境の問題
 (「とても深刻」「やや深刻」を合計した割合)

(%)

表 1-9-1 日常の買い物の不便さ

		人数	とても深刻	やや深刻	あまり深刻ではない	まったく深刻ではない	不明
総数		2,698	2.5%	9.2%	33.1%	48.6%	6.7%
性別	男性	1,198	1.9%	6.8%	34.1%	51.0%	6.1%
	女性	1,491	3.0%	10.9%	32.3%	46.7%	7.2%
年齢階級	65～69歳	713	2.1%	6.7%	33.0%	56.1%	2.1%
	70～74歳	620	1.8%	7.3%	31.8%	54.7%	4.5%
	75～79歳	565	2.3%	9.2%	32.0%	51.0%	5.5%
	80～84歳	428	2.6%	12.9%	34.6%	40.7%	9.3%
	85歳以上	363	5.0%	12.1%	35.5%	29.2%	18.2%
認定状況	認定なし	2,317	1.7%	7.7%	33.5%	52.5%	4.6%
	要支援 1・2	144	4.9%	25.0%	32.6%	27.8%	9.7%
	要介護 1・2	150	8.0%	14.7%	28.7%	24.0%	24.7%
	要介護 3～5	78	11.5%	10.3%	29.5%	19.2%	29.5%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	1.1%	6.2%	28.3%	57.4%	7.0%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	0.8%	5.4%	31.9%	55.7%	6.1%
	井の頭	253	2.8%	7.5%	42.3%	39.9%	7.5%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	0.8%	5.3%	30.0%	55.5%	8.5%
	新川 1、4-6、中原	445	2.0%	8.3%	34.4%	47.9%	7.4%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	4.3%	13.3%	35.7%	40.6%	6.1%
	大沢	201	11.9%	29.4%	36.8%	19.4%	2.5%
所得段階	第 1～3 段階	719	4.0%	10.7%	31.6%	42.4%	11.3%
	第 4～5 段階	678	2.1%	10.9%	34.1%	47.5%	5.5%
	第 6～7 段階	572	3.0%	8.4%	35.0%	47.9%	5.8%
	第 8～14 段階	720	1.10%	6.30%	32.2%	56.4%	4.0%
住居形態	持家	2,001	2.5%	9.1%	33.8%	49.5%	5.0%
	借家	343	2.3%	5.8%	28.0%	56.3%	7.6%
	公営住宅	203	3.0%	15.3%	39.4%	32.0%	10.3%
	その他	51	2.0%	9.8%	27.5%	37.3%	23.5%
世帯構成	単身世帯	448	3.6%	10.5%	32.4%	47.5%	6.0%
	夫婦二世帯	1,035	1.7%	8.9%	36.9%	47.8%	4.6%
	子と同居	783	2.9%	9.8%	30.3%	51.3%	5.6%
	子・孫と同居	197	2.0%	8.1%	30.5%	52.3%	7.1%
	その他	171	2.3%	7.6%	34.5%	49.1%	6.4%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

表 1-9-2 住民の交流の乏しさ

		人数	とても深刻	やや深刻	あまり深刻ではない	まったく深刻ではない	不明
総数		2,698	4.2%	15.8%	51.2%	20.8%	8.1%
性別	男性	1,198	3.8%	17.1%	51.5%	20.5%	7.1%
	女性	1,491	4.4%	14.6%	51.0%	21.0%	8.9%
年齢階級	65～69歳	713	4.5%	14.6%	55.0%	22.9%	3.1%
	70～74歳	620	1.9%	15.8%	53.2%	22.3%	6.8%
	75～79歳	565	4.2%	14.7%	53.8%	20.7%	6.5%
	80～84歳	428	4.7%	17.5%	48.4%	18.9%	10.5%
	85歳以上	363	6.6%	17.4%	39.9%	16.3%	19.8%
認定状況	認定なし	2,317	3.5%	15.1%	53.5%	21.9%	6.0%
	要支援 1・2	144	9.7%	19.4%	43.8%	16.0%	11.1%
	要介護 1・2	150	6.0%	21.3%	36.0%	13.3%	23.3%
	要介護 3～5	78	10.3%	16.7%	28.2%	10.3%	34.6%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	4.3%	13.7%	51.5%	22.6%	7.8%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	4.2%	18.0%	48.2%	22.3%	7.3%
	井の頭	253	4.0%	17.0%	50.6%	19.0%	9.5%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	3.5%	15.0%	48.5%	22.3%	10.8%
	新川 1、4-6、中原	445	4.0%	13.5%	54.2%	20.9%	7.4%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	4.9%	13.9%	53.6%	19.7%	7.8%
	大沢	201	4.5%	23.4%	53.7%	12.4%	6.0%
所得段階	第 1～3 段階	719	6.7%	14.7%	45.6%	20.2%	12.8%
	第 4～5 段階	678	2.7%	16.2%	52.1%	21.5%	7.5%
	第 6～7 段階	572	3.1%	17.0%	52.1%	21.2%	6.6%
	第 8～14 段階	720	3.9%	15.3%	55.4%	20.3%	5.1%
住居形態	持家	2,001	3.6%	15.7%	52.7%	21.7%	6.3%
	借家	343	7.3%	15.7%	47.2%	19.0%	10.8%
	公営住宅	203	5.9%	18.2%	50.7%	14.3%	10.8%
	その他	51	3.9%	9.8%	35.3%	27.5%	23.5%
世帯構成	単身世帯	448	8.3%	14.3%	46.9%	21.7%	8.9%
	夫婦二世帯	1,035	3.3%	16.8%	54.1%	20.2%	5.6%
	子と同居	783	3.2%	16.5%	51.5%	21.5%	7.4%
	子・孫と同居	197	4.6%	12.2%	54.8%	20.8%	7.6%
	その他	171	2.9%	18.7%	49.1%	22.8%	6.4%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

表 1-9-3 高齢者が集まる機会や場の乏しさ

		人数	とても深刻	やや深刻	あまり深刻ではない	まったく深刻ではない	不明
総数		2,698	4.3%	16.1%	47.5%	20.6%	11.5%
性別	男性	1,198	4.7%	17.9%	46.7%	21.8%	8.9%
	女性	1,491	4.0%	14.6%	48.3%	19.6%	13.5%
年齢階級	65～69歳	713	4.1%	13.0%	54.6%	21.3%	7.0%
	70～74歳	620	3.9%	15.6%	50.3%	21.0%	9.2%
	75～79歳	565	4.2%	16.8%	49.2%	19.6%	10.1%
	80～84歳	428	4.9%	18.0%	40.2%	22.7%	14.3%
	85歳以上	363	5.0%	19.3%	35.3%	17.4%	23.1%
認定状況	認定なし	2,317	3.9%	15.6%	49.8%	21.3%	9.4%
	要支援 1・2	144	6.3%	17.4%	43.8%	17.4%	15.3%
	要介護 1・2	150	8.0%	19.3%	29.3%	17.3%	26.0%
	要介護 3～5	78	5.1%	21.8%	24.4%	10.3%	38.5%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	4.6%	17.5%	44.6%	21.7%	11.6%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	5.0%	16.7%	45.3%	21.7%	11.3%
	井の頭	253	4.0%	15.0%	48.2%	22.1%	10.7%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	5.3%	13.8%	48.8%	19.3%	13.0%
	新川 1、4-6、中原	445	2.9%	15.5%	50.3%	20.2%	11.0%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	4.3%	11.9%	50.4%	20.9%	12.5%
	大沢	201	3.5%	23.9%	47.8%	15.4%	9.5%
所得段階	第 1～3 段階	719	5.0%	14.6%	43.4%	20.6%	16.4%
	第 4～5 段階	678	3.2%	14.9%	49.4%	20.6%	11.8%
	第 6～7 段階	572	4.0%	16.3%	51.0%	19.6%	9.1%
	第 8～14 段階	720	4.9%	18.5%	47.2%	21.3%	8.2%
住居形態	持家	2,001	4.1%	16.9%	49.2%	20.1%	9.6%
	借家	343	5.2%	11.7%	44.9%	25.1%	13.1%
	公営住宅	203	5.4%	18.2%	46.3%	15.8%	14.3%
	その他	51	7.8%	9.8%	23.5%	29.4%	29.4%
世帯構成	単身世帯	448	5.8%	15.4%	46.0%	19.4%	13.4%
	夫婦二世帯	1035	4.1%	17.2%	50.4%	19.4%	8.9%
	子と同居	783	4.5%	16.2%	47.1%	22.1%	10.1%
	子・孫と同居	197	1.5%	15.7%	46.7%	24.9%	11.2%
	その他	171	5.3%	15.2%	48.0%	21.6%	9.9%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

表 1-9-4 空き巣やひったくりなどの犯罪

		人数	とても深刻	やや深刻	あまり深刻ではない	まったく深刻ではない	不明
総数		2,698	3.3%	11.8%	51.1%	23.9%	9.9%
性別	男性	1,198	2.7%	10.6%	51.8%	26.8%	8.2%
	女性	1,491	3.8%	12.7%	50.6%	21.5%	11.4%
年齢階級	65～69歳	713	2.2%	9.5%	58.1%	25.8%	4.3%
	70～74歳	620	2.4%	10.6%	54.5%	24.2%	8.2%
	75～79歳	565	4.1%	14.0%	52.2%	22.5%	7.3%
	80～84歳	428	3.5%	14.5%	41.8%	26.6%	13.6%
	85歳以上	363	5.5%	11.3%	40.8%	18.5%	24.0%
認定状況	認定なし	2,317	2.9%	11.3%	53.6%	24.7%	7.6%
	要支援 1・2	144	6.9%	14.6%	39.6%	22.9%	16.0%
	要介護 1・2	150	4.7%	15.3%	36.0%	18.0%	26.0%
	要介護 3～5	78	5.1%	14.1%	28.2%	12.8%	39.7%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	4.5%	11.6%	51.2%	23.4%	9.4%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	4.4%	7.9%	51.1%	26.7%	9.8%
	井の頭	253	2.8%	11.9%	55.3%	19.4%	10.7%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	2.0%	11.3%	48.0%	27.0%	11.8%
	新川 1、4-6、中原	445	2.5%	11.7%	53.3%	23.1%	9.4%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	1.7%	15.7%	47.5%	23.8%	11.3%
	大沢	201	5.5%	15.9%	52.7%	19.4%	6.5%
所得段階	第 1～3 段階	719	4.6%	11.7%	44.5%	23.5%	15.7%
	第 4～5 段階	678	2.9%	13.6%	53.7%	20.5%	9.3%
	第 6～7 段階	572	3.7%	10.3%	53.0%	24.1%	8.9%
	第 8～14 段階	720	2.1%	11.3%	53.8%	27.2%	5.7%
住居形態	持家	2,001	2.9%	11.8%	54.0%	23.5%	7.7%
	借家	343	3.2%	12.8%	42.9%	28.9%	12.2%
	公営住宅	203	4.4%	13.3%	44.8%	21.2%	16.3%
	その他	51	9.8%	5.9%	41.2%	17.6%	25.5%
世帯構成	単身世帯	448	4.7%	12.9%	46.7%	23.2%	12.5%
	夫婦二世帯	1035	3.0%	12.1%	53.5%	24.7%	6.7%
	子と同居	783	3.6%	11.7%	52.1%	23.4%	9.2%
	子・孫と同居	197	3.0%	12.2%	48.2%	26.4%	10.2%
	その他	171	1.2%	8.8%	59.1%	24.0%	7.0%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

表 1-9-5 空き家の増加

		人数	とても深刻	やや深刻	あまり深刻ではない	まったく深刻ではない	不明
総数		2,698	3.5%	12.6%	42.8%	29.8%	11.3%
性別	男性	1,198	1.9%	6.8%	34.1%	51.0%	6.1%
	女性	1,491	3.0%	10.9%	32.3%	46.7%	7.2%
年齢階級	65～69歳	713	2.1%	6.7%	33.0%	56.1%	2.1%
	70～74歳	620	1.8%	7.3%	31.8%	54.7%	4.5%
	75～79歳	565	2.3%	9.2%	32.0%	51.0%	5.5%
	80～84歳	428	2.6%	12.9%	34.6%	40.7%	9.3%
	85歳以上	363	5.0%	12.1%	35.5%	29.2%	18.2%
認定状況	認定なし	2,317	1.7%	7.7%	33.5%	52.5%	4.6%
	要支援 1・2	144	4.9%	25.0%	32.6%	27.8%	9.7%
	要介護 1・2	150	8.0%	14.7%	28.7%	24.0%	24.7%
	要介護 3～5	78	11.5%	10.3%	29.5%	19.2%	29.5%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	1.1%	6.2%	28.3%	57.4%	7.0%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	0.8%	5.4%	31.9%	55.7%	6.1%
	井の頭	253	2.8%	7.5%	42.3%	39.9%	7.5%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	0.8%	5.3%	30.0%	55.5%	8.5%
	新川 1、4-6、中原	445	2.0%	8.3%	34.4%	47.9%	7.4%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	4.3%	13.3%	35.7%	40.6%	6.1%
	大沢	201	11.9%	29.4%	36.8%	19.4%	2.5%
所得段階	第 1～3 段階	719	4.0%	10.7%	31.6%	42.4%	11.3%
	第 4～5 段階	678	2.1%	10.9%	34.1%	47.5%	5.5%
	第 6～7 段階	572	3.0%	8.4%	35.0%	47.9%	5.8%
	第 8～14 段階	720	1.10%	6.3%	32.2%	56.4%	4.0%
住居形態	持家	2,001	2.5%	9.1%	33.8%	49.5%	5.0%
	借家	343	2.3%	5.8%	28.0%	56.3%	7.6%
	公営住宅	203	3.0%	15.3%	39.4%	32.0%	10.3%
	その他	51	2.0%	9.8%	27.5%	37.3%	23.5%
世帯構成	単身世帯	448	3.6%	10.5%	32.4%	47.5%	6.0%
	夫婦二世帯	1,035	1.7%	8.9%	36.9%	47.8%	4.6%
	子と同居	783	2.9%	9.8%	30.3%	51.3%	5.6%
	子・孫と同居	197	2.0%	8.1%	30.5%	52.3%	7.1%
	その他	171	2.3%	7.6%	34.5%	49.1%	6.4%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

表 1-9-6 自然災害時の避難場所の問題

		人数	とても深刻	やや深刻	あまり深刻ではない	まったく深刻ではない	不明
総数		2,698	5.2%	17.8%	46.9%	20.8%	9.3%
性別	男性	1,198	3.3%	12.2%	43.9%	31.1%	9.4%
	女性	1,491	3.6%	12.9%	42.0%	28.7%	12.8%
年齢階級	65～69歳	713	2.8%	10.2%	51.9%	29.9%	5.2%
	70～74歳	620	2.7%	11.9%	45.0%	31.5%	8.9%
	75～79歳	565	4.4%	15.4%	42.5%	29.2%	8.5%
	80～84歳	428	4.7%	13.6%	34.8%	30.6%	16.4%
	85歳以上	363	3.3%	12.7%	31.4%	26.7%	25.9%
認定状況	認定なし	2,317	3.2%	12.6%	45.0%	30.3%	8.8%
	要支援 1・2	144	3.5%	14.6%	36.8%	29.2%	16.0%
	要介護 1・2	150	6.0%	12.0%	25.3%	26.7%	30.0%
	要介護 3～5	78	6.4%	7.7%	23.1%	20.5%	42.3%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	3.7%	13.7%	41.4%	30.7%	10.5%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	3.1%	8.6%	40.7%	35.7%	11.9%
	井の頭	253	2.4%	16.6%	45.1%	26.1%	9.9%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	3.5%	9.5%	40.0%	34.0%	13.0%
	新川 1、4-6、中原	445	4.5%	12.6%	44.7%	27.2%	11.0%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	3.2%	15.4%	43.2%	25.8%	12.5%
	大沢	201	3.5%	15.4%	49.3%	22.4%	9.5%
所得段階	第 1～3 段階	719	3.9%	10.3%	38.0%	29.5%	18.4%
	第 4～5 段階	678	2.8%	13.9%	43.4%	29.5%	10.5%
	第 6～7 段階	572	3.5%	14.5%	44.4%	28.8%	8.7%
	第 8～14 段階	720	3.8%	12.1%	46.0%	31.1%	7.1%
住居形態	持家	2,001	3.4%	13.0%	45.0%	29.7%	8.8%
	借家	343	2.6%	13.1%	37.6%	32.1%	14.6%
	公営住宅	203	4.9%	8.9%	40.9%	28.6%	16.7%
	その他	51	3.9%	11.8%	27.5%	21.6%	35.3%
世帯構成	単身世帯	448	4.2%	12.9%	38.4%	31.0%	13.4%
	夫婦二世帯	1,035	3.6%	14.2%	45.2%	29.3%	7.7%
	子と同居	783	3.7%	12.4%	44.1%	29.0%	10.9%
	子・孫と同居	197	3.6%	11.7%	38.1%	34.0%	12.7%
	その他	171	1.8%	6.4%	49.1%	33.9%	8.8%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

2) 地域の人への信頼感

- 地域の人々同士の信頼関係や交流など、地域社会の結束力を表すものを「社会関係資本」という。社会関係資本が豊かな地域では、住民の地域活動への参加や健康等が向上することが指摘されている。ここでは、社会関係資本の指標のひとつである「社会的凝集性」を調べた。「社会的凝集性」とは、住民の結束が強いことを意味する。
- 「地域の人々は信頼できるか」という質問に「そう思う/どちらかというと思う」といった肯定的な回答をした人は64.8%、「地域の人々は結束が強い」という質問に肯定的な回答をした人は35.7%、「地域の人々は喜んで近所の人を手助けする」は38.2%、「地域の人はお互いに関係がよくない」は8.0%、「地域では同じような価値観をもった人はいない」は14.0%という結果であった。
- 「地域の人々は信頼できる」という回答は、日常生活圏域別では「井の頭」で肯定的な回答の割合が高く、「所得段階が高い」ほど肯定的な回答の割合も高くなっていった。住居形態別では、「持家」の人では肯定的な回答が72.0%であったのに対して、「借家」では48.4%、「公営住宅」では52.7%で、持家の人の方が地域への信頼感が高い傾向にあった。世帯構成別では「子や孫と同居」の世帯で肯定的な回答の割合が73.1%と高かった。
- 「地域の人々は結束が強い」という質問に関しては、年齢階級が高くなるほど肯定的な回答の割合も高くなっていった。日常生活圏域別では「下連雀1-4丁目、上連雀1-5丁目」で肯定的な回答の割合が高かった。住居形態別では「持家」の人で、世帯構成別では「子や孫と同居」の世帯で、肯定的な回答の割合が高い傾向が見られた。
- 「地域の人々は喜んで近所の人を手助けする」に関しても、日常生活圏域別では「下連雀1-4丁目、上連雀1-5丁目」で肯定的な回答の割合が高く、住居形態別では「持家」の人で、世帯構成別では「子や孫と同居」の世帯で肯定的な回答の割合が高かった。
- 「お互いの関係が良くない」については、属性による顕著な差は見当たらなかった。
- 「同じような価値観を持った人はいない」に関しては、女性よりも男性でそのように考える人の割合が高い傾向が見られた。認定状況別では「要支援認定者」で、そのように考える人の割合が高く、住居形態別では「公営住宅」の居住者でそのように考える人の割合が高い傾向が見られた。

表 1-9-7 地域住民に対する評価（「そう思う」「どちらかというと思う」を合計した割合）

		人数	信頼 できる	結束が 強い	喜んで 近所の人 を手助け する	お互いの 関係が よくない	同じような 価値観を 持った人 はいない
総 数		2,698	64.8%	35.7%	38.2%	8.0%	14.0%
性別	男性	1,198	65.1%	34.1%	36.5%	8.8%	16.7%
	女性	1,491	64.7%	37.0%	39.7%	7.3%	11.7%
年齢階級	65～69 歳	713	64.1%	33.5%	36.5%	5.8%	10.1%
	70～74 歳	620	64.0%	32.4%	36.3%	6.8%	13.2%
	75～79 歳	565	65.5%	37.2%	41.8%	10.6%	15.9%
	80～84 歳	428	66.4%	38.8%	37.6%	10.0%	18.2%
	85 歳以上	363	65.3%	39.7%	40.5%	8.0%	14.6%
認定状況	認定なし	2,317	66.4%	36.5%	39.1%	7.7%	12.9%
	要支援 1・2	144	64.6%	36.8%	42.4%	11.1%	25.7%
	要介護 1・2	150	48.0%	25.3%	24.0%	10.7%	15.3%
	要介護 3～5	78	52.6%	29.5%	32.1%	5.1%	19.2%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	66.5%	39.9%	43.1%	8.9%	13.9%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	61.0%	31.5%	36.3%	7.7%	15.7%
	井の頭	253	75.9%	37.2%	37.2%	5.1%	12.6%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	64.3%	37.3%	39.0%	9.8%	13.0%
	新川 1、4-6、中原	445	66.1%	35.7%	39.8%	8.3%	13.3%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	63.8%	37.1%	35.9%	5.5%	13.3%
	大沢	201	56.2%	26.4%	29.9%	10.0%	15.9%
所得段階	第 1～3 段階	719	55.8%	33.4%	35.3%	8.8%	16.1%
	第 4～5 段階	678	67.1%	38.2%	41.3%	5.9%	11.2%
	第 6～7 段階	572	64.9%	34.6%	36.5%	8.2%	12.1%
	第 8～14 段階	720	71.9%	36.5%	39.7%	9.0%	15.8%
住居形態	持家	2,001	72.0%	38.9%	42.0%	7.9%	14.0%
	借家	343	48.4%	27.7%	26.5%	8.5%	12.2%
	公営住宅	203	52.7%	33.5%	38.9%	10.8%	23.2%
	その他	51	49.0%	31.4%	29.4%	9.8%	13.7%
世帯構成	単身世帯	448	55.6%	29.7%	33.9%	9.2%	15.0%
	夫婦二人世帯	1,035	69.7%	36.5%	38.9%	8.1%	14.5%
	子と同居	783	63.7%	37.4%	38.3%	8.2%	12.4%
	子・孫と同居	197	73.1%	41.6%	49.7%	5.1%	11.7%
	その他	171	65.5%	34.5%	35.1%	7.6%	17.5%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

3) 地域の問題への関心

- 地域の人々が自ら地域にある課題を解決しようとする力を、「地域の力」や「地域住民のパワー」と呼ぶ。ここでは、地域住民のパワーの指標の1つである「地域の課題の共有意識」について調べた。
- 「地域住民が抱えている問題は、自分の問題でもあると思う」という質問に「そう思う/どちらかというと思う」といった肯定的な回答をした人は49.7%、「地域住民の中に困っている人がいたら、見て見ぬふりはできないと思う」という質問に肯定的な回答をした人は63.3%、「地域住民に関係がありそうな情報に、気をつけておこうと思う」は74.0%という結果であった。
- 住居形態別に見ると、「持家」や「公営住宅」に住んでいる人に比べて、「借家」の人では、すべての項目において肯定的な回答の割合は低い傾向が見られた。

表 1-9-8 地域の課題の共有意識（「そう思う」「どちらかというと思う」を合計した割合）

		人数	地域住民の問題は自分の問題でもある	困っている人を見て見ぬふりはできない	地域住民に関係しそうな情報に気をつける
総数		2,698	49.7%	63.3%	74.0%
性別	男性	1,198	51.2%	61.4%	70.9%
	女性	1,491	48.6%	64.9%	76.5%
年齢階級	65～69歳	713	47.4%	63.8%	71.8%
	70～74歳	620	49.0%	62.9%	75.2%
	75～79歳	565	51.5%	64.8%	78.1%
	80～84歳	428	55.4%	66.1%	75.5%
	85歳以上	363	46.0%	57.6%	68.3%
認定状況	認定なし	2,317	50.7%	65.4%	76.3%
	要支援 1・2	144	54.9%	63.9%	81.3%
	要介護 1・2	150	37.3%	42.0%	47.3%
	要介護 3～5	78	35.9%	42.3%	44.9%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	49.4%	63.6%	74.0%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	51.4%	64.3%	74.3%
	井の頭	253	54.2%	64.8%	78.7%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	45.0%	63.0%	73.0%
	新川 1、4-6、中原	445	50.8%	63.6%	76.0%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	46.4%	60.9%	69.6%
	大沢	201	53.7%	62.7%	73.1%
所得段階	第1～3段階	719	46.7%	59.9%	69.8%
	第4～5段階	678	49.6%	67.3%	78.0%
	第6～7段階	572	44.9%	60.3%	73.4%
	第8～14段階	720	56.7%	65.4%	74.9%
住居形態	持家	2,001	54.4%	67.7%	78.7%
	借家	343	37.0%	58.0%	66.8%
	公営住宅	203	54.7%	63.5%	80.3%
	その他	51	23.5%	43.1%	39.2%
世帯構成	単身世帯	448	44.4%	60.3%	71.9%
	夫婦二世帯	1,035	53.3%	66.8%	78.5%
	子と同居	783	49.4%	63.3%	73.6%
	子・孫と同居	197	53.3%	66.5%	75.1%
	その他	171	43.9%	54.4%	62.0%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

10. 介護予防・介護保険制度

1) 介護予防・日常生活支援総合事業の認知度

- 新しく始まった介護予防・日常生活支援総合事業の認知度を調べた。その結果、「地域包括支援センターで高齢者の生活や介護予防の相談ができる」ことを知らなかった人の割合は43.9%、「地域包括センターで介護予防や日常生活支援の必要性を判定してくれる」ことを知らなかった人の割合は47.9%であった。「要介護認定を受けなくても、必要性が認められれば介護予防や日常生活の支援を受けることができる」については、そのことを知らなかった人の割合は63.0%と、他の2つの事業よりも高かった。
- いずれの事業も、「知らない」人の割合は男性の方が女性と比較して高かった。
- いずれの事業も、高齢になるほど「知らない」人の割合が減少していた。
- 認定状況別では、いずれの事業も「要支援1・2」と「要介護3～5」の人では、「知らない」人の割合が低かった。
- 日常生活圏域別では、「地域包括支援センターで高齢者の生活や介護予防の相談ができる」と「地域包括センターで介護予防や日常生活支援の必要性を判定してくれる」については、「井の頭」と「大沢」で「知らない」人の割合が低かった。
- いずれの事業も、「第8～14段階」の人で「知らない」人の割合が高かった。
- 住居形態別では、いずれの事業も「借家」の居住者で「知らない」人の割合が高かった。
- 世帯構成別では、「知らない」人の割合に大きな差はなかった。

表 1-10-1 介護予防・日常生活支援総合事業の認知度

	知っている	知らない	不明
地域包括支援センターで、高齢者の生活や介護予防の相談ができる	53.1%	43.9%	3.0%
地域包括センターで、介護予防や日常生活支援の必要性を判定してくれる	48.4%	47.9%	3.7%
要介護認定を受けなくても、必要性が認められれば、介護予防や日常生活の支援を受けることができる	33.4%	63.0%	3.7%

注) 総数は2,698人

表 1-10-2 介護予防・日常生活支援総合事業の認知（知らない人の割合）

		人数	相談	判定	支援
総数		2,698	43.9%	47.9%	63.0%
性別	男性	1,198	53.6%	57.3%	67.8%
	女性	1,491	36.0%	40.2%	59.0%
年齢階級	65～69歳	713	56.8%	60.3%	73.1%
	70～74歳	620	43.4%	46.8%	66.3%
	75～79歳	565	39.1%	44.2%	60.5%
	80～84歳	428	39.5%	43.5%	57.7%
	85歳以上	363	31.7%	36.1%	47.1%
認定状況	認定なし	2,317	45.5%	50.2%	65.6%
	要支援 1・2	144	24.3%	25.0%	42.4%
	要介護 1・2	150	40.7%	39.3%	53.3%
	要介護 3～5	78	35.9%	35.9%	39.7%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	43.5%	47.8%	62.9%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	46.8%	50.9%	66.2%
	井の頭	253	39.1%	44.7%	63.6%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	50.5%	52.8%	65.5%
	新川 1、4-6、中原	445	43.1%	48.5%	61.6%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	44.3%	47.8%	61.2%
	大沢	201	30.8%	32.8%	54.7%
所得段階	第 1～3 段階	719	40.6%	45.1%	59.8%
	第 4～5 段階	678	37.5%	42.2%	58.4%
	第 6～7 段階	572	44.8%	47.7%	65.6%
	第 8～14 段階	720	52.4%	56.1%	68.2%
住居形態	持家	2,001	43.4%	47.1%	63.6%
	借家	343	50.4%	54.8%	65.6%
	公営住宅	203	38.4%	46.3%	56.7%
	その他	51	43.1%	45.1%	56.9%
世帯構成	単身世帯	448	41.3%	46.2%	64.7%
	夫婦二世帯	1,035	45.1%	49.1%	63.4%
	子と同居	783	45.0%	48.9%	62.8%
	子・孫と同居	197	44.2%	48.2%	58.4%
	その他	171	40.0%	43.3%	66.1%

注 1) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

注 2) 相談：地域包括支援センターで高齢者の生活や介護予防の相談ができる。

判定：地域包括センターで、介護予防や日常生活支援の必要性を判定してくれる。

支援：要介護認定を受けなくても、必要性が認められれば介護予防や日常生活の支援を受けることができる。

2) 参加したい介護予防活動

- 健康を維持するための介護予防活動について、「足腰の衰えを予防するための活動（運動器）」「認知症予防を目的とした脳を活性化させるための活動（認知症）」「仲間づくりを目的とした趣味やレクリエーション活動（仲間づくり）」「口の機能や栄養・食生活の改善のための活動（栄養）」「その他」の5つの活動への参加意向を質問した。
- いずれかの介護予防活動に参加したい人（いずれかの活動に「あてはまる」と回答）の割合は、72.0%であった。一方、「どの活動にも参加しようとは思わない、参加できない」と回答した人の割合は、22.3%であった。
- 介護予防活動に参加したい人がどのような活動に参加したいと思っているかをみると、「足腰の衰えを予防するための活動（運動器）」に参加したいと思う人の割合が57.6%と最も高かった。次いで、「認知症予防を目的とした脳を活性化させるための活動（認知症）」36.2%、「仲間づくりを目的とした趣味やレクリエーション活動（仲間づくり）」33.1%、「口の機能や栄養・食生活の改善のための活動（栄養）」16.7%であった。
- 性別では、男性よりも女性の方が介護予防活動への参加意向が高かった。
- 年齢が若いほど、介護予防活動への参加意向が高く、80歳以上では「どの活動にも参加しようとは思わない、参加できない」と回答した人の割合が急増した。
- 認定状況別では、要介護認定を受けていない人は介護予防活動への参加意向が高く、認定者に比べて、仲間づくりを目的とした活動への参加意向が高かった。認定者では、「要介護3～5」では「どの活動にも参加しようとは思わない、参加できない」と回答した人が44.9%と多かった。
- 所得段階別では、所得段階が低くなるほど参加意向が低く、「第1～3段階」の人は他段階の人に比べ、足腰の衰えを予防するための活動や仲間づくりを目的とした活動への参加意向が低かった。
- 住居形態別では、「持家」の人は参加意向が最も高く、他の住居形態の人に比べ、仲間づくりを目的とした活動への参加意向が高かった。
- 世帯構成別では、「その他」の人で参加意向の割合が低かったが、それ以外の世帯構成では概ね同程度であった。

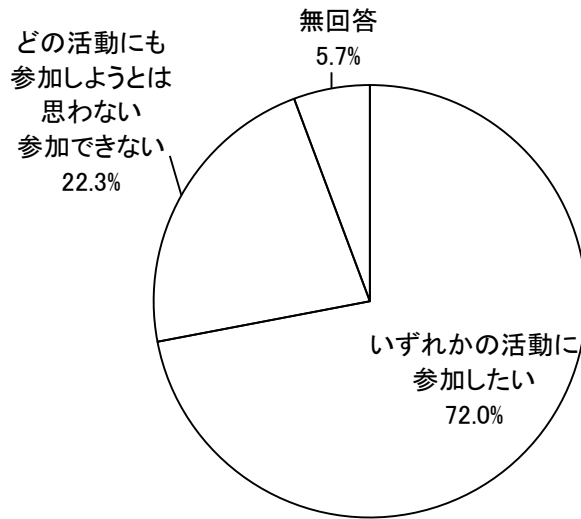


図1-10-1 健康づくりのための介護予防活動への参加意向

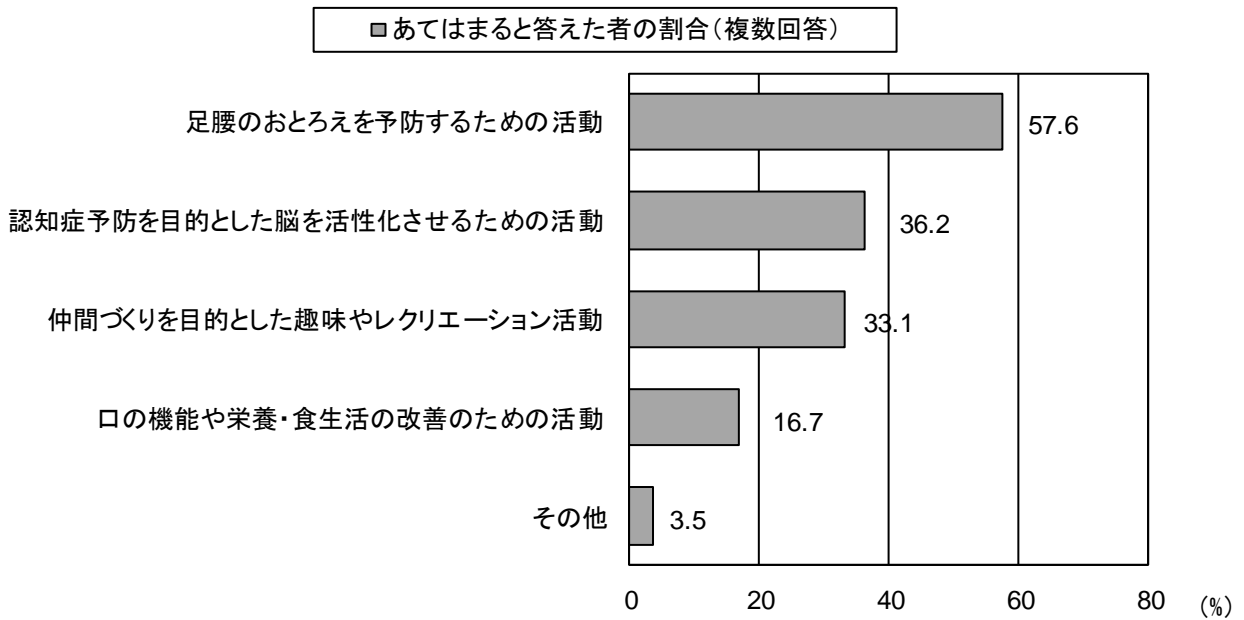


図1-10-2 参加したい介護予防活動

表 1-10-3 参加したい介護予防活動（複数回答）

		人数	運動器	認知症	栄養	仲間づくり	その他	参加意向あり	参加意向なし
総数		2,698	57.6%	36.2%	16.7%	33.1%	3.5%	72.0%	22.3%
性別	男性	1,198	55.8%	30.0%	12.7%	33.5%	4.2%	71.0%	24.2%
	女性	1,491	59.3%	41.2%	20.0%	32.8%	3.0%	73.0%	20.6%
年齢階級	65～69歳	713	60.9%	37.4%	16.3%	35.5%	3.5%	77.3%	19.4%
	70～74歳	620	60.0%	38.9%	18.1%	36.6%	2.1%	74.5%	19.7%
	75～79歳	565	62.3%	38.1%	17.9%	35.0%	3.4%	76.8%	17.9%
	80～84歳	428	53.3%	32.0%	15.7%	29.2%	4.7%	64.0%	28.5%
	85歳以上	363	45.7%	31.1%	14.9%	24.0%	4.7%	59.8%	31.4%
認定状況	認定なし	2,317	59.2%	37.0%	16.5%	34.9%	3.3%	74.4%	21.0%
	要支援 1・2	144	60.4%	38.2%	19.4%	22.2%	6.3%	68.8%	26.4%
	要介護 1・2	150	49.3%	31.3%	19.3%	27.3%	4.7%	61.3%	24.7%
	要介護 3～5	78	25.6%	16.7%	12.8%	10.3%	2.6%	29.5%	44.9%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	59.0%	38.1%	18.2%	36.2%	3.9%	74.3%	20.7%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	55.7%	32.4%	15.7%	29.9%	3.8%	70.6%	23.2%
	井の頭	253	58.9%	40.7%	14.2%	31.6%	2.8%	74.3%	20.9%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	58.0%	35.3%	19.0%	36.8%	4.0%	71.3%	22.8%
	新川 1、4-6、中原	445	56.4%	35.1%	15.5%	33.0%	2.5%	71.7%	22.7%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	58.8%	38.3%	17.4%	30.7%	4.1%	72.2%	21.2%
	大沢	201	57.7%	35.3%	15.9%	30.8%	3.0%	68.7%	25.4%
所得段階	第 1～3 段階	719	52.0%	35.7%	17.2%	26.7%	4.0%	66.3%	27.0%
	第 4～5 段階	678	58.7%	39.7%	18.9%	34.1%	2.4%	71.4%	21.7%
	第 6～7 段階	572	58.6%	35.8%	15.2%	33.2%	3.8%	74.7%	21.0%
	第 8～14 段階	720	61.8%	33.6%	15.4%	38.5%	3.8%	76.4%	18.9%
住居形態	持家	2,001	59.3%	36.5%	16.9%	35.4%	3.4%	73.9%	20.6%
	借家	343	58.0%	35.3%	17.2%	27.1%	2.9%	71.1%	25.7%
	公営住宅	203	52.7%	35.0%	14.8%	24.1%	3.9%	66.5%	28.6%
	その他	51	33.3%	27.5%	9.8%	21.6%	3.9%	41.2%	43.1%
世帯構成	単身世帯	448	57.4%	36.2%	17.2%	29.0%	2.9%	71.9%	23.9%
	夫婦二世帯	1,035	60.6%	36.7%	16.6%	37.0%	3.2%	74.5%	20.3%
	子と同居	783	57.2%	36.5%	16.5%	31.2%	4.6%	72.3%	22.1%
	子・孫と同居	197	58.4%	39.6%	19.3%	39.6%	2.5%	75.1%	19.8%
	その他	171	51.5%	32.7%	15.2%	26.3%	3.5%	64.3%	30.4%

注1) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

注2) 「運動器」から「その他」までの割合は、参加意向ありとした人に対する割合である。

3) 介護保険料の負担感

- 介護保険料については、「負担に感じている」が28.3%、「多少負担に感じている」が39.3%で、両者を合わせると67.6%が多少とも負担に感じていた。「あまり負担に感じていない」と「負担には感じていない」の合計は、28.3%であった。平成25年の調査では負担に感じている人の割合が65.3%であったので、3年前と比較し負担感に大きな変化はなかった。
- 「負担/多少負担」に感じている人の合計割合は、「男性」で69.7%、「女性」で65.8%と、男性の方が負担感が高い傾向にあった。
- 高齢になるほど「負担/多少負担」に感じている人の割合が低下し、「65～69歳」では73.1%であったが、「85歳以上」の人では50.4%まで下がった。
- 認定状況別では、「負担/多少負担」に感じている人の割合は「認定なし」の人では70.0%、「要介護3～5」の人は55.1%で、認定者では負担感が多少低くなる傾向があった。
- 日常生活圏域別では、「負担/多少負担」に感じている人の割合が高かったのは「下連雀5-9、上連雀6-9、野崎1」と「大沢」でそれぞれ70.6%、「牟礼、北野、新川2-3」で70.5%であった。この割合が低かったのは「下連雀1-4、上連雀1-5」の63.5%、「野崎2-4、井口、深大寺」の65.2%であった。
- 所得段階別では、「負担/多少負担」に感じている人の割合は「第1～3段階」の人で61.6%、「第4～5段階」では72.0%、「第6～7段階」71.0%、「第8～14段階」66.5%であり、所得段階が中程度の人で負担に感じている人が多い傾向が見られた。
- 住居形態別では、「負担/多少負担」に感じている人の割合は「持家」の人では67.0%であったのに対して、「公営住宅」と「借家」の居住者では73.9%と72.0%で、負担に感じる人が多い傾向が見られた。
- 世帯構成別では、「負担/多少負担」に感じている人の割合は「子と同居」では73.1%で、「単身世帯」の56.5%と比較して高い傾向が見られた。

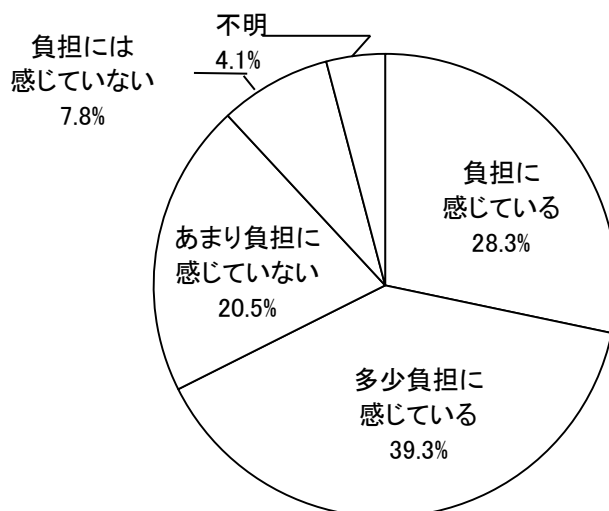


図 1-10-3 介護保険料の負担感

表 1-10-4 介護保険料の負担感

		人数	負担に 感じている	多少負担 に感じている	あまり 負担に 感じて いない	負担には 感じて いない	不明
総数		2,698	28.3%	39.3%	20.5%	7.8%	4.1%
性別	男性	1,198	31.1%	38.6%	18.1%	8.1%	4.1%
	女性	1,491	25.9%	39.9%	22.5%	7.5%	4.2%
年齢階級	65～69歳	713	31.1%	41.9%	18.8%	6.0%	2.1%
	70～74歳	620	27.7%	41.0%	18.9%	9.4%	3.1%
	75～79歳	565	32.4%	38.6%	18.4%	5.8%	4.8%
	80～84歳	428	28.7%	37.9%	22.0%	7.0%	4.4%
	85歳以上	363	16.3%	34.2%	28.7%	12.4%	8.5%
認定状況	認定なし	2,317	29.2%	40.8%	20.0%	6.9%	3.1%
	要支援 1・2	144	16.0%	37.5%	28.5%	13.9%	4.2%
	要介護 1・2	150	24.7%	25.3%	23.3%	14.0%	12.7%
	要介護 3～5	78	29.5%	25.6%	17.9%	9.0%	17.9%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	23.9%	39.6%	24.2%	9.1%	3.2%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	32.4%	38.2%	17.3%	8.4%	3.8%
	井の頭	253	19.0%	47.0%	22.5%	8.3%	3.2%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	30.3%	40.3%	18.5%	6.3%	4.8%
	新川 1、4-6、中原	445	32.8%	35.3%	20.7%	6.7%	4.5%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	28.1%	37.1%	21.2%	8.4%	5.2%
	大沢	201	27.9%	42.8%	18.4%	6.0%	5.0%
所得段階	第1～3段階	719	28.4%	33.2%	21.8%	9.6%	7.0%
	第4～5段階	678	31.1%	40.9%	18.4%	5.8%	3.8%
	第6～7段階	572	29.7%	41.3%	19.8%	5.8%	3.5%
	第8～14段階	720	24.2%	42.4%	21.9%	9.4%	2.1%
住居形態	持家	2,001	26.3%	40.7%	23.1%	7.4%	2.4%
	借家	343	35.0%	37.0%	12.5%	8.5%	7.0%
	公営住宅	203	39.4%	34.5%	11.8%	8.4%	5.9%
	その他	51	23.5%	29.4%	21.6%	11.8%	13.7%
世帯構成	単身世帯	448	23.2%	33.3%	27.0%	11.8%	4.7%
	夫婦二人世帯	1,035	30.6%	40.4%	19.2%	6.6%	3.2%
	子と同居	783	31.4%	41.6%	16.9%	7.4%	2.7%
	子・孫と同居	197	21.3%	43.1%	25.4%	7.1%	3.0%
	その他	171	25.1%	38.6%	24.6%	7.0%	4.7%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

4) 介護保険制度の評価

- 「介護保険制度は、納めている保険料に見合うだけの制度だと思うか」という質問に対して、「非常にそう思う」が3.9%、「まあそう思う」が39.5%と肯定的な評価をした人は43.4%であった。「あまりそう思わない」は39.8%、「まったくそう思わない」は9.0%で、「非常にそう思う/まあそう思う」といった肯定的評価と「あまりそう思わない/まったくそう思わない」といった否定的評価はほぼ同程度であった。平成16年、平成19年、平成22年、平成25年にも同じ項目で調査をしているが、過去4回の調査では、肯定的な評価をしていた人の割合は45%前後であったので、今回の調査もほぼ同様な結果と言える。
- 肯定的な評価の割合は「男性」43.8%、「女性」43.2%で、ほとんど差がなかった。
- 高齢になるほど肯定的な評価の割合が増加し、「65～69歳」では37.7%であったが、「85歳以上」の人では57.9%まで増加した。
- 認定状況によっても大きな差がみられ、肯定的な評価の割合は「認定なし」の人では41.4%であったのに対し、「要支援」では59.0%、「要介護1～2」では58.0%と高かった。「要介護3～5」の人では肯定的な評価は47.4%であったが、これは本人が回答できないため「不明」の割合が高くなったためであり、「非常にそう思う」の割合は最も高かった。
- 日常生活圏域別では、すべての住区で40～45%程度であった。
- 所得段階別では、肯定的な評価の割合は「第1～3段階」で50.1%と、「第4～5段階」の39.2%や「第6～7段階」の39.3%と比較して、10ポイント程度、高かった。
- 住居形態別では、肯定的な評価の割合はいずれの形態においても45%前後で大きな差はみられなかった。
- 世帯構成別では、肯定的な評価の割合は「単身世帯」では50.4%で、「夫婦のみ世帯」と「子と同居世帯」のそれぞれ40%程度と比較して高かった。

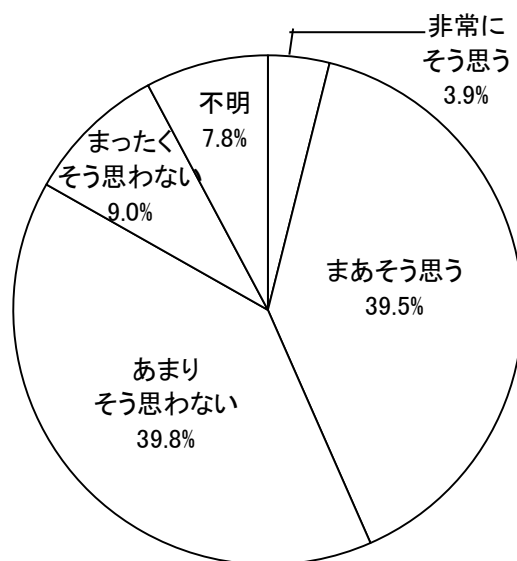


図 1-10-4 介護保険制度は納めている保険料に見合うだけの制度か

表 1-10-5 介護保険制度は納めている保険料に見合うだけの制度か

		人数	非常に そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わ ない	まったく そう思わ ない	不明
総 数		2,698	3.9%	39.5%	39.8%	9.0%	7.8%
性別	男性	1,198	4.3%	39.5%	39.1%	10.8%	6.3%
	女性	1,491	3.6%	39.6%	40.3%	7.4%	9.1%
年齢階級	65～69 歳	713	1.7%	36.0%	43.5%	11.8%	7.0%
	70～74 歳	620	3.9%	40.3%	40.5%	8.2%	7.1%
	75～79 歳	565	4.2%	34.7%	43.5%	9.4%	8.1%
	80～84 歳	428	3.7%	42.1%	39.3%	7.5%	7.5%
	85 歳以上	363	8.3%	49.6%	26.2%	5.2%	10.7%
認定状況	認定なし	2,317	2.8%	38.7%	41.9%	9.5%	7.3%
	要支援 1・2	144	11.1%	47.9%	33.3%	4.2%	3.5%
	要介護 1・2	150	9.3%	48.7%	22.0%	4.7%	15.3%
	要介護 3～5	78	15.4%	32.1%	24.4%	9.0%	19.2%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	2.9%	40.6%	39.9%	10.2%	6.4%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	2.9%	37.6%	42.2%	8.6%	8.8%
	井の頭	253	4.7%	40.7%	41.1%	6.7%	6.7%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	4.5%	40.8%	38.8%	8.8%	7.2%
	新川 1、4-6、中原	445	3.4%	42.0%	38.9%	6.1%	9.7%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	5.8%	37.4%	38.3%	9.9%	8.7%
大沢	201	5.5%	35.8%	38.3%	13.4%	7.0%	
所得段階	第 1～3 段階	719	7.1%	43.0%	31.8%	7.2%	10.8%
	第 4～5 段階	678	2.4%	36.9%	45.1%	6.5%	9.1%
	第 6～7 段階	572	3.3%	36.0%	42.8%	10.1%	7.7%
	第 8～14 段階	720	2.8%	41.4%	40.3%	11.8%	3.8%
住居形態	持家	2,001	3.3%	40.7%	40.5%	9.4%	6.0%
	借家	343	5.0%	36.7%	38.8%	8.5%	11.1%
	公営住宅	203	5.9%	36.9%	38.9%	6.9%	11.3%
	その他	51	7.8%	41.2%	25.5%	9.8%	15.7%
世帯構成	単身世帯	448	4.7%	45.8%	34.6%	7.1%	7.8%
	夫婦二人世帯	1,035	3.7%	36.5%	42.6%	9.6%	7.6%
	子と同居	783	3.7%	39.7%	40.7%	9.6%	6.3%
	子・孫と同居	197	2.5%	45.7%	36.0%	10.2%	5.6%
	その他	171	3.5%	40.4%	42.1%	7.6%	6.4%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

5) 介護サービス水準維持に関する意見

- 高齢者数が増えると、介護サービスの水準を維持するために、どうしても介護保険料が高くなってしまふ。これに対する意見を質問したところ、「サービスの水準を大幅に下げて保険料を安くする」が12.9%、「サービスの水準をある程度下げて保険料は従来通り」が28.7%、「介護サービスの水準を保つために、ある程度の介護保険料の増加はやむを得ない」が45.9%、「介護サービスの水準を引き上げるために、大幅な介護保険料の増加もやむを得ない」が1.2%であった。「介護サービスの水準を保つために、ある程度の介護保険料の増加はやむを得ない」という意見が最も高い割合を占めていた。この割合の分布は、平成25年調査とほぼ同様であった。
- 性別では、サービス水準維持への意見に大きな違いはみられなかった。
- 年齢階級別にみると、「75～79歳」で「介護サービスの水準を保つために、ある程度の介護保険料の増加はやむを得ない」という意見が39.6%と低かった。
- 認定状況によっても差がみられ、「介護サービスの水準を保つために、ある程度の介護保険料の増加はやむを得ない」という意見は、「認定なし」の人では46.0%であったのに対し、「要介護3～5」の人では35.9%と10ポイント程度低かった。
- 日常生活圏域別では、大きな違いはなかった。
- 所得段階別では、「介護サービスの水準を保つために、ある程度の介護保険料の増加はやむを得ない」という意見は、「第1～3段階」では39.1%と、「第8～14段階」の54.4%と比較して10%ポイント程度低かった。
- 住居形態別では、「介護サービスの水準を保つために、ある程度の介護保険料の増加はやむを得ない」と考える人の割合は、「持家」の人では49.1%であったが、「借家」や「公営住宅」の人では、この割合はそれぞれ40%未満と低かった。
- 世帯構成別では「介護サービスの水準を保つために、ある程度の介護保険料の増加はやむを得ない」と考える人の割合は、「子や孫と同居」の55.8%で、他の世帯構成と比較して高かった。

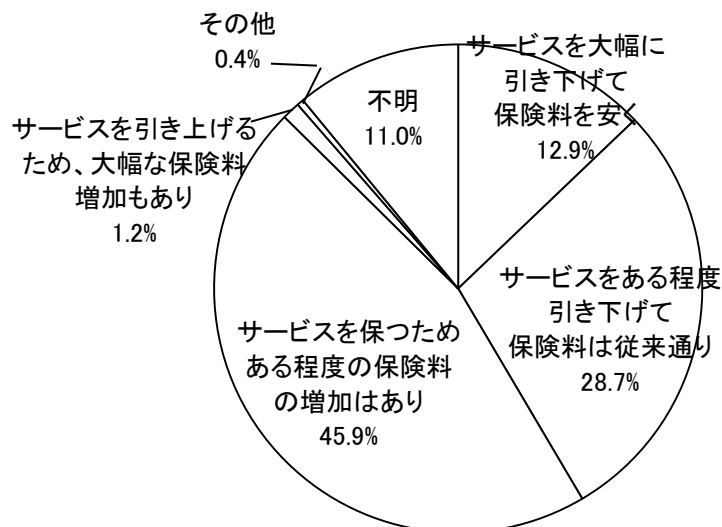


図 1-10-5 介護サービスの水準維持と保険料に関する意見

表 1-10-6 介護サービス水準維持と保険料に関する意見

		人数	サービスを大幅に引き下げて保険料を安くする	サービスをある程度引き下げ保険料は従来通り	サービスを保つためある程度の保険料の増加はあり	サービスを引き上げるために大幅な保険料の値上げもあり	その他	不明
総数		2,698	12.9%	28.7%	45.9%	1.2%	0.4%	11.0%
性別	男性	1,198	13.6%	28.0%	47.7%	1.2%	0.5%	8.9%
	女性	1,491	12.1%	29.0%	44.6%	1.2%	0.4%	12.7%
年齢階級	65～69歳	713	12.8%	24.5%	50.5%	0.8%	0.6%	10.8%
	70～74歳	620	11.5%	28.9%	46.1%	1.5%	0.8%	11.3%
	75～79歳	565	15.2%	34.9%	39.6%	0.7%	0.0%	9.6%
	80～84歳	428	16.4%	29.4%	43.0%	1.2%	0.2%	9.8%
	85歳以上	363	6.9%	25.3%	50.4%	2.2%	0.6%	14.6%
認定状況	認定なし	2,317	13.6%	29.3%	46.0%	1.0%	0.5%	9.8%
	要支援 1・2	144	7.6%	24.3%	51.4%	4.2%	0.7%	11.8%
	要介護 1・2	150	8.0%	26.0%	46.7%	1.3%	0.0%	18.0%
	要介護 3～5	78	7.7%	21.8%	35.9%	1.3%	0.0%	33.3%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	11.4%	26.6%	48.7%	1.6%	0.2%	11.6%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	15.7%	30.9%	42.4%	1.3%	0.4%	9.4%
	井の頭	253	9.1%	27.3%	50.6%	2.4%	0.4%	10.3%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	11.5%	30.5%	44.5%	0.8%	0.3%	12.5%
	新川 1、4-6、中原	445	13.3%	30.1%	44.7%	0.4%	0.9%	10.6%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	12.2%	26.4%	47.8%	1.4%	0.9%	11.3%
	大沢	201	16.9%	26.4%	44.3%	0.5%	0.0%	11.9%
所得段階	第 1～3 段階	719	14.5%	30.0%	39.1%	1.1%	0.3%	15.0%
	第 4～5 段階	678	13.6%	29.4%	43.8%	0.9%	0.4%	11.9%
	第 6～7 段階	572	12.1%	29.2%	46.7%	0.7%	0.7%	10.7%
	第 8～14 段階	720	10.8%	26.0%	54.4%	1.9%	0.4%	6.4%
住居形態	持家	2,001	11.3%	28.3%	49.1%	1.3%	0.5%	9.4%
	借家	343	16.6%	29.4%	37.6%	1.2%	0.3%	14.9%
	公営住宅	203	21.2%	33.5%	33.5%	0.0%	0.0%	11.8%
	その他	51	11.8%	23.5%	45.1%	0.0%	0.0%	19.6%
世帯構成	単身世帯	448	12.5%	27.7%	46.7%	0.7%	0.7%	11.8%
	夫婦二人世帯	1,035	13.9%	28.8%	46.8%	1.2%	0.6%	8.8%
	子と同居	783	13.4%	32.4%	42.3%	1.0%	0.3%	10.6%
	子・孫と同居	197	8.1%	23.9%	55.8%	2.0%	0.0%	10.2%
	その他	171	9.4%	22.2%	52.6%	2.3%	0.6%	12.9%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

6) 療養場所の希望

- 寝たきりのような状態になった時に「現在の自宅で、妻あるいは夫にみてもらいたい」が22.8%、「同居している子どもや嫁にみてもらいたい」が6.3%、「別居の子どもや嫁を現在の家に呼び寄せ、彼らにみてもらいたい」が1.7%、「現在の自宅を離れ、別居の子どもや嫁のところに行き、彼らにみてもらいたい」が0.6%であった。これらを『家族介護志向』とすると、その割合の合計は31.4%であった。「家族に頼るよりも主にヘルパーなど在宅福祉サービスを活用し、自宅で生活したい」といった『在宅サービス志向』の人は25.5%であった。「老人ホームなどの施設で生活したい」22.1%、「病院に入院したい」12.4%といった『施設介護志向』の人は34.5%であった。これは平成25年の調査結果（家族介護志向：29.0%、在宅サービス志向：24.1%、施設介護志向：37.2%）とほぼ同様の結果であった。
- 性別では、家族介護志向の割合は「男性」で43.0%と女性の22.1%の2倍であった。
- 高齢になるほど家族介護志向が増加し、「65～69歳」では24.7%であったが、「85歳以上」の人では41.6%と約2倍であった
- 認定状況によっても差がみられ、家族介護志向の割合は「認定なし」では30.6%であったが、「要介護1～2」と「要介護3～5」ではそれぞれ43.3%、38.5%と高かった。在宅サービス志向の人は「認定なし」では26.6%であるが、「要介護1～2」と「要介護3～5」ではそれぞれ12.0%と10.3%と低かった。
- 日常生活圏域別では、施設志向の割合は「下連雀1-4、上連雀1-5」では40.8%と最も高く、「井の頭」は28.1%で最も低かった。
- 所得段階別では、家族介護志向の割合は「第1～3段階」では22.3%であったが、「第8～14段階以上」では40.8%と高かった。在宅サービス志向の割合は所得段階が低い方で高かった
- 住居形態別では、施設志向の割合は「持家」の人では32.5%と、「借家」の44.0%と比較して10ポイント以上低かった。
- 世帯構成別では、「単身世帯」では施設志向の割合が50.2%で、他の世帯よりも20ポイント程度高かった。

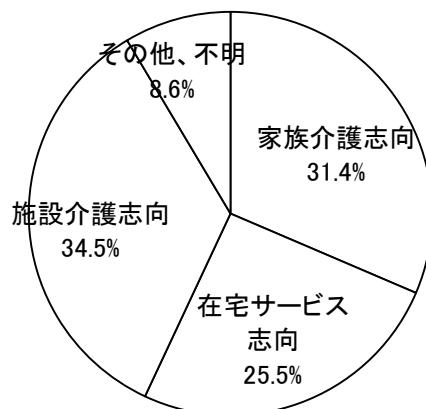


図 1-10-6 療養場所の希望

表 1-10-7 療養場所の希望

		人数	家族介護 志向	在宅サービス 志向	施設介護 志向	その他 不明
総数		2,698	31.4%	25.5%	34.5%	8.6%
性別	男性	1,198	43.0%	17.3%	31.4%	8.3%
	女性	1,491	22.1%	32.1%	37.0%	8.7%
年齢階級	65～69歳	713	24.7%	27.9%	39.4%	8.0%
	70～74歳	620	31.0%	27.1%	34.5%	7.4%
	75～79歳	565	30.4%	30.1%	30.6%	8.8%
	80～84歳	428	36.0%	22.7%	31.5%	9.8%
	85歳以上	363	41.6%	14.3%	34.4%	9.6%
認定状況	認定なし	2,317	30.6%	26.6%	35.6%	7.2%
	要支援 1・2	144	28.5%	29.9%	30.6%	11.1%
	要介護 1・2	150	43.3%	12.0%	30.0%	14.7%
	要介護 3～5	78	38.5%	10.3%	19.2%	32.1%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	27.8%	22.6%	40.8%	8.7%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	32.6%	23.6%	34.9%	9.0%
	井の頭	253	30.4%	33.6%	28.1%	7.9%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	32.3%	25.5%	33.5%	8.8%
	新川 1、4-6、中原	445	34.4%	26.7%	31.2%	7.6%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	31.9%	25.2%	34.5%	8.4%
	大沢	201	30.8%	25.9%	33.3%	10.0%
所得段階	第 1～3 段階	719	22.3%	27.7%	38.9%	11.1%
	第 4～5 段階	678	29.5%	30.7%	30.5%	9.3%
	第 6～7 段階	572	33.4%	24.7%	33.9%	8.0%
	第 8～14 段階	720	40.8%	19.2%	34.3%	5.7%
住居形態	持家	2,001	33.7%	26.7%	32.5%	7.0%
	借家	343	25.1%	20.4%	44.0%	10.5%
	公営住宅	203	27.6%	31.5%	31.0%	9.9%
	その他	51	13.7%	3.9%	56.9%	25.5%
世帯構成	単身世帯	448	9.2%	31.3%	50.2%	9.4%
	夫婦二人世帯	1,035	38.0%	24.3%	31.0%	6.7%
	子と同居	783	38.1%	23.5%	30.7%	7.8%
	子・孫と同居	197	39.1%	28.4%	25.9%	6.6%
	その他	171	19.3%	25.1%	42.7%	12.9%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

11. 認知症支援

1) 認知症の方と接する機会

- 家族、親戚など身近に認知症の方はいるかどうかについて質問したところ、16.8%が「いる」と回答し、そのうち19.5%が同居家族であった。
- 属性別に見ると、性、認定状況、所得段階、住居形態に関しては特に差は見られなかった。年齢階級別では、「65～69歳」では身近にいる人の割合が23.0%と他の年齢階級よりも割合が高かった。日常生活圏域別では、「下連雀5-9、上連雀6-9、野崎1」では身近にいる人の割合が13.2%と、他地域と比べて割合が低かった。世帯構成別では、「子・孫と同居」の世帯では38.7%と、他の世帯構成と比べて身近に認知症の人がいる割合が高い傾向が見られた。

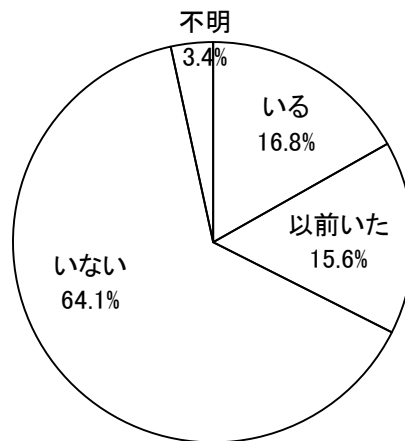


図1-11-1 身近に認知症の人がいるか

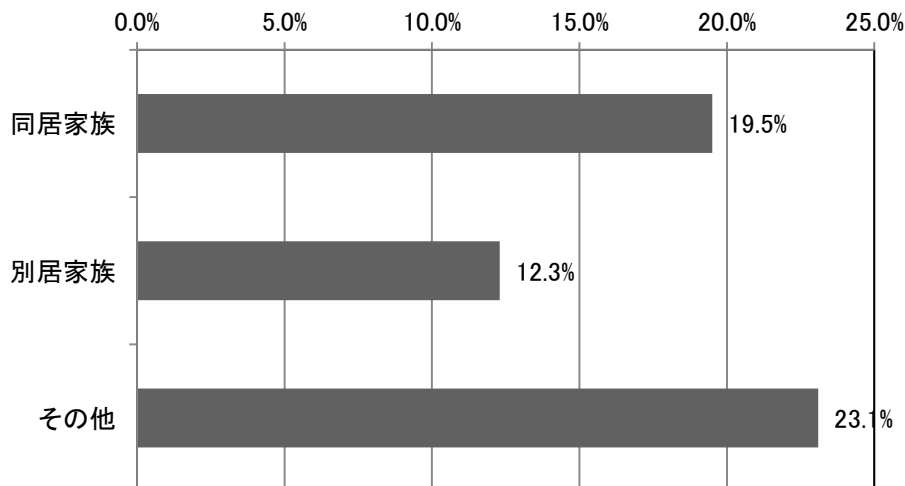


図 1-11-2 身近にいる認知症の人との続柄

表 1-11-1 身近に認知症の人がいるか

		人数	いる	以前いた	いない	不明
総数		2,698	16.8%	15.6%	64.1%	3.4%
性別	男性	1,198	16.3%	21.6%	65.8%	3.8%
	女性	1,491	17.4%	16.8%	62.6%	3.2%
年齢階級	65～69歳	713	23.0%	14.4%	60.0%	2.5%
	70～74歳	620	15.8%	21.3%	60.0%	2.9%
	75～79歳	565	13.6%	14.7%	69.4%	2.3%
	80～84歳	428	12.9%	13.6%	69.9%	3.7%
	85歳以上	285	16.5%	12.1%	63.6%	7.7%
認定状況	認定なし	2,317	16.8%	16.0%	64.4%	2.8%
	要支援 1・2	144	16.7%	16.0%	63.2%	4.2%
	要介護 1・2	150	17.3%	10.7%	62.7%	9.3%
	要介護 3～5	78	17.9%	14.1%	59.0%	9.0%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	17.1%	16.9%	61.7%	4.3%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	13.2%	15.9%	67.0%	4.0%
	井の頭	253	17.4%	16.6%	64.4%	1.6%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	18.3%	13.5%	65.3%	3.0%
	新川 1、4-6、中原	445	16.6%	15.7%	63.4%	4.3%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	18.8%	12.2%	66.4%	2.6%
	大沢	201	18.4%	20.4%	58.2%	3.0%
所得段階	第 1～3 段階	719	14.5%	14.3%	66.1%	5.1%
	第 4～5 段階	678	18.4%	18.0%	60.2%	3.4%
	第 6～7 段階	572	16.3%	16.3%	64.0%	3.5%
	第 8～14 段階	720	18.3%	14.2%	65.7%	1.8%
住居形態	持家	2,001	17.7%	16.2%	63.6%	2.5%
	借家	343	13.7%	14.0%	68.2%	4.1%
	公営住宅	203	13.3%	11.8%	69.0%	5.9%
	その他	51	13.7%	15.7%	66.7%	3.9%
世帯構成	単身世帯	448	12.9%	12.7%	71.7%	2.7%
	夫婦二世帯	1,035	17.9%	15.5%	63.2%	3.5%
	子と同居	733	16.2%	16.2%	64.4%	3.2%
	子・孫と同居	197	38.7%	33.1%	18.8%	7.2%
	その他	171	28.7%	13.5%	55.6%	2.3%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

2) 認知症について学ぶ機会

- 認知症についての知識や接し方などを学ぶ講座の受講経験や受講希望を質問したところ、「受講したことがある」という人は12.1%、「受講したい」という人は26.7%であった。
- 性別では、男性よりも女性のほうが受講経験者や受講希望者の割合が高かった。
- 年齢階級別では、「80歳以上」では受講経験者や受講希望者の割合が低かった。
- 認定状況別では、要介護度が高いほど受講経験者や受講希望者の割合は低かった。
- 所得段階が「第1～3段階」の人では、受講経験者や受講希望者の割合が低かった。
- 住居形態別では、「持家」の人で受講経験者や受講希望者の割合が高かった。

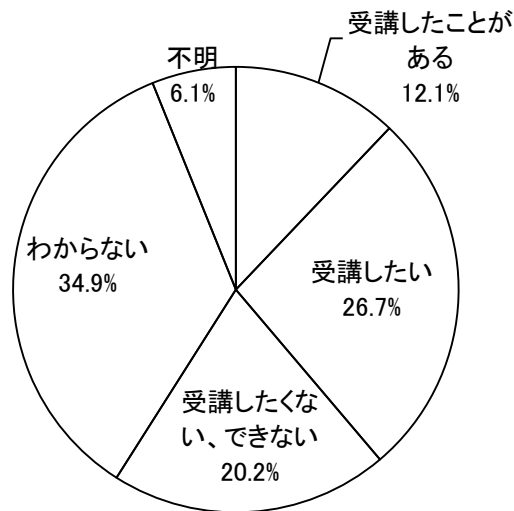


図 1-11-3 認知症について学ぶ講座を受講したいか

表 1-11-2 認知症について学ぶ講座の受講経験・受講希望

		人数	受講したことがある	受講したい	受講したくない、できない	わからない	不明
総数		2,698	12.1%	26.7%	20.2%	34.9%	6.1%
性別	男性	1,198	9.3%	25.6%	22.0%	37.7%	5.3%
	女性	1,491	14.4%	27.8%	18.6%	32.5%	6.8%
年齢階級	65～69歳	713	11.5%	29.6%	14.7%	41.5%	2.7%
	70～74歳	620	12.3%	29.8%	17.9%	32.7%	7.3%
	75～79歳	565	13.6%	32.2%	18.1%	31.3%	4.8%
	80～84歳	428	12.1%	19.2%	25.5%	36.2%	7.0%
	85歳以上	363	10.7%	16.8%	31.4%	29.2%	11.8%
認定状況	認定なし	2,317	13.1%	28.7%	17.5%	35.5%	5.2%
	要支援 1・2	144	6.3%	25.7%	29.9%	29.9%	8.3%
	要介護 1・2	150	6.0%	10.0%	37.3%	34.0%	12.7%
	要介護 3～5	78	6.4%	5.1%	46.2%	25.6%	16.7%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	13.7%	26.9%	20.1%	33.9%	5.7%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	10.0%	24.4%	21.7%	36.3%	7.5%
	井の頭	253	12.3%	30.4%	17.0%	33.2%	7.1%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	12.8%	26.5%	20.0%	35.3%	5.5%
	新川 1、4-6、中原	445	9.2%	25.4%	21.1%	38.7%	5.6%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	12.8%	31.9%	17.1%	32.2%	6.1%
	大沢	201	16.9%	23.9%	23.4%	31.3%	4.5%
所得段階	第 1～3 段階	719	9.7%	22.0%	24.3%	36.0%	7.9%
	第 4～5 段階	678	15.3%	26.4%	17.8%	34.1%	6.3%
	第 6～7 段階	572	11.5%	26.9%	17.8%	38.6%	5.1%
	第 8～14 段階	720	11.9%	31.9%	19.9%	31.4%	4.9%
住居形態	持家	2,001	13.4%	28.3%	19.6%	33.3%	5.3%
	借家	343	8.7%	22.2%	19.5%	43.7%	5.8%
	公営住宅	203	8.9%	22.7%	25.6%	35.0%	7.9%
	その他	51	7.8%	9.8%	33.3%	39.2%	9.8%
世帯構成	単身世帯	448	10.5%	25.9%	21.2%	35.0%	7.4%
	夫婦二世帯	1,035	11.3%	31.9%	18.2%	33.5%	5.1%
	子と同居	733	13.0%	24.5%	22.1%	35.5%	4.9%
	子・孫と同居	197	14.7%	25.9%	18.3%	36.5%	4.6%
	その他	171	14.6%	15.2%	24.0%	40.9%	5.3%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

3) 認知症に関する知識

- 認知症に関する知識を問う4つの設問を用意し^(注)、認知症に関する理解度を調べた。
「アルツハイマー、脳血管性などのいくつかの種類がある」「初老期でも高齢期でも起こるが、高齢期に起こることが多い」「現在のところ多くの場合、原因は不明である」は「そう思う」を、「脳の老化によるものなので、年をとると誰もがなる」は「そう思わない」を正答とした。
- 「アルツハイマー、脳血管性などのいくつかの種類がある」「初老期でも高齢期でも起こるが、高齢期に起こることが多い」「脳の老化によるものなので、年をとると誰もがなる」については、6割前後が正答していた。「現在のところ多くの場合、原因は不明である」の正答率は4割弱であった。
- 認知症に関する知識を問う4つの設問について、正解の場合を1点、不正解やわからない場合を0点として単純加算をした(不明・無回答の者は除外した)。その平均値を属性別にみると、高齢になるほど、介護度が高くなるほど、所得段階が低いほど、知識得点が減少する傾向が見られた。また、住居形態別では「持家」の人で、世帯構成別では「夫婦二人世帯」で知識得点が高い傾向が見られた。

表 1-11-3 認知症に関する知識

	人数	そう思う	そう思わない	わからない	不明
「アルツハイマー」「脳血管性」などのいくつかの種類がある	2,698	66.3%	1.7%	25.3%	6.7%
初老期でも高齢期でも起こるが、高齢期に起こることが多い	2,698	65.5%	12.0%	15.8%	6.6%
脳の老化によるものなので、年をとると誰もがなる	2,698	18.1%	58.3%	17.3%	6.3%
現在のところ多くの場合、原因は不明である	2,698	37.8%	21.7%	33.6%	6.9%

注) 認知症に関する知識を問う設問については、「杉山京，中尾竜二，澤田陽一[他]：地域住民を対象とした家族に認知症症状が見られた場合の受診促進意向と認知症に対する受容態度との関連。厚生学の指標，60(13)，22-29，2013」を参考に作成した。

表 1-11-4 認知症に関する知識の得点の平均値

		人数	平均
総数		2,474	2.4
性別	男性	1,108	2.4
	女性	1,359	2.5
年齢階級	65～69歳	691	2.6
	70～74歳	579	2.5
	75～79歳	529	2.4
	80～84歳	378	2.2
	85歳以上	290	2.2
認定状況	認定なし	2,173	2.5
	要支援 1・2	122	2.3
	要介護 1・2	113	1.8
	要介護 3～5	59	1.8
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	517	2.5
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	434	2.3
	井の頭	233	2.6
	牟礼、北野、新川 2-3	366	2.4
	新川 1、4-6、中原	414	2.3
	野崎 2-4、井口、深大寺	312	2.5
	大沢	187	2.5
所得段階	第 1～3 段階	625	2.2
	第 4～5 段階	630	2.5
	第 6～7 段階	535	2.4
	第 8～14 段階	677	2.6
住居形態	持家	1,871	2.5
	借家	304	2.2
	公営住宅	178	2.2
	その他	42	1.9
世帯構成	単身世帯	402	2.3
	夫婦二世帯	972	2.6
	子と同居	717	2.4
	子・孫と同居	183	2.4
	その他	162	2.4

注) 属性が不明なケースや知識得点の項目が不明・無回答であったケースは除外して分析した。

4) 認知症に対する態度

- 表 1-11-5 に示した 4 つの設問を用いて^(注)、認知症に対する態度を調べた。「認知症になっても、その人の意思を尊重できる」「家族が認知症になったら、協力を得るために近所の人や知人などにも知っておいてほしい」「自分が認知症になったら、まわりの人の手を借りながら自宅での生活を続けたい」については、5 割以上が「そう思う」「ややそう思う」と回答していた。一方、「身近に認知症の人がいたら、手助けできる」については、4 割弱にとどまった。
- 「そう思う」を 5 点、「ややそう思う」を 4 点、「どちらでもない」を 3 点、「あまり思わない」を 2 点、「まったく思わない」を 1 点として単純加算を行った。得点が高いほど、認知症に対して受容的な態度であるとみなすことができる（不明・無回答のケースは除外した）。認知症に対する態度得点の平均値を属性ごとに算出したが、属性による大きな差は見られなかった。

表 1-11-5 認知症に対する態度

	人数	そう 思う	ややそう 思う	どちら でもない	あまり 思わない	まったく 思わない	不明
認知症になっても、その人の 意思を尊重できる	2,698	23.9%	34.2%	21.6%	8.6%	1.8%	9.9%
身近に認知症の人がいたら 手助けできる	2,698	14.2%	25.8%	26.3%	16.1%	7.7%	9.9%
家族が認知症になったら、協力 を得るために近所の人や知人な ども知っておいてほしい	2,698	31.6%	29.0%	14.7%	10.8%	4.2%	9.6%
自分が認知症になったら、まわり の人の手を借りながら自宅での 生活を続けたい	2,698	27.5%	25.4%	16.2%	15.0%	7.5%	8.3%

注) 認知症に関する態度については、「杉山京，中尾竜二，澤田陽一[他]：地域住民を対象とした家族に認知症症状が見られた場合の受診促進意向と認知症に対する受容態度との関連．厚生学の指標，60(13)，22-29，2013」を参考に作成した。

表 1-11-6 認知症に対する態度

		人数	平均
総数		2,351	14.2
性別	男性	1,073	14.1
	女性	1,269	14.4
年齢階級	65～69歳	672	14.1
	70～74歳	562	14.2
	75～79歳	500	14.3
	80～84歳	360	14.2
	85歳以上	248	14.7
認定状況	認定なし	2,090	14.2
	要支援 1・2	111	14.4
	要介護 1・2	98	14.5
	要介護 3～5	43	14.5
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	489	14.3
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	412	14.2
	井の頭	226	14.2
	牟礼、北野、新川 2-3	342	14.1
	新川 1、4-6、中原	385	14.2
	野崎 2-4、井口、深大寺	302	14.4
	大沢	182	14.5
所得段階	第 1～3 段階	569	14.4
	第 4～5 段階	607	14.3
	第 6～7 段階	511	14.2
	第 8～14 段階	655	14.1
住居形態	持家	1,791	14.2
	借家	287	14.3
	公営住宅	163	14.5
	その他	36	14.0
世帯構成	単身世帯	366	14.4
	夫婦二世帯	942	14.2
	子と同居	688	14.2
	子・孫と同居	175	14.4
	その他	155	14.0

注) 属性が不明なケースや知識得点の項目が不明・無回答であったケースは除外して分析した。

5) 認知症の受診に対する意識

- 「自分が認知症かもしれないと感じたとしても、すぐに病院に行くことには抵抗感がある」という設問を用いて、認知症の受診に対する抵抗感を調べた。その結果、3割強が「そう思う」「ややそう思う」と回答しており、多少とも受診に抵抗を感じていた。
- 属性別に見ると、性別には大きな差はみられなかったが、年齢階級別でみると、多少差があり、「65～69歳」は、「そう思う」「ややそう思う」と回答したものは32.1%で、他の年齢階級に比べて抵抗感のある人の割合が低い傾向が見られた。

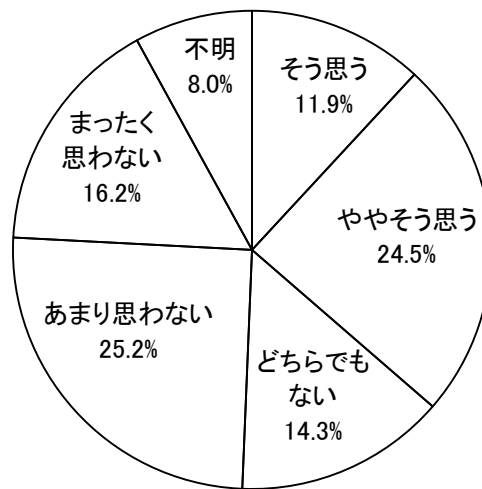


図 1-11-4 認知症の受診に対する意識

表 1-11-7 自分が認知症かもしれないと感じたとしても、すぐに病院に行くことには抵抗感がある

		人数	そう思う	ややそう 思う	どちら でもない	あまり 思わない	まったく 思わない	不明
総数		2,698	11.9%	24.5%	14.3%	25.2%	16.2%	8.0%
性別	男性	1,198	11.8%	25.2%	16.8%	25.2%	14.2%	6.8%
	女性	1,491	11.8%	23.8%	12.5%	25.2%	17.8%	8.9%
年齢階級	65～69歳	713	7.3%	24.8%	14.4%	32.1%	18.2%	3.1%
	70～74歳	620	11.6%	24.8%	14.4%	26.5%	17.6%	5.2%
	75～79歳	565	11.3%	26.4%	15.2%	24.1%	16.1%	6.9%
	80～84歳	428	14.5%	23.8%	14.5%	22.2%	15.0%	10.0%
	85歳以上	285	18.5%	20.7%	12.9%	14.9%	11.3%	21.8%
認定状況	認定なし	2,317	11.0%	24.9%	14.8%	26.9%	16.6%	5.8%
	要支援 1・2	144	16.7%	27.8%	9.7%	20.8%	13.2%	11.8%
	要介護 1・2	150	20.0%	16.0%	12.7%	12.0%	15.3%	24.0%
	要介護 3～5	78	10.3%	20.5%	14.1%	9.0%	11.5%	34.6%
日常生活圏域	下連雀 1-4、上連雀 1-5	561	10.3%	23.5%	11.9%	26.6%	20.3%	7.3%
	下連雀 5-9、上連雀 6-9、野崎 1	479	11.3%	24.2%	16.5%	23.8%	16.3%	7.9%
	井の頭	253	9.1%	21.7%	14.6%	27.7%	19.4%	7.5%
	牟礼、北野、新川 2-3	400	13.5%	27.8%	12.0%	23.3%	15.0%	8.5%
	新川 1、4-6、中原	445	10.6%	24.9%	17.1%	25.6%	13.7%	8.1%
	野崎 2-4、井口、深大寺	345	14.2%	22.3%	12.2%	28.7%	12.5%	10.1%
	大沢	201	15.9%	26.4%	18.4%	18.9%	14.4%	6.0%
所得段階	第 1～3 段階	719	13.5%	21.6%	15.0%	18.9%	17.2%	13.8%
	第 4～5 段階	678	11.2%	24.9%	13.0%	27.7%	17.1%	6.0%
	第 6～7 段階	572	10.5%	26.6%	15.0%	26.0%	15.7%	6.1%
	第 8～14 段階	720	11.7%	25.1%	14.6%	28.5%	14.6%	5.6%
住居形態	持家	2,001	11.7%	24.9%	13.2%	27.3%	16.3%	6.5%
	借家	343	12.0%	28.0%	16.9%	19.8%	15.2%	8.2%
	公営住宅	203	13.3%	19.7%	18.2%	20.2%	15.8%	12.8%
	その他	51	15.7%	3.9%	25.5%	13.7%	19.6%	21.6%
世帯構成	単身世帯	448	12.9%	25.7%	14.1%	19.4%	19.0%	8.9%
	夫婦二人世帯	1,035	11.5%	23.4%	14.8%	29.0%	15.9%	5.4%
	子と同居	783	11.9%	26.4%	14.9%	24.4%	15.5%	6.9%
	子・孫と同居	197	14.2%	25.4%	11.2%	27.9%	13.7%	7.6%
	その他	171	9.4%	24.0%	15.2%	24.6%	18.7%	8.2%

注) クロス集計については、属性が不明なケースは除外して分析した。

12. 市の施策への要望

- 寝たきりや重度の認知症になっても、住み慣れた生活場所で最期まで過ごすためにはどのような支援が必要だと思うか、複数回答で選んでもらったところ、最も多かったのは「緊急時に入院できる病院や施設」71.9%で、2番目は「医師による往診」66.5%、3番目は「看護師が自宅を訪問してケアする訪問看護」65.1%であった。最期を想定する際に、医療的なサービスのニーズが高まることが分かる。

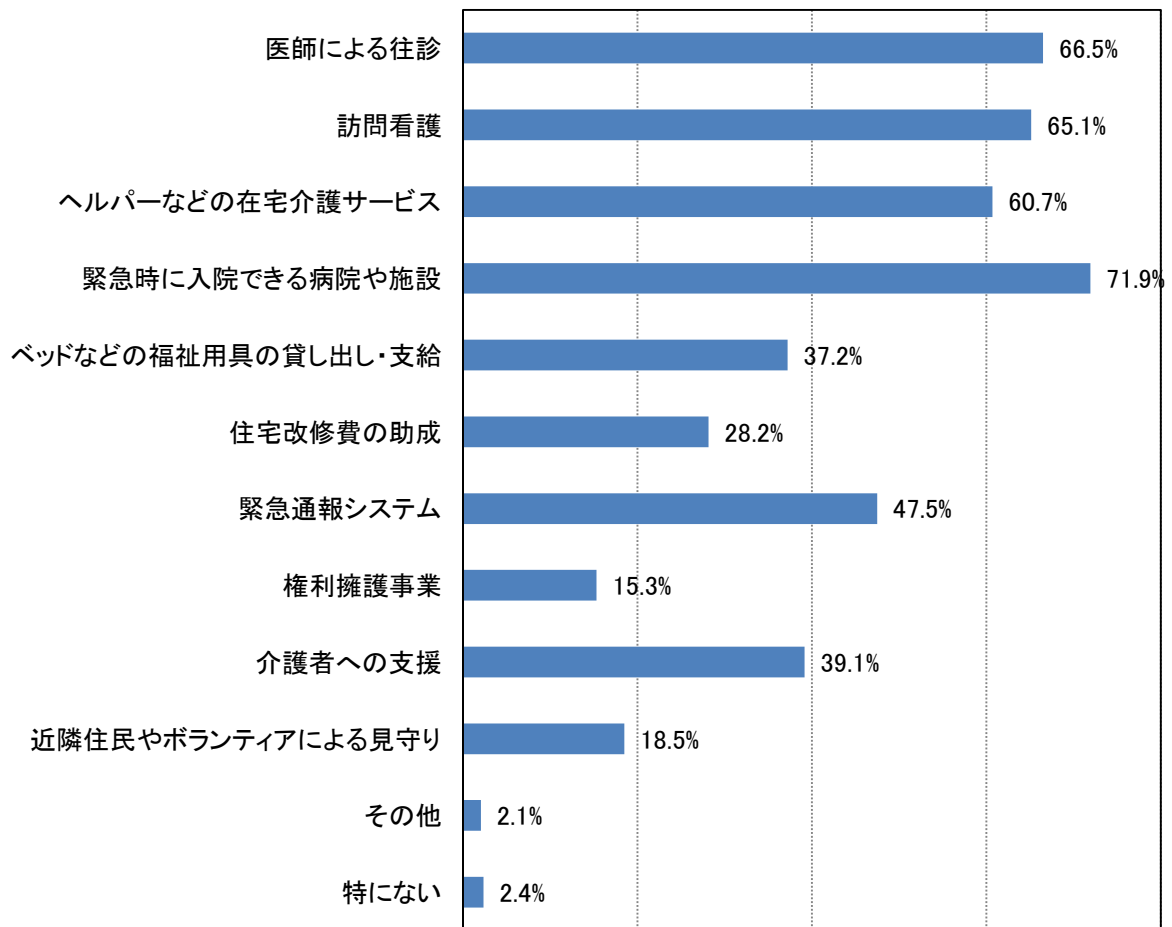


図1-12-1 寝たきりや重度の認知症になっても、住み慣れた生活場所で最期まで過ごすための支援

- 高齢者に対する政策や支援のうち、今後、特に力を入れてほしい政策や支援について複数回答で選んでもらったところ、最も多かったのは「往診などの在宅医療支援」64.1%で、2番目は「ヘルパーなどの在宅介護支援」60.4%、3番目は「老人ホームなどの施設介護支援」50.5%であった。介護や医療に期待する意見が多いことがわかった。
- 「高齢者に配慮した町づくり」32.4%や「高齢者向けの住宅」21.8%といった「住まいや住環境、地域環境」に関する要望も2~3割の人が力を入れてほしい政策・支援として挙げていた。
- 「働く場」「介護予防」といった社会参加や社会活動関連の施策については、社会保障関連の項目と比べると要望として挙げる人が少なかった。

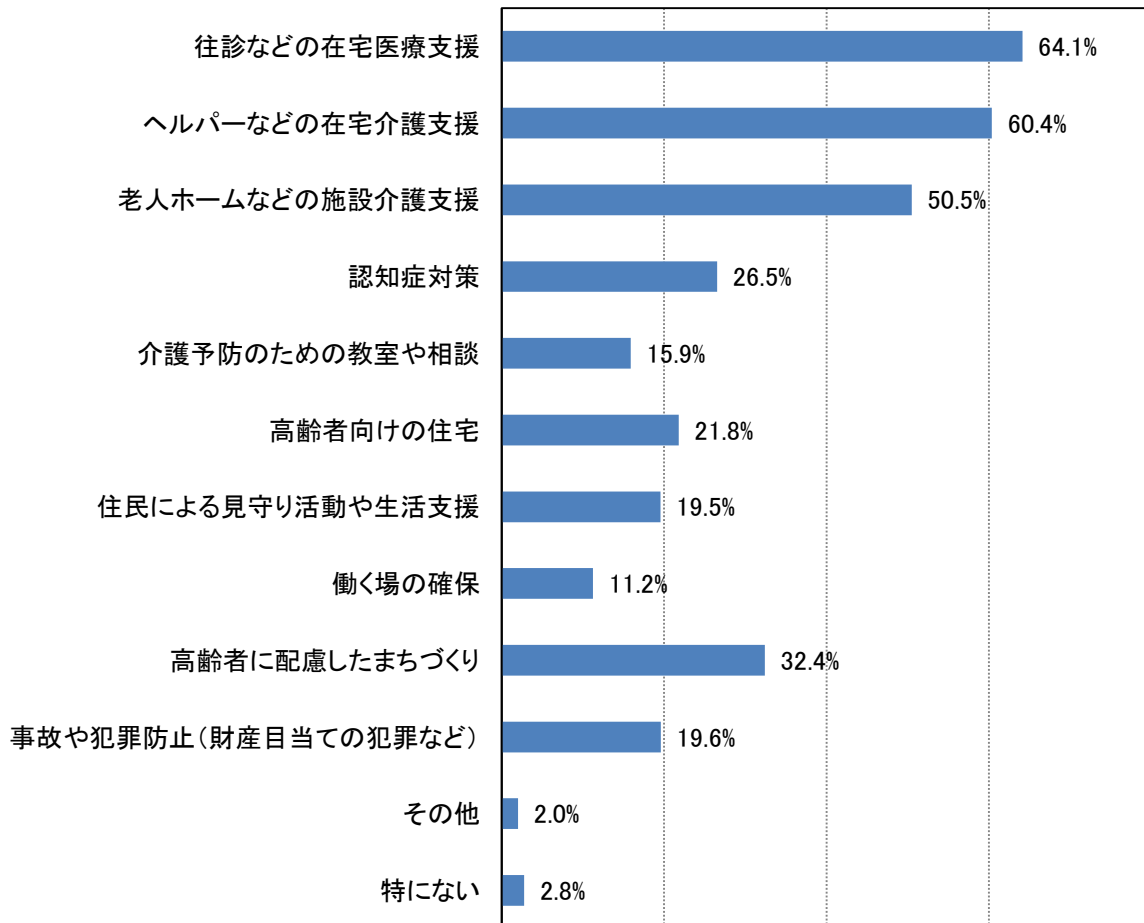


図1-12-2 特に力を入れてほしい「高齢者に関する政策や支援」(複数回答)